

泉大津市図書館整備基本構想

平成 31 年 3 月

泉大津市教育委員会

目次

第1章 構想策定の趣旨	1
第2章 泉大津市のすがた	2
第1節 人口	2
第2節 地勢、交通	5
第3節 産業	7
第3章 泉大津市立図書館の現状	8
第1節 泉大津市立図書館の現状	8
第2節 読書に関する取り組み	11
第3節 図書館のあり方についての市民ニーズ	13
第4章 図書館を取り巻く環境の変化	17
第5章 新しい図書館整備に向けた課題	24
第6章 泉大津市における図書館のあり方	26
第1節 泉大津市における図書館のあり方	26
第2節 新図書館の整備方針	27
第3節 具体的な施設と機能	32
第7章 新図書館の整備計画	34
第1節 候補施設の現状と選定理由について	34
第2節 施設配置	35
第3節 整備費用と運営費用（概略）	39
第8章 運営について	40
第9章 今後のスケジュール（予定）	43
第10章 参考資料	44
第1節 泉大津市図書館整備検討委員会	44
第2節 各種意向調査	45

第1章 構想策定の趣旨

1 構想策定の趣旨と背景

近年、人口減少、少子高齢化、地方分権、高度情報化、国際化などが急速に進むなかで、社会構造の変化、地域の課題の増加や複雑化等に対応した図書館サービスの見直しが急務となっている。

図書館は地域における「知の拠点」として、市民の生涯にわたる自主的な学習活動を支え、促進する役割を果たす必要がある。

さらに近年は、人々の支え合いと活気ある社会づくりに向けて一人ひとりが新しい公共の担い手となることが求められるなかで、地域が抱える様々な課題解決の支援や、地域の実情に応じた情報提供サービスなど幅広い観点から社会貢献することが期待されている。

現在の泉大津市立図書館（以下「現図書館」という）は、1983（昭和58）年の開館以来、多様な情報・資料・学習機会を提供し、市民にとって身近な図書館として親しまれてきた。

しかし、現図書館は建設から35年が経過し、開架図書が少なく閲覧スペースが狭い、時代に対応した情報機器を利用するスペースがない、施設や設備の老朽化による安全性や快適性の問題等が顕在化しつつある。また、今日、市民が図書館に求めるニーズも多様化・複雑化しつつあることから、図書館のサービス向上に向けた改善が求められている。

2 本構想の位置付け

泉大津市図書館整備基本構想（以下、「本構想」という。）は、施設や設備の老朽化が進む現図書館を魅力ある図書館とするため、泉大津駅前商業施設内へ移転することを前提とし、多様な市民の意向を把握、反映し、泉大津市における新たな図書館に求める施設像、役割、機能、運営内容、規模等の具体的な姿を示すものであり、策定後の基本設計、実施設計に反映させるための基礎資料として位置付ける。

第2章 泉大津市のすがた

第1節 人口

日本は今人口減少社会に突入しており、国は2014（平成26）年12月にまち・ひと・しごと創生総合戦略を公表し、人口問題から日本の現状と将来予測を明確にした。

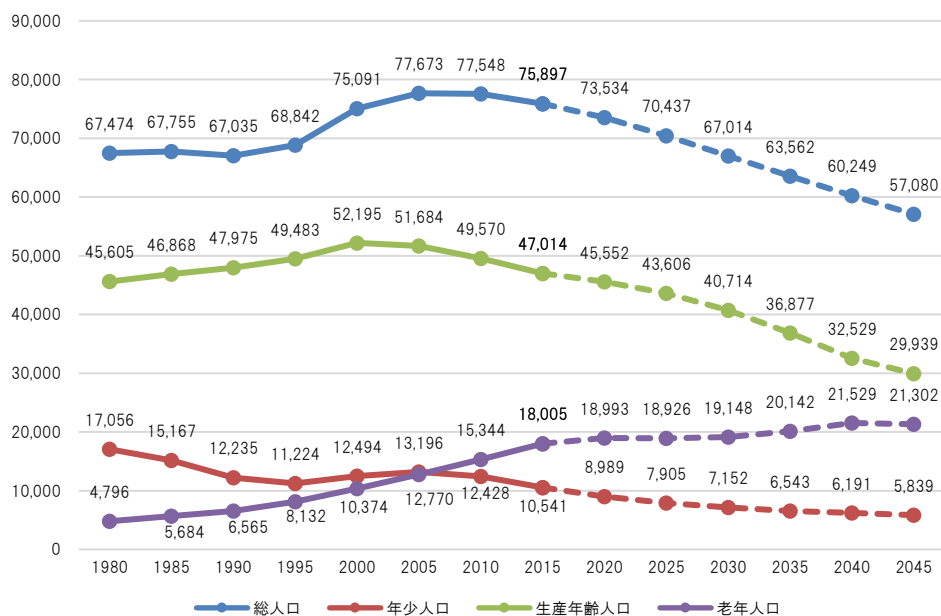
泉大津市（以下「本市」という。）では2010（平成22）年に約7万5千人であった人口は、30年後の2040（平成52）年には約6万4,900人まで減少するという予測を受け、その課題に取り組むため2015（平成27）年10月に泉大津市人口ビジョン、泉大津市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定して、人口減少問題に取り組んでいる。

1 総人口の推移

本市の人口は、2005（平成17）年の77,673人をピークに人口減少傾向に入っている。また年少人口と老年人口も同じく2005（平成17）年を境に逆転し、少子化高齢化が進んでいる。

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計によると、この傾向は続き、高齢者の増加、働き手と子どもたちの減少は今後も続くと予測されている。

図表 2-1 泉大津市人口推移

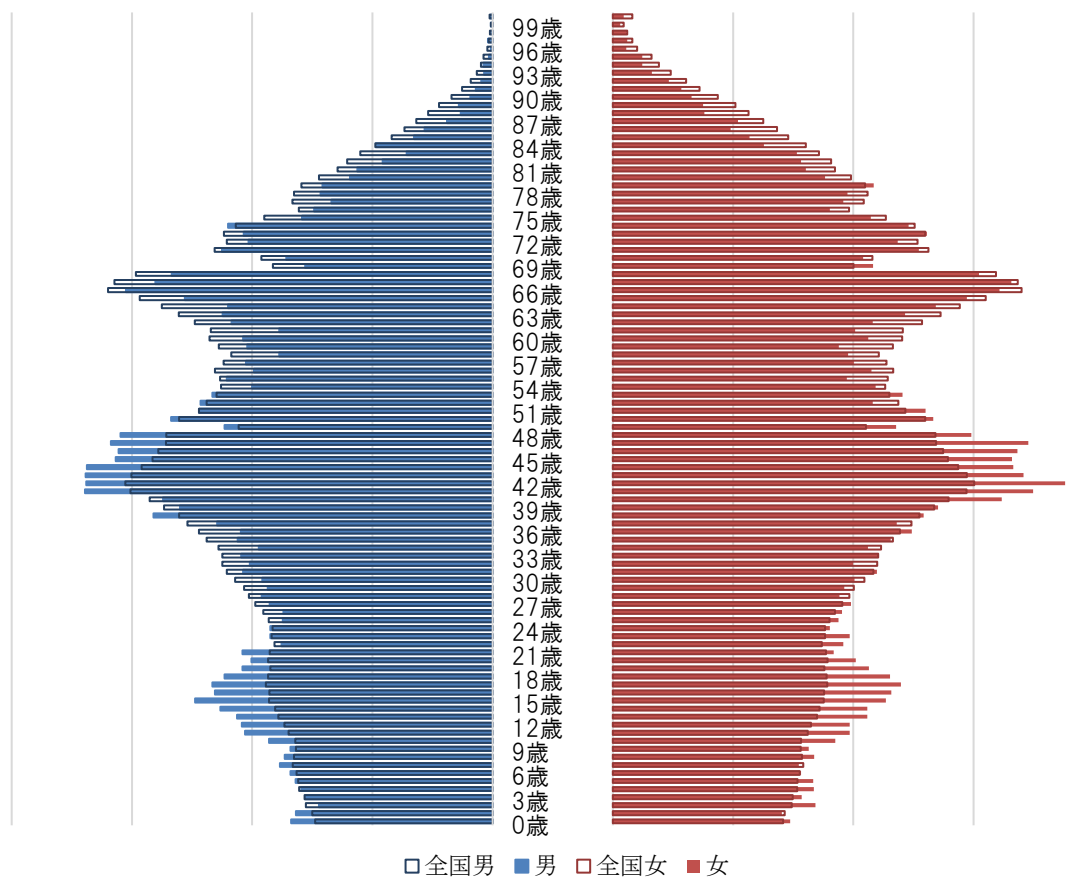


出典) 1980年-2015年 国勢調査
2020年以降 国立社会保障・人口問題研究所 平成30年3月人口推計

2 人口ピラミッド

本市の人口ピラミッドを見てみると、60代後半、40代、10代に山があることが分かる。特に40代、10代については、全国の人口割合よりも多くなっており、子育て世代が多いまちであることが分かる。

図表 2-2 泉大津市人口ピラミッド



出典) 平成 27 年国勢調査

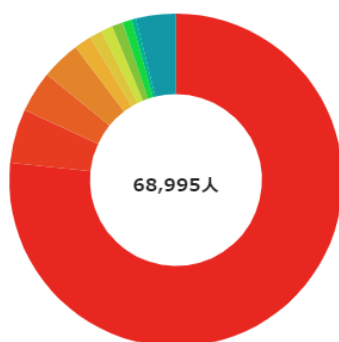
3 昼夜間人口

昼間人口と夜間人口を比較すると、昼夜間人口比率が 90.91% となり、通勤者、通学者において、市内から流失していることが分かる。

図表 2-3 平成 27 年泉大津市 昼間人口・夜間人口の構成割合

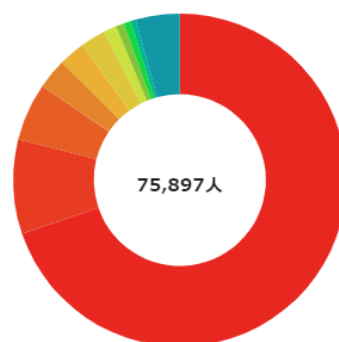
昼間人口：68,995人
 夜間人口：75,897人
 (昼夜間人口比率：90.91%)

昼間人口
 (指定地域内に日中滞在する人の居住地)



- 1位 大阪府泉大津市 52,890人 (76.66%)
- 2位 大阪府和泉市 3,636人 (5.27%)
- 3位 大阪府岸和田市 2,769人 (4.01%)
- 4位 大阪府堺市 2,594人 (3.76%)
- 5位 大阪府高石市 1,178人 (1.71%)
- 6位 大阪府大阪市 852人 (1.23%)
- 7位 大阪府貝塚市 763人 (1.11%)
- 8位 大阪府忠岡町 722人 (1.05%)
- 9位 大阪府泉佐野市 623人 (0.90%)
- 10位 大阪府泉南市 304人 (0.44%)
- その他 2,664人 (3.86%)

夜間人口
 (指定地域内に居住する人の日中の滞在地)



- 1位 大阪府泉大津市 52,954人 (69.77%)
- 2位 大阪府大阪市 6,948人 (9.15%)
- 3位 大阪府堺市 4,279人 (5.64%)
- 4位 大阪府和泉市 2,235人 (2.94%)
- 5位 大阪府岸和田市 1,914人 (2.52%)
- 6位 大阪府高石市 1,865人 (2.46%)
- 7位 大阪府泉佐野市 959人 (1.26%)
- 8位 大阪府忠岡町 597人 (0.79%)
- 9位 大阪府貝塚市 526人 (0.69%)
- 10位 大阪府東大阪市 381人 (0.50%)
- その他 3,239人 (4.28%)

出典) RESAS

第2節 地勢、交通

1 地勢

本市は、大阪府の南部に位置し、高石市、和泉市、忠岡町と隣接している。市域 13.56 km²とコンパクトなまちであり、西部は大阪湾に面し、大津の名の通り古くから港町として栄えてきた。

また、最も標高の高い場所でも 20m に達しておらず、市内全域がほぼ平坦で徒歩や自転車で移動しやすい。



図表 2-4 位置図

出典) 第4次泉大津市総合計画

2 交通

(1) 鉄道

大阪・難波を起点とする南海本線が本市西部を縦断し、北助松駅、松ノ浜駅、泉大津駅と3駅があり、隣接する和泉市内にある JR 阪和線には和泉府中駅が存在し、駅の徒歩圏内（半径 800m）に市域の約 4 割が含まれている。また、泉大津駅から和泉府中駅まではバスが通っており、東西の交通を担っている。

泉大津駅は急行停車駅となっており、難波まで約 20 分、関西国際空港まで約 25 分で結んでいる。2017（平成 29）年の泉大津駅の 1 日平均の乗降人員数は 28,682 人となっている。

狭い市域内に南海本線、JR 阪和線の 2 線利用できること、関西国際空港へのアクセスも良く、交通利便性地域として通勤や海外旅行への立地の優位性がある。

図表 2-5 平成 29 年 泉大津市内駅 1 日平均乗降人員数

北助松駅	松ノ浜駅	泉大津駅
12,595 人	3,967 人	28,682 人

出典) 南海電気鉄道株式会社

(2) 道路

本市西部の港湾部には阪神高速4号湾岸線が通っており、市内には泉大津ICが整備されている。また、北部には堺泉北有料道路が整備されており、助松JCTにより阪神高速4号湾岸線と連絡している。

(3) バス

市内には路線バスやふれあいバスが走っており、自動車による交通利便性も高い地域となっている。

ふれあいバスは、総合福祉センターを起点として、北回りコース、中回りコース、南回りコースの3コースを、それぞれ1日5便ずつ、泉大津駅や市役所を中心にして市内を循環している。

図表 2-6 ふれあいバス路線図



(4) その他

本市は、泉大津港があり、海上交通として泉大津港と福岡県の新門司港を結ぶカーフェリーが就航している。

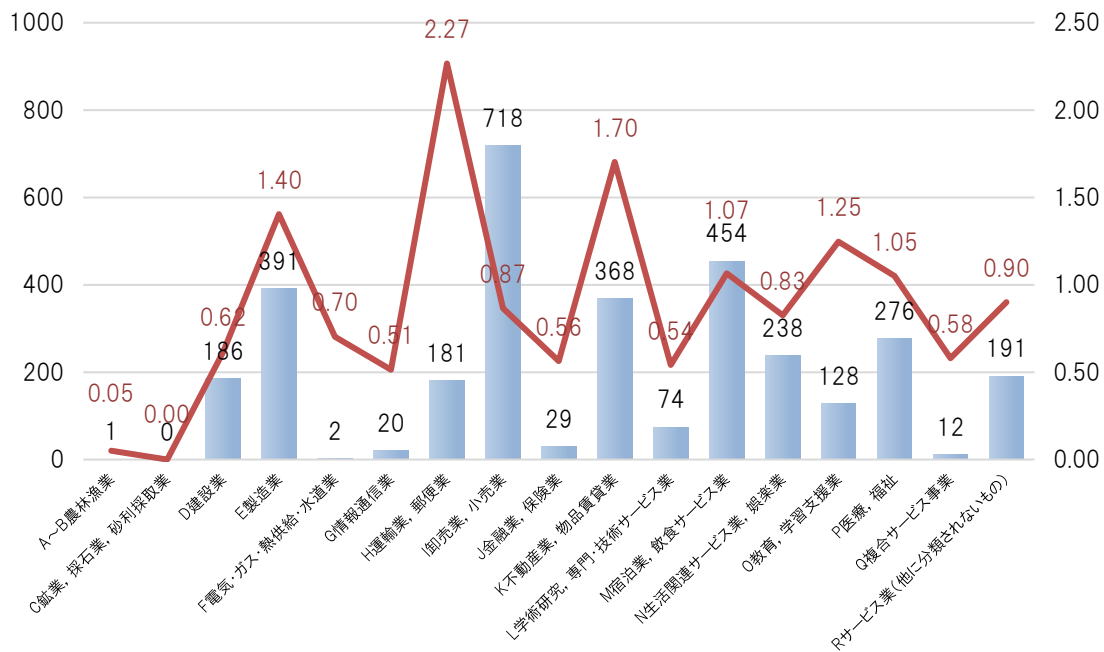
第3節 産業

本市の産業構造は、「卸売業、小売業」が最も多く 718 事業所あり、次いで「宿泊業、飲食サービス業」が多く 454 事業所、「製造業」391 事業所、「不動産、物品賃貸業」368 事業所と続いている。

全国と比べると、「運輸業、郵便業」が 2.27、「不動産業、物品賃貸業」が 1.70、「製造業」が 1.40 と多く、「農林漁業」が 0.05、「情報通信業」が 0.51、「学術研究、専門・技術サービス業」が 0.54、「金融業、保険業」が 0.56 と少なくなっている。

製造業は特に毛布に関連する事業所が多く、毛布の生産は全国生産の 9 割以上を占めている。

図表 2-7 泉大津市産業分類別事業所数



出典) 平成 28 年経済センサス活動調査


第3章 泉大津市立図書館の現状

第1節 泉大津市立図書館の現状

1 施設の概要

現図書館の施設や諸室の概要と面積は以下のとおり。

図表 3-1 施設の概要

敷地面積	1599.1 m ²	施設外観 
建築面積	902.1 m ²	
床面積	1,766.1 m ²	
構造	鉄筋コンクリート2階建	
竣工	昭和 58 年 3 月 31 日	
工事費総額	293,000 千円	
開館時間	火～金 9:30～19:00 土・日 9:30～17:00	
休館日	①月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)(※月曜日が祝休日の際はその翌日) ②祝休日の翌日(※その日が土日祝休日にあたる場合は他の日に振替) ③毎月末(※月曜日にあたる時はその前日) ④特別整理期間(4月中10日間)	

図表 3-2 諸室の概要

名称	面積(m ²)
玄関ホール	13.4
一般図書開架コーナー	317.1
児童図書開架コーナー	211.2
お話し室	42.3
郷土資料室	48.9
ブラウジングコーナー	43.1
カウンター・図書整理室	58.0
事務所	63.3
図書返却室	6.7
書庫(閉架式)	169.0
会議室	84.5
視聴覚室	87.9
参考資料室	43.9
資料・障がい者室	42.2
トイレ	79.6
ロビー1F	85.4
ホール 2F	230.7
管理人室	42.2
合 計	1,669.4

2 蔵書数

現図書館の蔵書数は242,904冊、開架冊数は96,636冊となっている。

日本図書館協会が示している望ましい数値目標により試算すると、本市の望ましい図書館の蔵書冊数は358,378冊、開架図書冊数は199,243冊となり、それぞれ115,474冊、102,607冊が不足している状況となっている。

図表 3-3 蔵書数 (単位:冊)

	一般図書	児童図書	絵本	紙芝居	合計
蔵書数	170,586	41,480	29,202	1,636	242,904
開架冊数	63,000	24,000	8,000	1,636	96,636

出典) 泉大津市立図書館 平成29年度年報

図表 3-4 望ましい蔵書冊数、開架図書冊数

	蔵書冊数	開架冊数
6,900人未満の最低冊数	67,270冊	48,906冊
18,100人までの加算冊数	3.6冊/人	2.69冊/人
46,300人までの加算冊数	4.8冊/人	2.5冊/人
152,200人までの加算冊数	3.9冊/人	1.7冊/人
379,800人までの加算冊数	1.8冊/人	1.7冊/人
本市人口 75,897人※	358,378冊	199,243冊
※平成27年国勢調査		
現在の冊数	242,904冊	96,636冊
不足する冊数	115,474冊	102,607冊

出典) 公立図書館の任務と目標 (日本図書館協会図書館政策特別委員会)

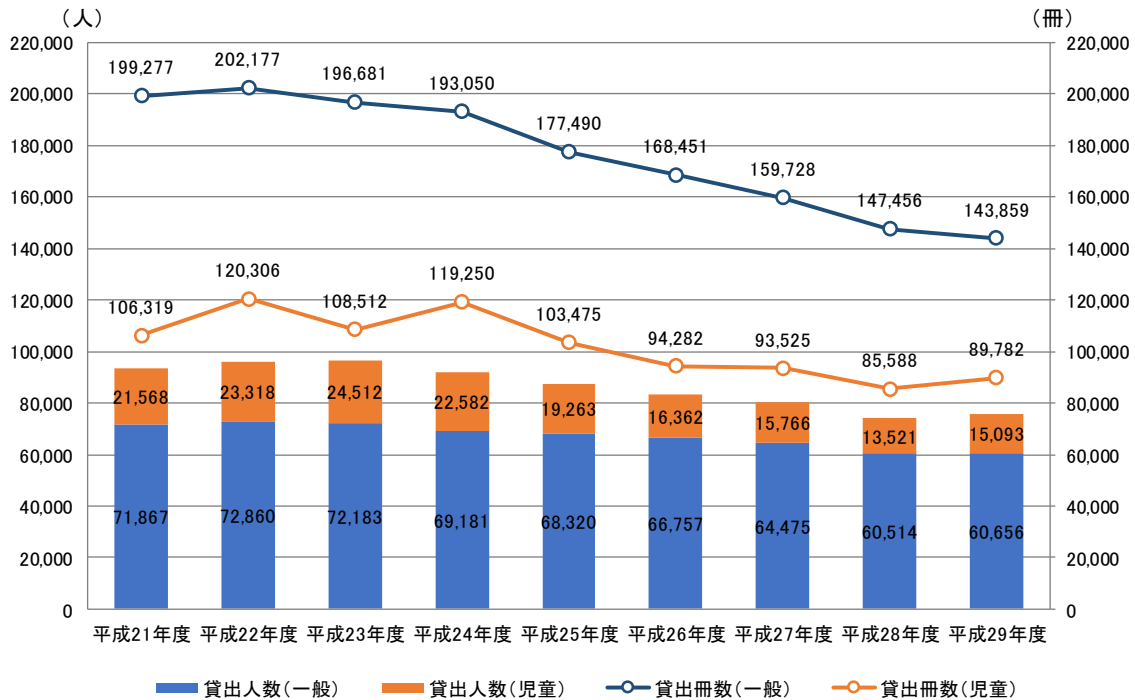
3 貸出

現図書館の貸出人数の推移を見てみると、2011（平成 23）年度の 96,695 人をピークに減少傾向にあり、2016（平成 28）年には 8 万人を切っている。

また、貸出冊数も減少傾向にあり、特に、一般の貸し出し冊数が大幅に減少している。

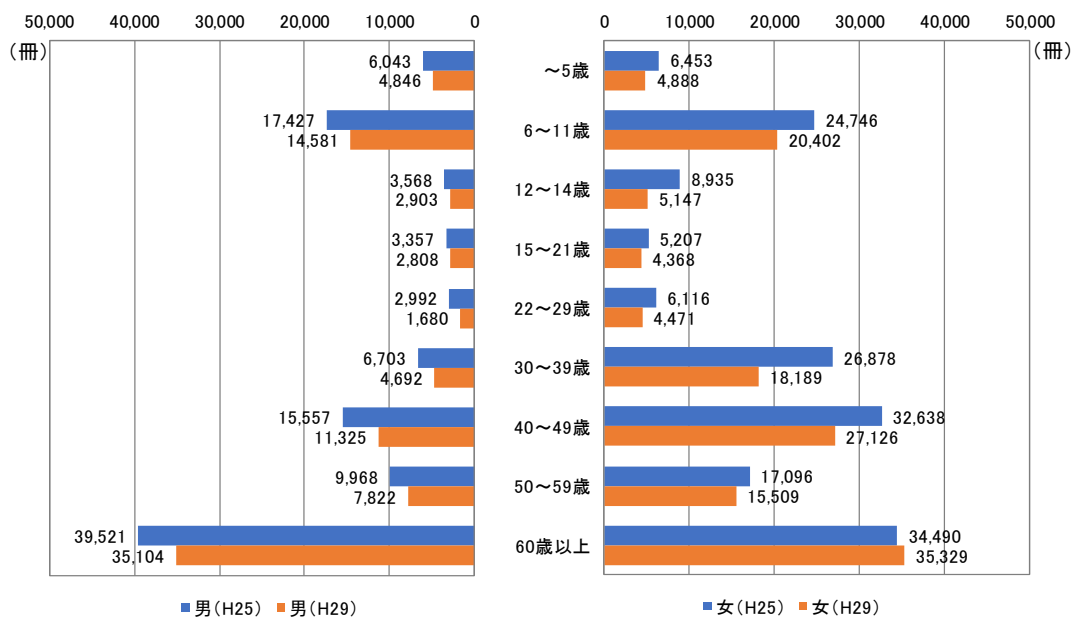
2013（平成 25）年と 2017（平成 29）年の年代別性別の貸出冊数を比較すると、60 歳以上の女性以外はすべて減少している。

図表 3-5 貸出人数・貸出冊数の推移



出典) 年報 (泉大津市立図書館)

図表 3-6 年代別性別貸出冊数 (平成 25 年、平成 29 年)



出典) 年報 (泉大津市立図書館)

第2節 読書に関する取り組み

泉大津市の取り組み

本は知識の泉とも呼ばれ、読書は、語彙力を高め、自ら考え表現できる力を養うことができ、新しい知識を獲得することが可能となる。本市では様々な活動を通じて、その知識習得意欲を養い、読書量日本一を目指している。

① 読書手帳

図書館では、活字離れが進む中、読書のきっかけづくりと習慣化の一助として、「本の手帳」を作成し、小学生全員に配布している。「本の手帳」は、図書館で借りた本の記録シールを窓口で発行し貼るシステムとなっており、その他、学校図書室で読んだ本や個人で買った本なども記入できる。本システムにより読書を数値化、見える化し読書意欲の向上を図っている。

② 学校図書室と市立図書館の図書システム統一化

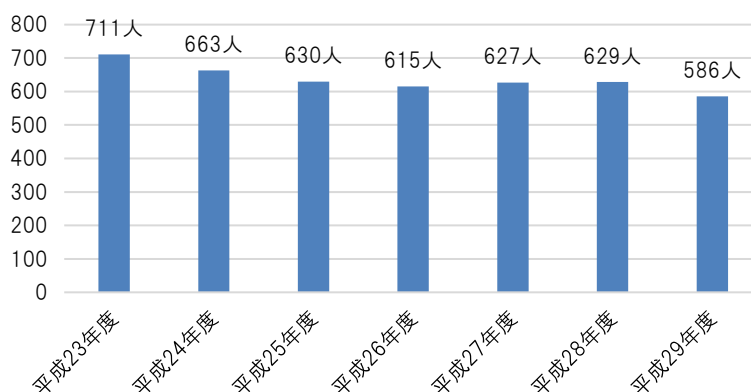
市立図書館と小・中学校図書室との図書システムの統一化を図り、また予約機能を充実させるなど、子どもが読書に親しみやすい環境を整備している。

③ 4ヶ月検診時におけるブックスタート事業

現図書館ではブックスタート事業※を行っており、毎月1～2回、保健センターで4ヶ月検診時にマンツーマンで絵本の読み聞かせを行っている。

※4ヶ月検診時に保護者に絵本を贈る事業。その際、ボランティアによる絵本の読み聞かせを実施。

図表 3-7 ブックスタート事業参加人数の推移



出典) 年報 (泉大津市立図書館)

④ 学校図書室の地域開放

地域の子どもたちが少しでも本にふれあう機会を増やすために、現在、戎小学校、条東小学校の学校図書室を開放している。開放時には、読み聞かせや季節のイベントなども行われ、たくさんの子どもたちが利用している。

なお、平成31年2月には3校目となる旭小学校が開放した。

⑤ 朝読の実施

小・中学校において、ホームルーム等にて朝の読書活動時間を設けている学校がある。学級文庫や学校図書室にある本を中心に、目標をもって読書に取り組むなど、児童が本にふれあうよい機会となっている。

⑥ ビブリオバトルの実施

市内の社会教育施設である、あすとホールや市立図書館において、本への関心や知的好奇心を高めるための取組として、ビブリオバトル（知的書評合戦）を開催している。

⑦ ブレインブースト読書教室の実施

市立図書館で、右脳を目覚めさせる新しいトレーニングにより、先端教育教室を開催している。

⑧ 地域での読み聞かせ活動の展開

市民団体や自治会などが、図書館だけでなく、福祉施設や学校または様々なイベントなどで読み聞かせ活動を行っている。

⑨ 市立図書館での行事

2017（平成 29）年度には以下の行事を実施している。

図表 3-8 イベント実施概要（平成 29 年度）

開催日	行事内容	参加人数
7月25日	体験行事「ろう石で星の形をつくろう！」	45
8月4日	手づくり遊び「はっしゃだい付きひこうき/ふきあげ ストローヘリコプター」	12
8月8日	手づくり遊び「かんたんミサンガをつくろう！」	11
11月25日	秋のおたのしみかい(人形劇)	27
1月13日	「はらぺこ坊やポップくん」(人形劇)	78
3月25日	雑誌リサイクル	81
合計		254

区分	行事内容	延べ参加人数
通年	読書会（全8回）	43
通年	子どもの本を楽しむ会（全7回）	20
毎月第3土曜日	おはなし会（全11回）	91
毎月第1木曜日	あかちゃんのためのおはなし会（全10回）	122
毎月第1土曜日	映画会（全13回）	213
合計		489

第3節 図書館のあり方についての市民ニーズ

1 意向調査の実施概要

新図書館のあり方について、多様な市民の意向を把握するため、以下に示す各種調査を実施した。

図表 3-9 各種意向調査の実施概要

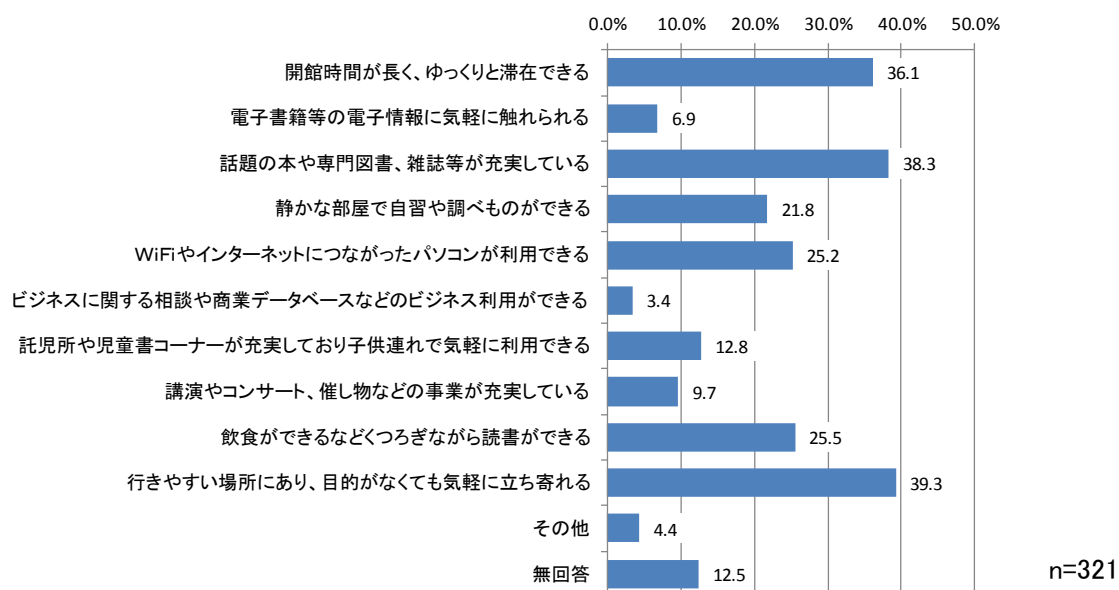
図書館のあり方についてのアンケート調査	対 象：無作為に抽出した 16 歳以上の市民 1,000 人 調査方法：郵便による発送・回収 調査時期：平成 30 年 8 月 30 日から平成 30 年 9 月 14 日 回収状況：321 票（回収率 32.3%（未達の 5 件を除く））
駅前ヒアリング	対 象：泉大津駅のバスターミナル等を利用する市外からの来街者（20 歳前後と思われる若者が中心。） 調査方法：調査員による聞き取り 調査時期：平成 30 年 9 月 26 日（水）、10 月 10 日（水） 回収状況：51 票
図書活動団体ヒアリング	対 象：市内で読書に関する活動を行っている団体 調査方法：調査員によるヒアリング調査 調査時期：平成 30 年 8 月～10 月 回収状況：6 団体
在住外国人ヒアリング	対 象：市内に在住している外国人 調査方法：調査員によるヒアリング調査 調査時期：平成 30 年 8 月
小学生アンケート	対 象：戎小学校、旭小学校の全生徒 調査方法：シールでの投票形式 調査時期：平成 30 年 11 月 6 日（火）～11 月 16 日（金） 投票状況：964 票
中学生・高校生アンケート	対 象：400 名 調査方法：学校を通じて調査票を配布、回収 調査時期：平成 30 年 11 月 13 日（火）～12 月 12 日（水） 回収状況：438 票
新図書館を考える市民ワークショップ	対 象：公募市民 開催日時：第 1 回 平成 30 年 8 月 26 日 第 2 回 平成 30 年 10 月 8 日 第 3 回 平成 30 年 10 月 28 日

※各調査の詳細については、資料編参照

2 調査結果の概要

(1) 市民アンケート調査

- ・読書量が減っていると感じている回答者が多く、その理由としては、勉強や仕事、家事、育児、介護等に忙しくて時間がないなどがあげられている。
- ・現図書館は7割以上が利用したことがあると回答しているが、居住年数の短い回答者の利用率が低い。
- ・利用頻度は年に1回未満、数回程度が多く、滞在時間も10～30分未満と短く、ゆっくりとできる図書館とはなっていない。
- ・交通手段は自転車が7割弱と多い。図書館に近い旭、穴師小学校区は徒歩割合が高い。
- ・現図書館を利用する目的は、書籍等を借りるため、書籍・新聞等の閲覧のために次いで、気分転換、リフレッシュ等も多くなっている。
- ・現図書館の満足度は4割弱であり、不満の理由としては、図書が少ない、行きにくい場所にある、座る席がないが多くなっている。
- ・市外の図書館を利用している割合は約3割で、和泉市や高石市の図書館を利用している割合が高く、その理由としては、新刊や雑誌が充実している、開館時間が長いなどがあげられている。
- ・新図書館に求める機能については、「行きやすい場所にあり、目的がなくても気軽に立ち寄れる」、「話題の本や専門図書、雑誌等が充実している」、「開館時間が長く、ゆっくりと滞在できる」が多くなっている。
- ・管理運営の外部委託については、「わからない」が4割と多いが、外部委託する場合に配慮すべきこととして、「サービス内容の低下を招かない」、「新たな経費を増やさない」、「個人情報の取り扱い」がそれぞれ3割弱となっている。



図表 3-10 新図書館に求める機能

(2) 駅利用者ヒアリング調査

- ・「Wi-Fi やインターネットにつながったパソコンが利用できる」が7割以上。
- ・「飲食ができるなどくつろぎながら読書ができる」、「開館時間が長く、ゆっくりと滞在できる」が3割以上。

(3) 団体ヒアリング

- ・学校図書室の開放など、地域に根差した取り組みが進められつつある。
- ・地域交流、多世代交流を目指す団体が多いが、高齢者の巻き込みが課題。
- ・地域全体としての図書館運営方針を示すことが必要。

(4) 外国人ヒアリング

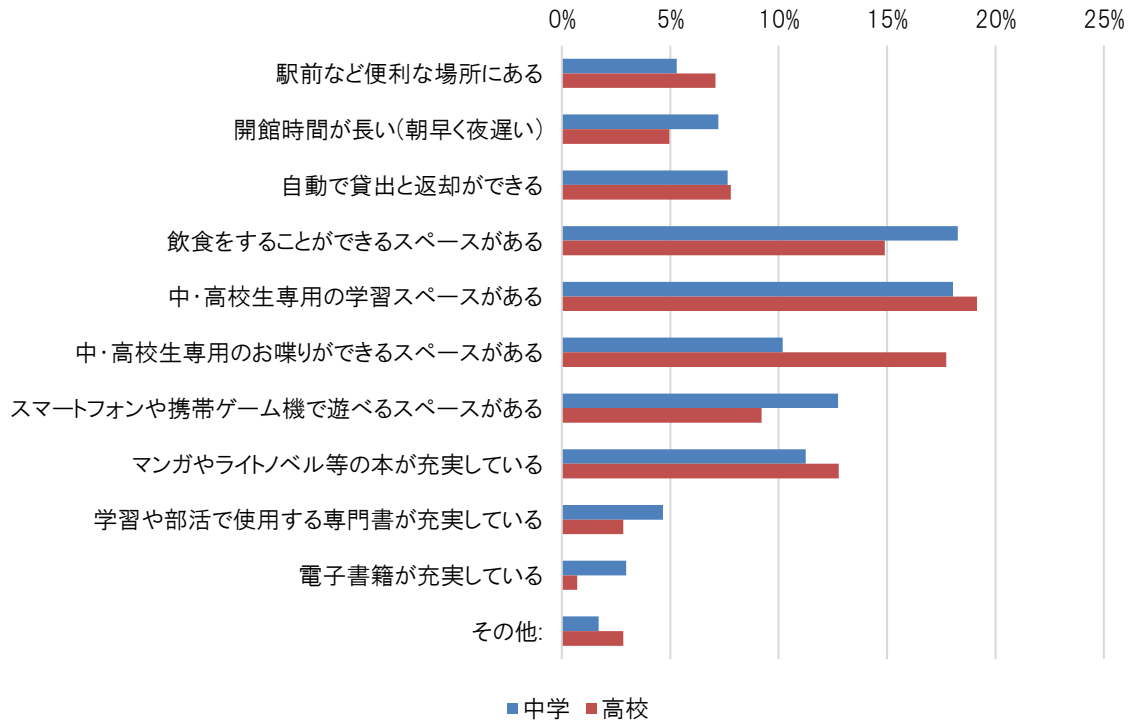
- ・在住外国人のための地域情報のプラットフォームがあるとよい。
- ・訪日外国人のインフォメーション・観光窓口機能もあるとよい。

(5) 小学生アンケート調査

- ・どんな部屋があればもっと図書館に行きたくなるかについて、投票形式で調査を実施したところ、「映画鑑賞や音楽を聞ける部屋」「話したりできる部屋」が上位となり、次いで「勉強できる部屋」「パソコンがある部屋」「飲食できる部屋」となっている。

(6) 中学生・高校生アンケート調査

- ・図書館の利用頻度は、中学生が年数回、高校生は利用したことがないが多くなっている。行かない理由は、本をあまり読まないが最も多い。
- ・図書館を利用したくなる機能については、中学生では「飲食をすることができるスペースがある」が最も多く、次いで「中・高校生専用の学習スペースがある」となっており、高校生では「中・高校生専用の学習スペースがある」が最も多く、次いで「中・高校生専用のお喋りができるスペースがある」となっている。中学生、高校生ともに、自分たちの世代の専用空間があることが望ましいという回答が多くなっている。
- ・図書館に中学生・高校生の専用スペースができるとしたらどのようなスペースがあったらよいかという問いに対しては、中学生、高校生ともに「友だちとおしゃべりやゲームができる（うるさくしてもいい部屋）」が最も多く、「机と椅子に座れて静かに宿題や勉強ができる」「映画やビデオを見たり、音楽を聴いたりできる」が上位を占めている。



図表 3-11 泉大津市立図書館を利用したくなる機能（複数回答）

(7) ワークショップ

- ・現図書館については、座る場所が少ない、ゆっくりと本を選べない、自習室がない、新しい本で開架がいっぱいとなり、欲しい本が閉架書庫にあることが多いなどが課題として挙げられている。
- ・新図書館と現図書館については、駅利用者にとっては便利となるという意見と、駐輪場対策や安全面で不安を感じるという意見があり、市域全体での図書館のあり方を検討する必要がある。
- ・読書量を増やすためには、手の届く範囲に本がある状態が必要であり、学校図書室や自治会などとのネットワークのあり方の検討が必要。
- ・おしゃべりや飲食などについては、これまでの伝統・マナーを守るべきという意見もあり、動と静のゾーニングが重要である。また、ランニングも含めたコストの検討が必要であるとの指摘もある。

第4章 図書館を取り巻く環境の変化

1 図書館の多機能化

従来の図書館は、

- ① 市民の求める図書資料等の貸出
- ② 児童、市民の読書への啓発と読書指導
- ③ 市民の課題を解決するレファレンスサービス

を目的にサービスを提供してきた。

しかし、時代が変化し、全国的にも人口減少、少子化、高齢化といった課題を抱える時代を迎え、読書や貸出中心の機能から、まちづくりの拠点としての役割が期待され、図書館の集客力をいかに周辺に波及させるかという視点が重要になっている。

例えば、平成 2007（平成 19）年に区役所の 9・10 階フロアに移転して新オープンした千代田図書館では、図書と外部情報資源も含めて案内する図書館コンシェルジュサービス、書店・古書店との連携事業、新しい検索システム（新書マップ+ 連想検索）、子ども預かりサービス、文化・学術機関と連携した展示・イベント、セミナー、Web 図書館サービスなどを新たに開始した。加えて、学校図書館、保育園等へ司書を派遣し、学校図書館運営の改善や児童への図書館サービスを行う学校支援、ビジネスパーソンに特化した資料やデータベースの整備、セカンドオフィス空間を提供するビジネス支援、区職員の職務遂行に必要な資料の収集・提供等の便宜を図る行政支援なども手掛け、図書館の新たな役割を世の中に示した。

また、2011（平成 23）年にオープンした東京都武蔵野市立「ひと・まち・情報創造館武蔵野プレイス」では、図書館機能に加えて、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援、有料のビジネスデスク貸出の 5 つの機能を備えるとともに、レストランなどの賑わい交流空間や自動貸出システムの導入などの IT 化を図った複合施設として多くの人に活用されている。

加えて、2012（平成 24）年には、佐賀県武雄市が、図書館・歴史資料館を民間企業であるカルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（TSUTAYA 事業や蔦屋書店の経営母体）に指定管理者制度により経営を委任した。それにより、従来の図書の貸出だけではなく、レンタルビデオ（有料）、書籍の販売、物産の販売、カフェチェーンが図書館内に店を構えるなど、これまでの図書館のイメージを払拭した事例が全国でも出現してきている。

このように、飲食ができる図書館や賑わいを創出する図書館など、従来の公共施設から脱却した図書館、運営を指定管理者制度によって民間企業に任せるなど、多様な機能、多様な運営手法による図書館へとその在り方が変化している。

特に高齢者の増加により、地域で 24 時間過ごす市民が増加したことで、居場所としての図書館の機能や空間が注目を集めている。実際に高齢者の来館数が増加し、また滞在時間が伸びている図書館もある。

合わせて、テレワークなどの就業形態が広まり、自宅だけでなくデスクやネット環境がある空間への欲求が高まる中で、今後の図書館は、資料や情報といった従来型のサービスとともに平成 19 年に千代田図書館の前例にあるようにビジネスパーソン向けのセカンドオフィ

ス、スモールオフィスの提供などへの要望も多く、図書館に期待されている機能は多様化とともに高度化してきている。現在求められている図書館機能は以下のとおりである。

(1) 地域の情報ハブとしての機能

図書館は、地域社会における情報蓄積及び情報発信の拠点として、地域公共ネットワークに積極的に参画することが期待されるとともに、地域住民の多様な生涯学習活動を推進する上での主要な担い手となることが期待されている。従って、地域の自立社会を目指した「知の拠点」として、知識や情報を循環させることができるように、多種多様な資料や情報を収集し、集積させ、図書館を地域情報の“ハブ”とすることが求められる。

(2) ビジネス支援機能

2000（平成12）年頃から、中小企業が下請けから脱却して自らの商品開発、商品企画、販売拡大などをする動きが活発化させるなかにあつて、様々な専門情報や特許などの知的財産へアクセスする要求が高まっている。もともと図書館では、文献を蓄積し整理して利用者の課題解決に資するべくレファレンスサービスを行ってきた。この図書館職員の経験とWEBデータベース、資料を駆使して必要な情報を提供し、機関を紹介するという、地域企業の支援を行うビジネス支援機能を持つ図書館が増加している。

(3) 外国人や外国語資料の収集などの国際化機能

ここ数年、外国人労働者や留学生とともに海外からの観光客が増加している。加えて、国内に住む人たちも海外への関心が高まる中で、日本語以外の言語で書かれた書籍や絵本の必要性が高まっている。英語や中国語などの外国語で書かれた書籍、児童書、絵本などの蔵書が期待されるなか、外国語に対応できるよう、専門人材の確保や人材育成が不可欠となっている。

(4) 居場所としての機能

インターネットが普及し、どこにいても書籍や情報のデータベースとつながる環境が整備されてきたが、同時に図書館の空間の貴重性や重要性が再認識されている。特に公共図書館は、入館料が無料であること、知る自由を保障する機関であること、市民の読書・学ぶ権利が保障されていることが基盤にあり、加えて、書籍や雑誌のある空間では、探求心や好奇心が刺激され、思いがけない発見（セレンディピティ）の機会を提供すると言われている。

また、高齢者が増加している現状で、地域で24時間過ごす市民の居場所としての機能を持たせた図書館も増加している。

(5) 市民の交流・連携

図書館では、読書や学習等の知的活動を通じた住民の交流の場、コミュニティ活動の場としての役割も重要であり、利用者同士の交流やグループで利用できる空間を積極的

に提供していくことが不可欠となる。市民同士で地域課題を解決するための社会活動、ソーシャルビジネスなどの組成支援も必要となる。

図表 4-1 図書館機能の多様化



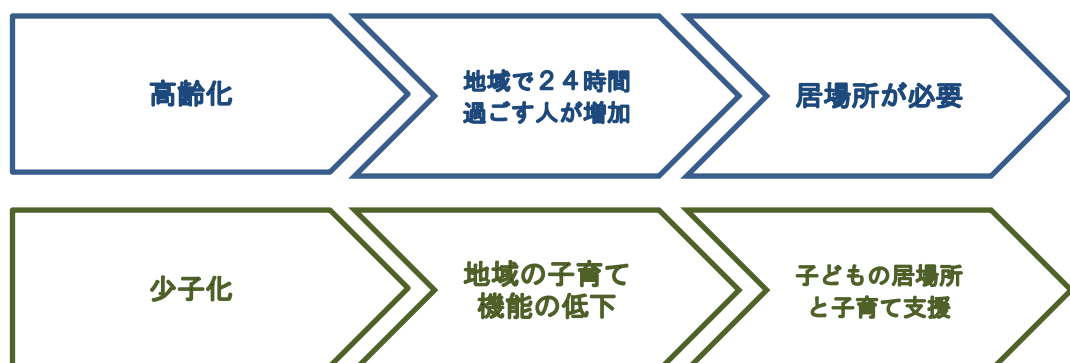
2 人口構成・ライフスタイルの変化への対応

(1) 人口構成の変化への対応

我が国では2011（平成23）年に総人口が減少し、以降減少が続いている。また、人口構成も少子化、高齢化が進展しており、地域の人口構成は変化を続けている。

これまで働いていた人たちが、退職するなどして、地域で24時間過ごすことが増加しており、彼らの居場所が必要となっている。

また、地域の子育て機能の低下は少子化を加速させていると考えられており、子どもの居場所づくりと子育て支援の整備は喫緊に解決すべき課題となっている。



(2) ライフスタイルの変化への対応

日本では長時間労働や残業といった働き方が慣習化しており、これらが経済の低下につながるとして問題視されている。

働き方改革によって生産性を向上させ経済を発展させるため、全ての労働者が働きやすい環境を整えるべく、行政や企業は業務の効率化を図ったり、リモート勤務や時短勤務を認めたりするなど、多様な働き方を推奨している。

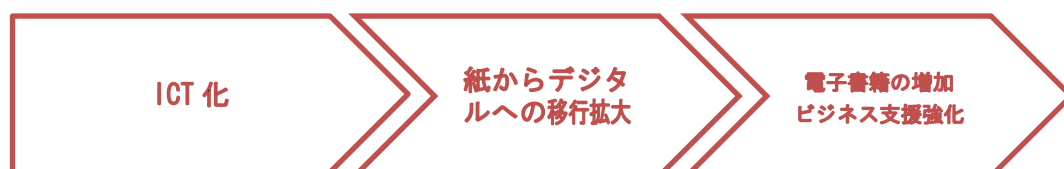
このような働き方改革は、複数の企業に勤める人や、企業で働くだけではなく地域活動に従事する人を生み出したり、高齢者や女性、障害や難病等を抱える人たちの社会進出を生み出したりすることで、経済の維持、発展が期待されている。



3 図書館の ICT 化

インターネット社会が普通となり、スマートフォン等のスマートメディアが普及したことにより「どこでもインフラ」となり、社会は現在もなお、とどまるところを知らず進化している。

このような状況下、図書館も新たな ICT を取り込んだサービスに取り組むことが求められている。図書館のホームページを開設したり、蔵書目録を公開したり、検索・予約を受け付けたり、といっただけでは利用者からの満足を得られにくくなっている。



(1) ソーシャルメディアの活用

ソーシャルメディアの特徴は誰もが情報の発信者となれることであり、情報の拡散が瞬時に行えることにある。公共図書館でも SNS を使ったホームページを活用している。

(2) 蔵書検索

自図書館の蔵書検索のみではなく、カーリル等の蔵書検索システムは、他の図書館や学校とも連携した横断的な蔵書検索として活用され、図書館業務でも便利なツールとして利用されている。また、レファレンスサービス等の提供に際して使用することができ、利用者からの満足度を上げることができるサービスと言える。

(3) 自動化と電子化

ICT化の進展により多くのサービスがより効率的に提供され、インターネット等を活用したサービスを提供できるようになっている。

今後もこの流れは一層進むものと考えられ、電子図書館的機能を充実させることには様々なメリットがある。

① IC タグの導入

従来のバーコードによる管理だけではなく、IC タグを導入することで、図書管理の効率化や貸出の自動化、セルフサービス化を図ることが可能となる。

特に複数の図書館や学校図書、閉架書庫との連携を図る際には、管理にかかるコストを大幅に削減することができる。また不正退出防止ゲートの機能向上を図ることができ、安全で安心な図書館運営を行うことが可能となる。

② 電子書籍

紙による媒体だけではなく、電子書籍による図書の提供も始まっている。

電子書籍は保管場所をとらずに、大量の書籍をスマートメディアで提供することが可能となっている。

③ 利用者などの情報の収集

自動化、電子化を進めることで、利用者の構成や要望などを統計的に収集することが可能となっている。収集した情報をもとに分析を行い、図書館の運営や、図書の収集において、予算や制約があるなかで最適な選択肢を選ぶことが可能となる。

④ 監視カメラの設置

監視カメラの映像管理技術の向上により、図書館内の危険行動に対して自動的に映像を検知、解析し、自動的にアラートを発信することができる。これにより図書館内の安全を確保することが可能となっている。

(4) 専門人材の配置

図書館の ICT 化に伴い、従来の司書や図書館職員への ICT 研修だけではなく、専門人材の配置が求められている。

専門人材の採用に当たっては、正規の図書館職員としての能力で採用するのではなく、専門分野の非常勤職員としての採用など、最適な人材を得るための多様な選考をしていかなければならない。

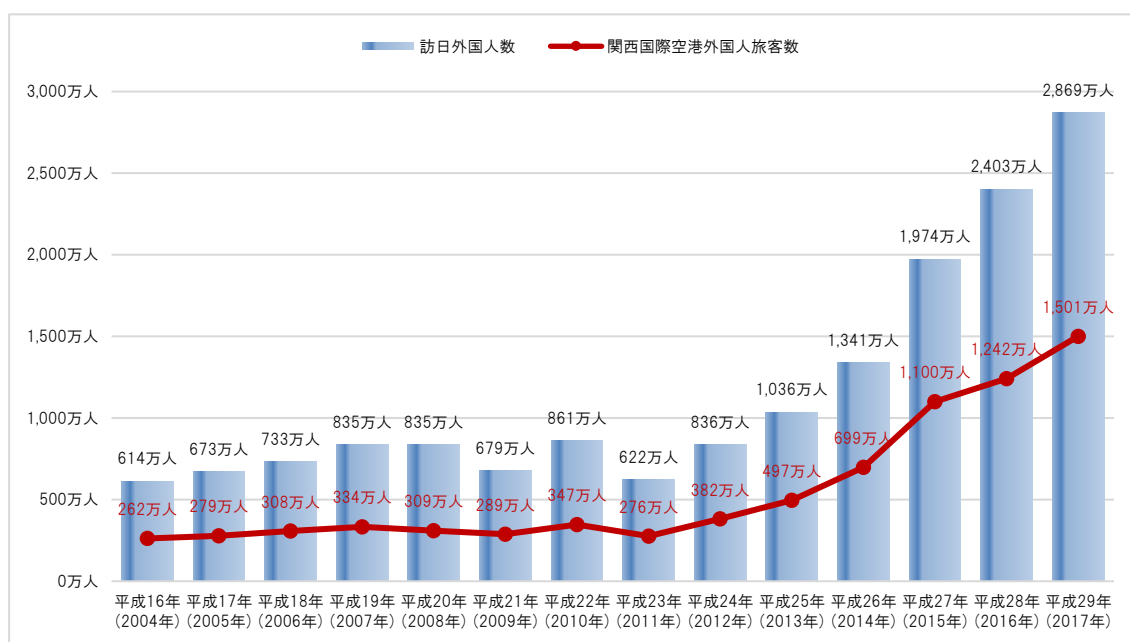
4 国際化への対応

(1) 訪日外国人の増加

グローバル化の進展やアジア各国の所得水準の上昇、我が国の観光施策の推進などにより、2013（平成25）年以降訪日外国人の数は増え続けており、2017（平成29）年は2,800万人を超えた。

とくに関西国際空港では、LCCが増加し利用しやすくなったこと、京都や奈良といった観光地へのアクセスが容易なことなどから、2012（平成24）年以降、外国人旅客数が増え続けている。

図 4-1 訪日外国人数、関西国際空港外国人旅客数の推移



出典) 訪日外国人数：日本政府観光局(JNTO)

関西国際空港外国人旅客数：関西国際エアポート株式会社

※関西国際空港外国人旅客数は年度数値

(2) 国際交流の多様化

友好交流だけではなく、教育、文化、農林水産、環境、経済など幅広い分野で、相互協力が進んでおり、民間相互の交流も拡大している。また、地域社会が国際社会とのつながりを深める中で、様々な民間団体が、自分たちにできる身近なことから、それぞれ独自の国際交流・国際協力の活動を展開している。

またインターネットの普及により、海外との情報交換速度が加速化、広域化しており、日本語や外国語によるコミュニケーション能力や異文化に対する理解がますます求められている。

(3) 経済のグローバル化

国境を越えた人、物、金、技術、情報、サービスの自由な移動がすでに起こっている。サービスの提供者やサービスの購入者の垣根が世界中に広がっており、世界の経済動向が直接的に地域の経済や産業に影響を及ぼしている。

企業活動も最適な環境を求めて国や地域を選ぶ時代になっており、海外への直接投資や外国企業との提携など、グローバルな視点での事業展開を行っている。

第5章 新しい図書館整備に向けた課題

1 資料の充実の必要性

現図書館では、市民の生涯にわたる学習活動を支援するため、一般図書や児童図書、絵本、紙芝居、雑誌、新聞、CDなど、多種多様な資料を収集し、閲覧や貸出によって提供を行っている。

しかしながら、開架図書は、所有する図書の半分以下となっており、市民意向調査においても、新刊や雑誌の充実を求める声が多く、図書をはじめとした各種資料が、市民ニーズを満たしていない状況にあると言える。

また、関西国際空港や大阪市に近いという立地ポテンシャルを踏まえたビジネス図書や外国人向けの図書の充実も含め、各種資料の充実が求められている。

2 時代の要請に柔軟に対応できる機能の拡充

情報社会の急速な進展とともに、図書館に求められるニーズ、機能が変化している。電子図書やインターネットなどの情報環境の提供などと合わせて、多様なメディアの充実が必要となっている。

また、活字離れが進む若者世代向けには、漫画と小説等を組み合わせたメディアミックスの取り組みなどにより、効果を発揮している事例もあり、時代の要請に柔軟に対応できる機能の充実が求められている。

3 利用しやすい・利用したいと思える施設整備の必要性

図書館は子どもから高齢者まで、幅広い年代が利用する施設であり、また車いすやベビーカー等での利用など、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの考え方や施設整備が求められる。

また、図書館の集客性も考慮し、市民が行ってみたい、利用したいと思えるデザイン性のある施設整備が求められる。

4 地域と連携した取り組みの必要性

これからの図書館は、資料の提供、図書の貸出だけでなく、市民が活躍する場としての機能や人と人をつなぐ地域コミュニティを強化する機能が求められている。

本市では、既に、地域ボランティアなどと連携した学校図書室の開放に取り組んでおり、図書館と学校図書室との連携強化を図りながら、地域コミュニティの強化に資する拠点としての機能が求められている。

5 課題解決のための情報拠点の必要性

市民は日常生活をおくる上で、問題解決のために医療・健康・福祉・子育て・法律・ビジネスなど多様なテーマに関する資料や情報提供の支援を求めている。

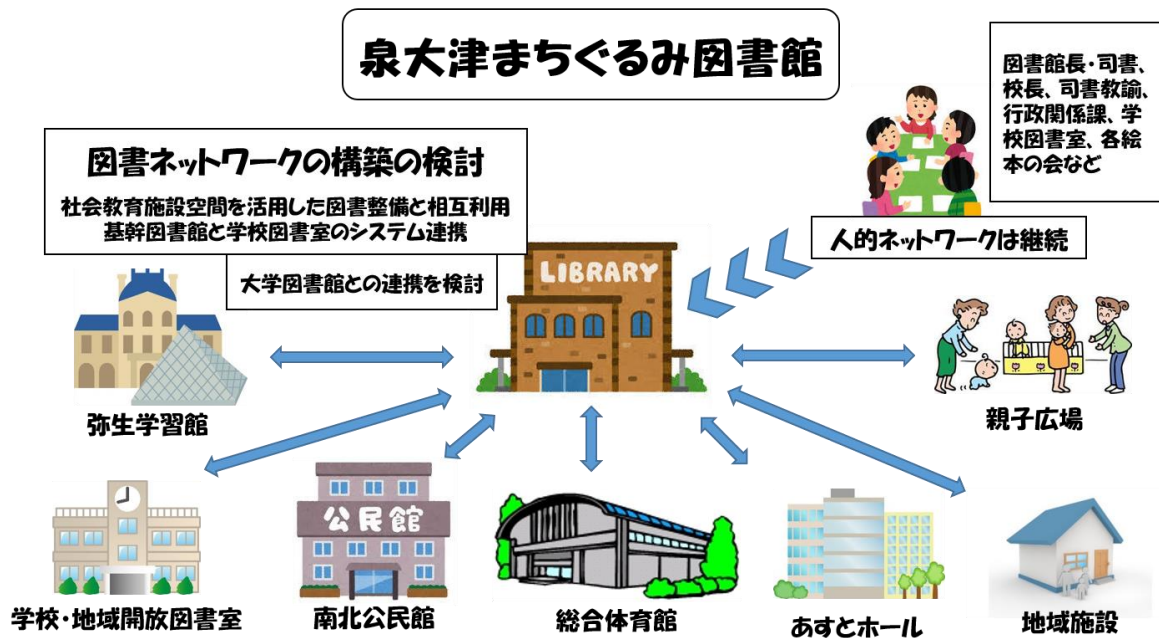
地域課題が多様化するなか、図書館は単に図書の閲覧、貸出の場所ではなく、地域の「知の拠点」として、スタッフの充実などにより、地域課題の解決やビジネスマンなどの広範な視点からの情報を提供することのできるレファレンス機能の充実に努める必要がある。

第6章 泉大津市における図書館のあり方

第1節 泉大津市における図書館のあり方

1 泉大津まちぐるみ図書館の構築

新図書館の整備に当たっては、図書館を核として小学校、中学校の図書室をネットワークシステムで繋ぎ、同じシステムで検索、貸出、返却、予約を可能とする。同時に南北公民館、弥生学習館などの生涯学習施設、そのほかの公共施設、地域の親子広場等とは、資料や人材の連携により、書籍や児童書、絵本などの提供を行うなど、市民が必要な時に、書籍に触れ、自らが学ぶ機会を得られるように、泉大津市の地域全体をまちぐるみ図書館として構築することを検討する。



第2節 新図書館の整備方針

1 整備方針

(1) 読書量日本一をかなえる図書館

本市のまちづくりを担う若い人材を育成するために、読書を通じて語彙力を高め、自ら考え表現できる力を養うことが大切である。図書館を核として本にふれる環境や先進的なプログラムに触れる機会を創出するなど、読書量日本一へ向けた環境整備を図る。

(2) 社会トレンドにあった新サービスの導入、関係人口を増やすためのソフト施策の充実

少子化、高齢化、働き方改革、ICT化、IoT化、国際化などの新たな社会トレンドに対応できるように、複合的で多様なサービスを提供するとともに空間も常にフレキシブルに利用できるように整備する。

また、市外から泉大津市に様々な形で関わりをもってもらい、関係人口を増やしていくためのソフト施策を充実させる。

(3) 運営体制の強化

新図書館には多様な機能が導入されることから、その運営体制や適切な人材の採用や人事配置などを考慮し、魅力的な図書館運営に向けた体制を強化する。

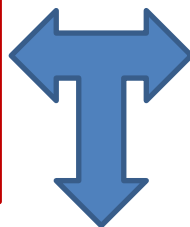
(4) 広域連携によるサービス提供

本市は市域も狭くコンパクトであり、地域によっては隣接する自治体の図書館がより近い状況にあるため、他自治体の図書館サービスを活用することで、市民の読書環境が補完されている現状がある。

今後は地域に存在する学校図書室、社会教育施設との連携とともに、近隣自治体の図書館などとの連携を進め、市民の読書環境、学ぶ力の向上を目指す。

小・中学校図書室の課題

- 1 学校ごとの書籍購入
- 2 学校ごとに別々のデータ
- 3 貸出の管理データ無し
- 4 人材の個別採用
- 5 行き届かない司書研修



市立図書館の機能

- 1 蔵書管理
- 2 予算管理
- 3 統一貸出システム
- 4 人事管理
- 5 統一した研修

市立図書館と学校図書室の連携

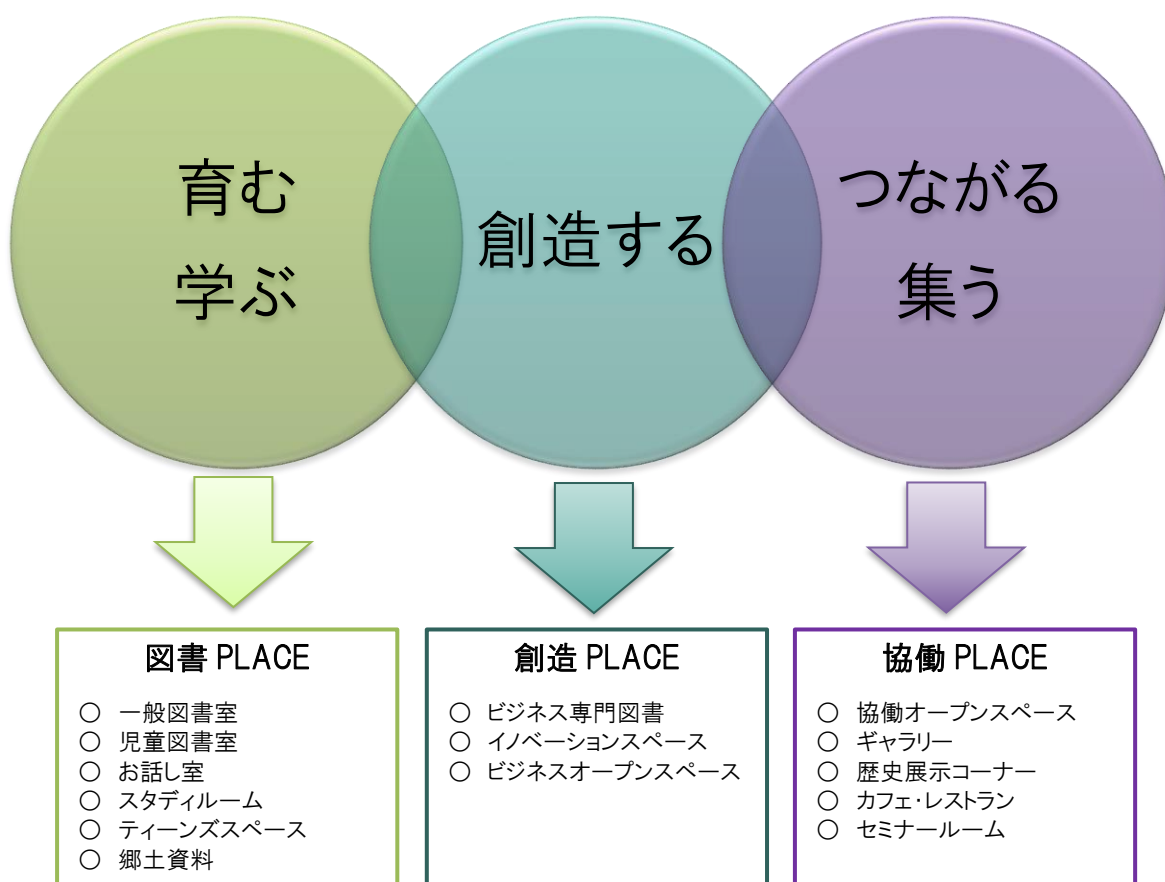
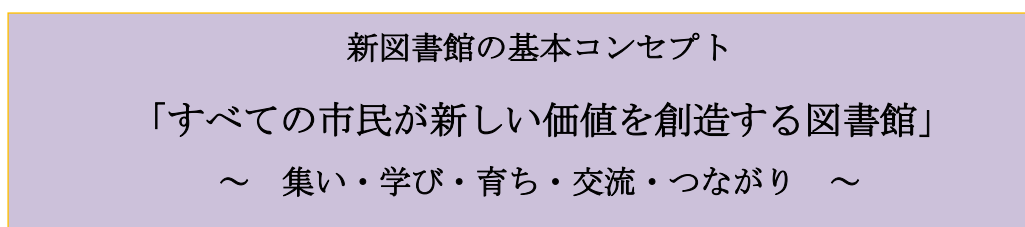
- ①市内の図書すべての所属、冊数が分かる。本を検索すると市内各校の情報を見ることができ相互貸借もシステムで可能とする。図書館も検索可能とする。
- ②学校での貸出データが把握でき読書指導を可能とする。
- ③学校毎に購入せず、包括する蔵書検索システムを購入する。
- ④図書室端末から図書館の検索、予約を可能とする。

2 新図書館の基本コンセプト

市民アンケート・団体ヒアリング・ワークショップの意見を踏まえ、新図書館の基本的コンセプトは次のとおりとする。

(1) 基本的な考え方

新図書館は、市民の読書活動を推進し、市民の知的好奇心を刺激するとともに、各種課題の解決に取り組めるように、資料や情報の収集と発信を行うとともに、積極的にICT化を進め、市民への貸出や予約などのサービスの利便性を高め、誰もが足を運びたいくなる環境とサービスを提供する図書館とする。それにより、急速に変化する社会において、市民に求められる図書館であり続ける。



① 育む・学ぶ

- ・すべての市民を読書へ誘い、本がある豊かな生活をおくれるよう、魅力的な図書 PLACE を提供する。
- ・市民が自ら地域課題を解決できるような学習の場、人材育成の場である図書 PLACE を提供する。

② つながる・集う

- ・多世代の市民、国内外の人々が集い交流することで、人と人を、知識と人を、地域と地域を、地域と外国をつなぐ協働 PLACE を提供する。
- ・大学や専門学校、民間企業との連携を進め、新たな創造性豊かな場づくりを目指す。
- ・学校図書室と連携し広域でのサービスを提供する。

③ 創造する

- ・市民が交流し、楽しみ、憩い、好奇心が刺激され、新たな価値を創る創造 PLACE を提供する。
- ・企業やビジネスパーソンが自由に集い、自らの企業の活性化や新たな技術開発、ビジネスモデルを構築できるとともにオフィスとして活用できる創造 PLACE を提供する。

3 導入機能

(1) 読書啓発、生涯学習機能

貸出、読書案内やリクエストサービスをサービスの基本とし、市民が「いつでも、どこでも、誰でも」求める図書を閲覧できる環境を整備し、そのための図書館システム網を構築するとともに、利用者が望む図書やデータ、情報の収集に努める。また、多文化共生社会において、市内に在住している外国人利用者のための外国語図書の充実も図る。

同時に市民が図書館に親しみ、利用がしやすく、長時間滞在できる空間をデザインするだけでなく、市内の小学校、中学校の学校図書室との連携を図り、市内全域での図書サービスを実現させる。

また、図書館を読書の場所としてのみとらえるのではなく、多世代が学ぶ場としてとらえ、生涯にわたって学び、創造し、充実した人生をおくれるよう、イベントや行事などのソフト事業の充実を図る。

(2) 子どもの健全育成機能

子どもにとって、本が身近にあって本を親しむことは「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」（子どもの読書活動の推進に関する法律第2条）として位置付けられており、読書は人生で重要な役割を果たしている。

子どもと保護者がともに読書に親しめることを基本とし、子どもの成長に合わせた資料選択を行い、発達段階に応じた読書環境を整え、子どもの自由読書空間や地域の子ども文化交流の拠点として、子どもの自主的な読書活動と保護者の子育てを支援するものとする。

(3) 青少年の健全育成

13歳～19歳の青少年は子どもから大人に成長する時期であり、体だけではなく心も大きく成長する。その心を育てるために、読書が一番必要な年代でもある。児童書から一般書への橋渡しの意味合いで、中学・高校生世代へ提供する図書を集集し、勉強とともに交流が可能な、中学・高校生や働く若者たちの空間を提供する。

また、青少年向けの行事を開催するなど、青少年の居場所としての機能を持たせる。

(4) ビジネス支援機能

図書館は情報蓄積の機能を備えており、さらにインターネット、データベースへのアクセス、ビジネスに必要な情報収集のノウハウによりレファレンスを提供することで、地域における起業及び中小企業などを支援する。

また、打ち合わせコーナーやオフィス機器の提供、起業に当たっての各種相談、起業家セミナー、ICT活用講座などのサービスを提供することにより地域の起業家及び中小企業などを支援する。

(5) 国際化・ICT化対応

多文化共生社会において、市内に在住している外国人利用者のための図書も充実させていく。また、インターネット、相談窓口、自動貸出、Wi-Fi、監視カメラ、センサーといったICTやIoTといった技術を使いながら、市民が使いやすい図書館をめざす。

(6) 観光案内機能

図書館は、観光ガイドブックを集集するだけでなく、地域を記録し、地域文化や伝統を資料として保存し、信頼できる地域情報を観光者に提供できる機能を備えている。訪れる来街者にこういった情報を図書によって提供していく。

(7) 郷土資料の充実

図書館には、地域の風習や歴史の記録が資料として保存されており、それらを提供し、紹介することで、市民の地元に対する愛着を醸成することができる。資料として保存、整理するだけでなく、積極的に公開し、市民が本市の情報に接する機会を増やす。

(8) イノベーション機能

図書館は情報収集、蓄積、検索の機能を担ってきたが、これらはインターネットを活用することにより図書館に通わずとも全国、世界の情報にアクセスすることができるようになった。

図書館は単に図書を無料で借りられ、自習できる空間としてだけでなく、知的活動を通じた住民の交流の空間、コミュニティ活動の空間としての機能が重要となるため、図書館に集った人たちが交流し、新たなアイデアを生む空間の整備と、交流するためのソフトサービスを提供する。

第3節 具体的な施設と機能

1 図書 PLACE

図書 PLACE は、図書館の最も基本的な機能である様々な資料を系統的に収集しそれらを整理し、蓄積・保存するとともに市民が直接に本と出会える開架空間である。

本の検索、貸出・返却、予約を行えるシステムやカウンター、資料の問い合わせや相談ができるレファレンスカウンターを導入し、市民が情報や本にスムーズに触れることができる仕組みを構築する。

図書 PLACE には、一般図書、郷土資料、雑誌、新聞などがある一般図書室、児童書、絵本、お話室、子どもが自由に遊べるプレイコーナーなどで構成される児童図書室、中学生と高校生向けのヤングアダルト図書と中高生専用で交流できる空間のティーンズスペースで構成される。

一般図書室	一般図書コーナー	一般図書・電子書籍を配架。一般成人向け図書空間と閲覧空間及び学習空間、ブラウジング空間。一般成人向け図書の収集と整理と情報発信を行う。 椅子や読書机を持つブラウジングコーナーを併設する。
	雑誌・新聞コーナー	広域、地域の雑誌新聞を読める空間。 雑誌、新聞のバックナンバーのストック、閲覧用の椅子を付帯させる。
	郷土資料及び行政資料	郷土資料及び行政資料を配架。 地域の歴史、特徴を調べられるデータベースや行政資料が常備されている。
	朗読室	目の不自由な方向けの対面朗読室及び録音室。
	レファレンスカウンター	本の貸出返却、予約を行う。 必要な資料や情報を必要な人に、的確に案内するレファレンス機能を含む。
	スタディールーム	学生や主婦、サラリーマン等が静かに学習できる空間。 机と椅子が整備され、他のオープンブラウジングから独立している。
児童図書室	児童図書コーナー	児童書を配架。児童が本を読み、調べ物ができる空間。椅子や机が用意されている。 児童の目線で図書が配架され、本が探しやすく分類されている。
	お話室	絵本・紙芝居を配架。絵本の読み聞かせや季節行事を実施する空間。 カーペットや木の床で靴を脱いで寝転ぶことができる。0-5歳が対象。
	プレイコーナー	幼児や児童が自由に遊べる空間。 ボールプール等遊具がおりてあり、声を出して遊ぶことができる。
ティーンズスペース・スタディールーム	ヤングアダルト図書を配架。中高生専用の空間で、勉強だけでなくお喋りやゲームが可能な空間。	

2 協働 PLACE

市民が読書や資料検索だけでなく、市民や各種団体や NPO などが集い交流し、本や情報を活用して地域の課題を解決する活動、自主的な市民活動、地域活動へと発展できるように、自由に打ち合わせができる協働 PLACE を整備する。

協働 PLACE には、自由に打ち合わせなどができるオープンスペース、セミナールーム、休憩や飲食が可能なカフェやレストラン、毛布のまち泉大津市をアピールする歴史展示コーナーやギャラリーを整備する。

同時に本市を訪れた観光客や留学生などが、観光情報や地域情報を獲得できるようにデータを収集蓄積するとともに、オープン PC や Wi-Fi 機能なども導入する。

協働オープンスペース	予約なく市民が来て打ち合わせできるオープンスペース。
印刷コーナー	印刷機やコピー機、裁断機などが準備され、パンフレットや冊子の作成が可能。
オープン PC コーナー	検索やデータにアクセスできるオープン PC、Wi-Fi も完備、持ち込み PC デスク。
ギャラリー、セミナールーム	各種セミナーやイベントが行えるスペース。パーティションで区切ることが可能。
カフェ・レストラン・ショップ	休息や交流のためのカフェ軽食コーナー。ショップを併設する。
歴史展示コーナー	毛布を中心とした泉大津市の歴史に触れることができる場所。

3 創造 PLACE

企業やビジネスパーソンが必要な情報にアクセスできる有料データベースなどを整備するとともに、自らの企業の経営向上、新規開発、技術革新、加えて新規創業などに向けて図書館の知財を活用できる創造 PLACE を整備する。

ビジネスやイノベーションなどに関する相談を受けるイノベーションデスクも導入する。

ビジネス専門図書コーナー	経営、人事、財務、経済、技術などに関する専門図書の収集と整理、提供。 有料のデータベースの閲覧ができる。
イノベーションスペース	経営や起業、新商品開発等ビジネスに関するサポート機能。
ビジネスオープンスペース	経営者やビジネスパーソンが打ち合わせやミーティングができるデスクとソファ空間。会話、電話での会話が可能。PC を持ち込んで作業できるコワーキングスペース、自由に使える PC、Wi-Fi 整備。
会議室	クローズで会議ができる会議室。

4 共有機能

共有機能としては以下の機能を導入する。

ゲート・エントランス	入室者の管理や図書の不正持ち出し防止ゲートとエントランス。
事務室・作業室	本の整理、事務所。
児童用トイレ・授乳室	幼児や児童向けの専用トイレ。 乳児連れの保護者のための授乳室、おむつ替え台を備え付ける。
成人向けトイレ	成人向けトイレとユニバーサルトイレの整備。
廊下、避難路	諸室を結ぶ廊下、避難経路。

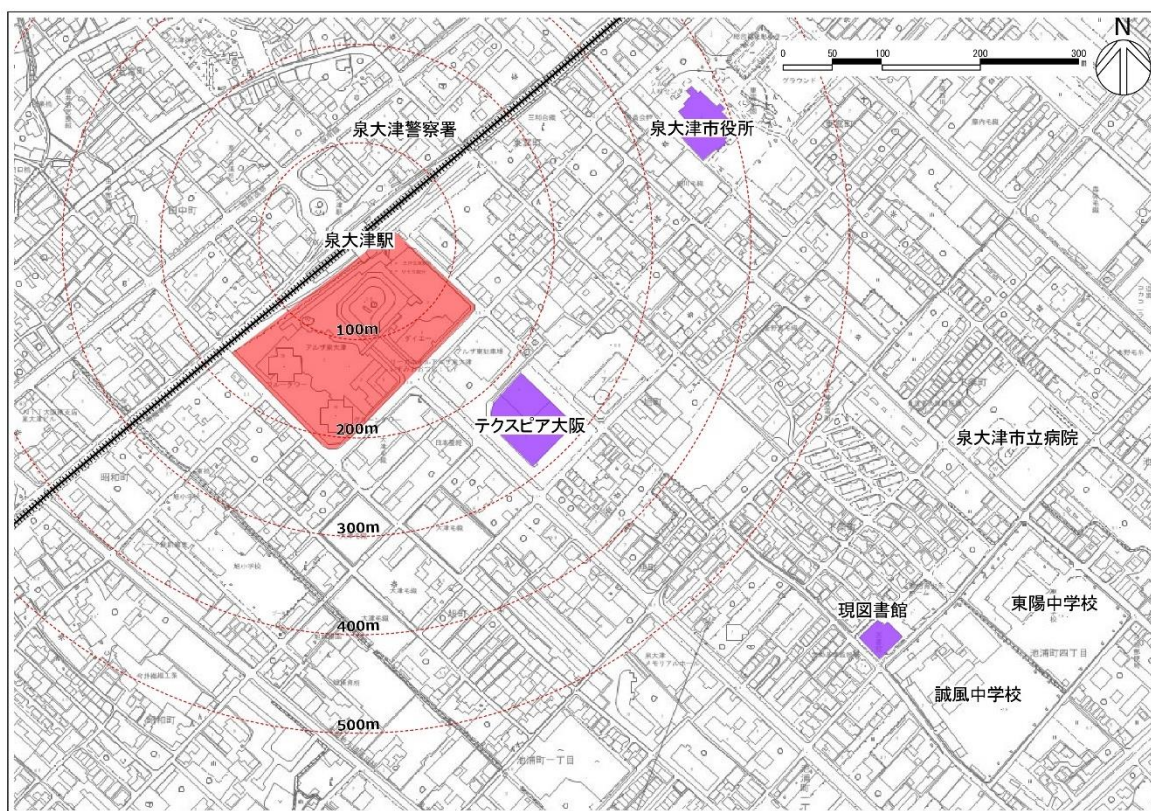
第7章 新図書館の整備計画

第1節 候補施設の現状と選定理由について

新図書館の候補施設となる泉大津駅前商業施設は、泉大津駅東地区第一種市街地再開発事業により建設され、1994（平成6）年9月にオープンした施設である。

泉大津駅周辺では、南海本線の連続立体高架化に伴い、泉大津駅高架下を活用したまちづくりが展開されており、2017（平成29）年3月には、高品質な生鮮食料品を販売するスーパーマーケットを核テナントとする商業施設「N.KLASS（エヌクラス）泉大津」がオープンしている。

図書館は、公共施設のなかでも定期的な利用が見込まれる施設であり、その集客性を活かすことで、高架化により活性化が進みつつある泉大津駅周辺まちづくりへの波及効果が期待される。



図表 7-1 駅前商業施設の立地状況

第2節 施設配置

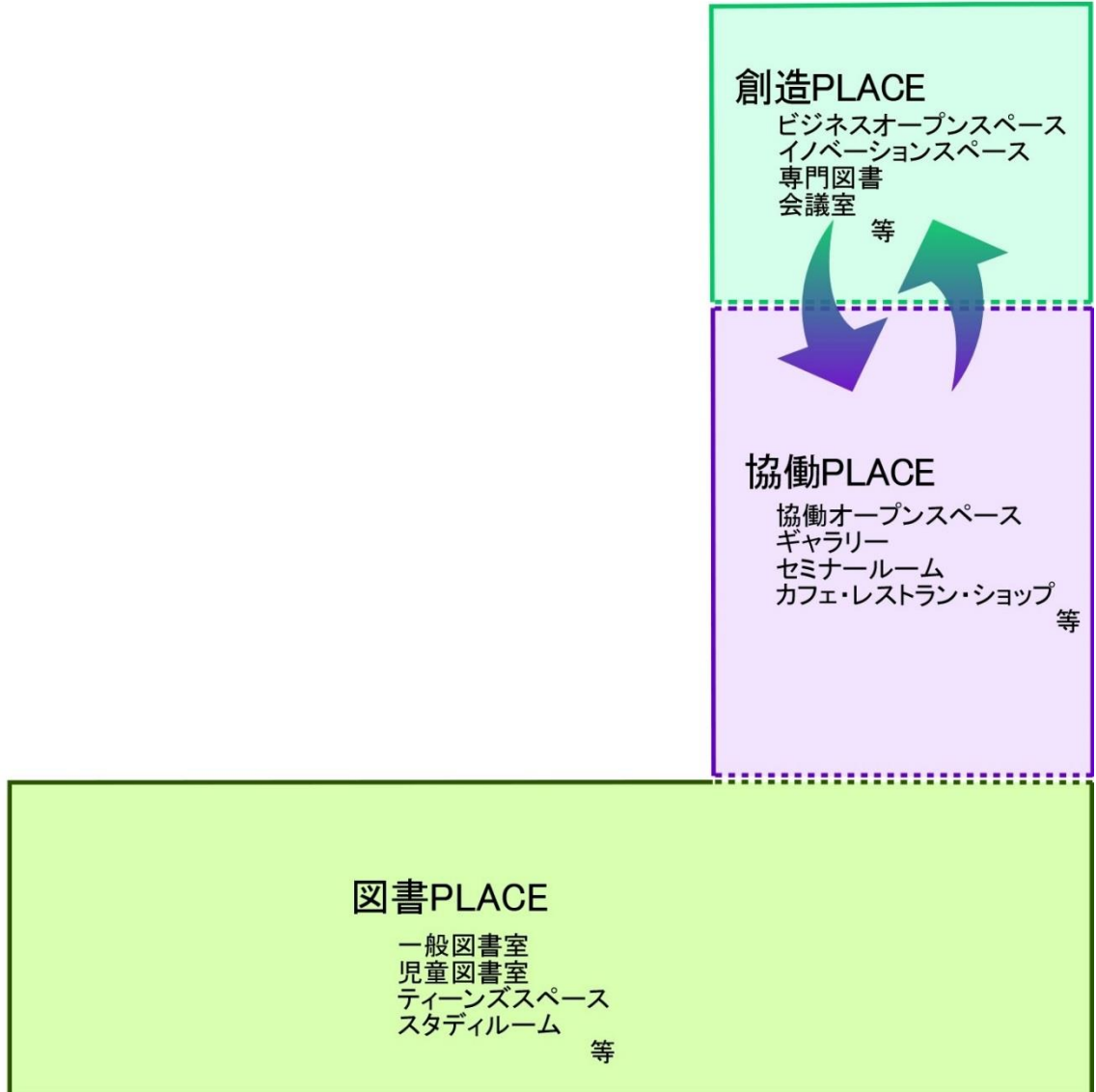
1 具体的な導入機能（再掲）

図書 PLACE	一般図書室	一般図書コーナー	一般図書・電子書籍を配架。一般成人向け図書空間と閲覧空間及び学習空間、ブラウジング空間。一般成人向け図書の収集と整理と情報発信を行う。 椅子や読書机を持つブラウジングコーナーを併設する。
		雑誌・新聞コーナー	広域、地域の雑誌新聞を読める空間。 雑誌、新聞のバックナンバーのストック、閲覧用の椅子を付帯させる。
		郷土資料及び行政資料	郷土資料及び行政資料を配架。 地域の歴史、特徴を調べられるデータベースや行政資料が常備されている。
		朗読室	目の不自由な方向への対面朗読室及び録音室。
		レファレンスカウンター	本の貸出返却、予約を行う。 必要な資料や情報を必要な人に、的確に案内するレファレンス機能を含む。
		スタディールーム	学生や主婦、サラリーマン等が静かに学習できる空間。 机と椅子が整備され、他のオープンブラウジングから独立している。
	児童図書室	児童図書コーナー	児童書を配架。児童が本を読み、調べ物ができる空間。椅子や机が用意されている。 児童の目線で図書が配架され、本が探しやすく分類されている。
		お話室	絵本・紙芝居を配架。絵本の読み聞かせや季節行事を実施する空間。 カーペットや木の床で靴を脱いで寝転ぶことができる。0-5歳が対象。
		プレイコーナー	幼児や児童が自由に遊べる空間。 ボールプール等遊具がおりてあり、声を出して遊ぶことができる。
		ティーンズスペース・スタディールーム	ヤングアダルト図書を配架。中高生専用の空間で、勉強だけでなくお喋りやゲームが可能な空間。
協働 PLACE	協働オープンスペース	予約なく市民が来て打ち合わせできるサロンスペース。	
	印刷コーナー	印刷機やコピー機、裁断機などが準備され、パンフレットや冊子の作成が可能。	
	オープン PC コーナー	検索やデータにアクセスできるオープン PC、Wi-Fi も完備、持ち込み PC デスク。	
	ギャラリー、セミナールーム	各種セミナーやイベントが行えるスペース。パーティションで区切ることが可能。	
	カフェ・レストラン・ショップ	休息や交流のためのカフェ軽食コーナー。ショップを併設する。	
	歴史展示コーナー	毛布を中心とした泉大津市の歴史に触れることができる場所。	
創造 PLACE	ビジネス専門図書コーナー	経営、人事、財務、経済、技術などに関する専門図書の収集と整理、提供。 有料のデータベースの閲覧ができる。	
	イノベーションスペース	経営や起業、新商品開発等ビジネスに関するサポート機能。	
	ビジネスオープンスペース	経営者やビジネスパーソンが打ち合わせやミーティングができるデスクとソファ空間。会話、電話での会話が可能。PC を持ち込んで作業できるコワーキングスペース、自由に使える PC、Wi-Fi 整備。	
	会議室	クローズで会議ができる会議室。	
共有機能	ゲート・エントランス	入室者の管理や図書の不正持ち出し防止ゲートとエントランス。	
	事務室・作業室	本の整理、事務所。	
	児童用トイレ・授乳室	幼児や児童向けの専用トイレ。 乳児連れの保護者のための授乳室、おむつ替え台を備え付ける。	
	成人向けトイレ	成人向けトイレとユニバーサルトイレの整備。	
	廊下、避難路	諸室を結ぶ廊下、避難経路。	

2 ゾーニングイメージ

必要機能における各スペースのイメージを以下に示す。

図表 7-2 ゾーニングイメージ



※当ゾーニングイメージについては、あくまで機能の振り分けの一例を示したものであり、館内を3つのPLACEに分けそれぞれの機能を配置した例。

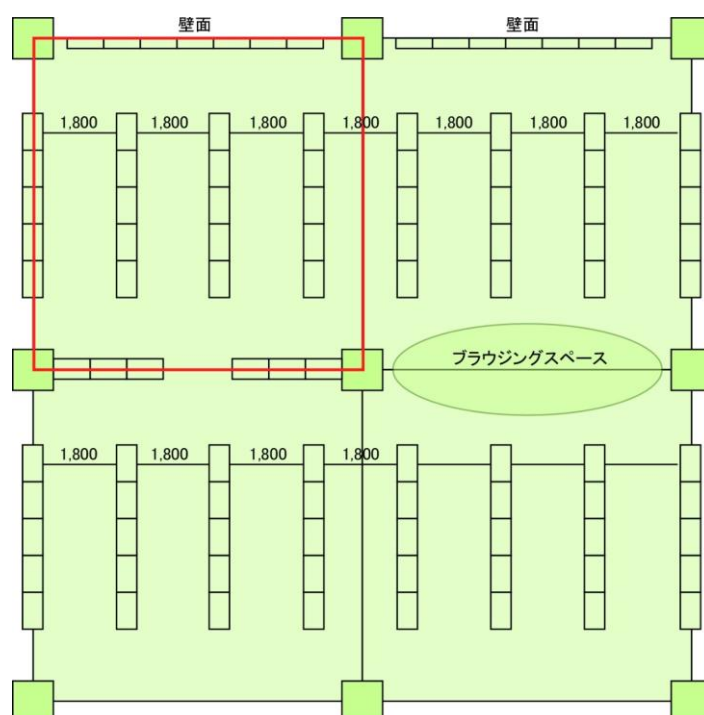
3 設備に関する考え方

(1) 書架の配置

本施設の許容積載荷重を勘案すると、一般の図書館よりも書架高さを抑え、書架間隔を広く設定するなど、単位面積当たりの積載荷重を許容内に抑える必要がある。

下図のような書架配置を想定し、最も積載荷重が大きくなる赤枠の範囲での荷重を計算したところ 129 kg/m²となり、当初の設計の許容範囲内であることが確認された。

なお、本施設の許容積載荷重については、実施設計の段階において、より詳細な検討が必要となる。



図表 7-3 書架配置イメージ

(2) 空調

本施設については、隣接するホテル等も含めた地域熱供給による冷暖房システムが導入されており、各階では、天井に設置された送風機（ファンコイル）によって、全館空調が行われている。

会議室など、利用時間が限定される居室等については、個別空調システムを導入するなど、個別にも対応できるような検討を行う。

(3) 照明

本施設については、南西面のための採光となっており、天井照明（タスク照明）、手元照明（アンビエント照明）を組み合わせ、書架や机上の明るさを十分に確保する照明を検討する。

(4) 音環境

静かに読書できる空間と、対話などを許容するオープンスペース、ティーンズスペースについては、静かに読書できる空間との防音には配慮する。

また、空調や機械室等の防音、防振を十分に行うなど、一般の利用に影響を与えないような検討を行う。

(5) トイレ・授乳室

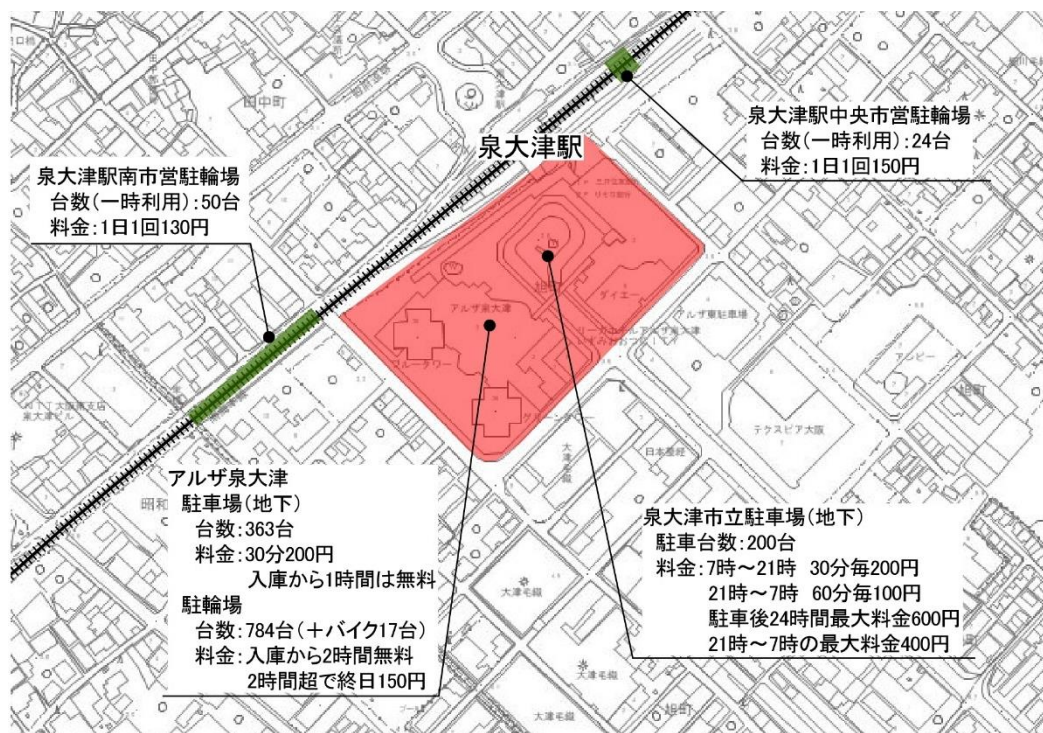
子育て世帯や障がい者など、誰もが安心して利用しやすいトイレ・授乳室の整備を検討する。

児童図書に近いトイレなどについては、子ども用のトイレ設備の導入なども検討する。

(6) 駐車場及び駐輪場

本施設周辺には、下記のような駐車場、駐輪場が整備されている。また、この他にも民間の時間貸し駐車場や駐輪場などもある。

図書館利用者の多くは、自家用車や自転車での利用が想定されることから、図書館利用者への無料券の配布についても検討を行う。



図表 7-4 駅周辺の駐輪場・駐車場の状況

第3節 整備費用と運営費用（概略）

概算整備費の算定にあたっては、駅前商業施設を改修し、図書館として再整備している類似事例の整備費を参考に、延べ床面積あたりの単価を設定して、延べ床面積を乗ずることで計算する。

なお、改修の内容や備品購入費等をどの程度見込むかによって、実際に整備費が異なることに留意が必要である。

さらに、近年、東京オリンピック関連の工事や災害対策等により、建設費が高騰していることにも留意が必要である。

図表 7-5 類似事例の整備費等

	概要	改修面積	整備費	m ² あたり
		m ²	万円	万円/m ²
桶川市	JR桶川駅前のショッピングセンター4階に昭和63年にオープンした図書館を、 平成27年10月 に同施設の3階に「OKEGAWA hon プラス+）としてリニューアル。蔵書数は、6.8万冊から9.1万冊に増加。備品購入費が別途1億円。	1,511	29,000	19.2
寝屋川市	昭和61年に竣工した「アドバンスねやがわ」二号館3階フロアを公有財産として取得。（財産取得費1.5億円） 平成24年 に改修工事を実施し、平成25年春開館。都市再生整備計画（旧まちづくり交付金）を活用。	1,266	19,000	15.0
玉野市	昭和47年に建設された「天満屋ハピータウンメルカ」の2階床を施設所有者が玉野市に譲渡。約4,300m ² を図書館（2,260m ² ）・公民館（1,708m ² ）として、 平成29年 にリニューアルオープン。	4,218	51,200	12.1
泉大津市	泉大津駅東地区第一種市街地再開発事業により建設され、平成6年9月にオープン。	3,000	45,000 ～ 60,000	15～20

第8章 運営について

1 図書館の運営手法について

(1) 運営手法

新図書館の整備と一体化して図書館機能の効果を引き出すことが重要である。

運営手法としては、公設公営型、公設民営型、公設公営一部委託型などの形態が考えられる。

図表 8-1 運営手法比較

手法	指揮命令等 マネージメント	予算	ノウハウの蓄積化
公設公営	◎	○	◎
公設民営(指定管理)	◎	◎	▲
公設公営一部委託	○	○	▲

(2) 運営手法のメリットとデメリット

運営手法のメリット・デメリットは以下のとおり。

新図書館の運営に関しては、公設公営、民間への指定管理者制度のメリット・デメリットを比較して、公設公営で行うこととする。レストランやカフェ及びイノベーションスペース等の運営に関しては、民間委託等を検討する。

図表 8-2 運営手法のメリット・デメリットの整理

	メリット	デメリット
公営	<ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法、社会教育法、図書館法という教育体系の下で市民の読書の活動、知る権利を保証するとともに、誰にも平等で公平なサービスを提供することができる。 ・図書館行政だけでなくまちづくりの視点に立ち、自治体全体の政策と関連した方向を打ち出すことができる。 ・地域の生涯学習施設や学校図書室との連携体制が構築できる。 ・長期的な視野に立った専門人材の育成や研修を実施できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなサービスを実施する時に専門人材が不足している現状では、すぐに対応することができない。 ・長期的にみれば公設民営と比較して人件費が上がる。 ・司書職での採用をしておらず、専門人材の確保が難しい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体が直接運営することで、図書館での課題や市民の意見を他の行政政策に反映することができる。 ・図書館運営のノウハウが蓄積される。 	
指定管理	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなトレンドサービスに素早く対応することができる。 ・開館時間の延長や開館日数が大幅に増加できる。 ・公営と比較して人件費が下がる。 ・司書職などの専門人材を採用しやすい。 ・レストランやカフェの運営、本の販売など。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約期間が5年程度となり、雇用が不安定である。また経営の継続性が担保できない。 ・専門人材の低賃金化が問題となっており、官製ワーキングプア等が危惧される。 ・選書などにおける長期的な方針が途切れる。

(3) 専門人材の確保

新図書館の運営に当たっては、公設公営方式での運営を行うことから、図書館の専門人材確保が不可欠となる。特に図書館の運営の司令塔である図書館長には、次のようなリーダーシップが求められる。

- 環境変化に合わせて図書館の改革や運営方針を決定する。
- 図書館の役割と意義を十分認識し、あらゆる機会を利用して市民に図書館の役割を浸透させ利用を促進させる。
- 市民と行政双方の信頼と支持を得て、図書館業務を把握し、継続的な予算獲得、図書館職員の確保を図る。
- 図書館職員を指導し、その資質や能力を向上させるなど人材育成を図る。
- 市民ニーズや社会変化に対応して新しいサービスを導入する。

従って、図書館長の確保に当たっては、広く公募して人材を求めるか、新図書館開設までに、自治体内部での人材育成を図る必要がある。

(4) スタッフの強化

新図書館の運営にあたり、本市人口規模である6-9万人、面積2,000-3,000㎡（実質図書館面積）で日本の図書館の平均職員数を比較してみると専任人材と非常勤職員数の差は以下のとおりである。

図表 8-3 同規模図書館の平均と現図書館の職員数の比較

	職員数		
	専任計	うち司書・司書補	非常勤臨時
同規模図書館の平均	6	3	9
現図書館(※)	1	1	5

出典) 日本図書館協会「日本の図書館 2017年」

※) 窓口業務委託による職員数は含んでいない。

従って、同規模図書館の平均では、専任6人と非常勤職員9人の約15名が、また、司書資格の専任職員は3人以上が必要とされている。

開館時間等により差異はあるが、本市においても体制の強化が必要である。

加えて、非常勤職員の採用や契約においては、指揮命令系統が複雑化しないように、委託や派遣などの制度を使わずに直接の雇用契約とすることが望ましい。

(5) 図書館協議会等の設置の検討

図書館の運営や提供するサービスの向上のため、図書館の運営に関して館長の諮問に応じ、また図書館の行う奉仕について館長に対して意見を述べる、図書館協議会あるいはそれと同等の働きができる機関の設置を検討する。

2 運営費について

新図書館の運営に当たっては、図書館面積が現図書館よりも広くなること、さらに、協働PLACE、創造PLACE等のサービスが新たに加わること、さらに専任人材等の職員数が大幅に増加することからその運営費を十分に確保する必要がある。

運営費に関しては、他自治体の運営費の比較から考察すると、8万人未満の図書館の総事業費は以下のとおりである。

図表 8-4

項目	～6万人	～8万人	～10万人	単位
図書館専有面積	3,463	3,299	4,371	㎡
図書館全体経費	79,278	108,279	123,591	千円
資料費	20,413	26,725	28,824	千円
人口当たり資料費	375	402	327	円

第9章 今後のスケジュール（予定）

今後のスケジュール（予定）を以下に示す。

	2019 年度				2020 年度				2021 年度	
設計	基本・実施設計 6月 ←————→ 12月									
工事					整備工事 6月 ←————→ 1月					
引越							2月・3月 ←————→		4月 オープン	

第10章 参考資料

第1節 泉大津市図書館整備検討委員会

(1) 検討委員会の設置について

泉大津市図書館の整備に関し、泉大津市にふさわしい図書館の在り方について、その基本理念や方向性、具体的施策の展開について幅広い視点から意見を聴くため、泉大津市図書館整備検討委員会を設置する。

(2) 検討委員会名簿

氏名	所属	備考
中川 幾郎	帝塚山大学名誉教授	委員長
前田 茂樹	大阪工業大学准教授	
花井 裕一郎	一般社団法人日本カルチャーデザイン研究所理事長	小布施町立図書館まちとよテラス初代館長
木村 由香	泉大津市校長会代表	
源 眞由美	泉大津市園長所長会代表	
三井 保夫	泉大津市立図書館長	
藤原 容子	泉大津市社会教育委員	

(3) 開催概要

日時	議題
第1回 平成30年7月23日	<ul style="list-style-type: none">検討スケジュールについて泉大津市図書館整備の方向性について
第2回 平成30年10月12日	<ul style="list-style-type: none">各種意向調査を踏まえた論点整理新図書館の位置づけについてサービス機能と面積について
第3回 平成30年11月15日	<ul style="list-style-type: none">図書館の位置づけ、コンセプトと導入機能について図書館運営と整備のあり方について
第4回 平成31年3月28日	<ul style="list-style-type: none">泉大津市図書館整備基本構想（案）に対するパブリックコメントの結果について泉大津市図書館整備基本構想についての意見交換

第2節 各種意向調査

1 図書館のあり方についてのアンケート調査

(1) 調査の概要

これからの図書館のあり方を検討するにあたり、広く市民の意見を伺い、図書館整備基本計画に反映していくことを目的に、市民アンケート調査を実施した。

■調査の方法及び概要

対 象：無作為に抽出した16歳以上の市民1,000人

調査方法：郵便による発送・回収

調査時期：平成30年8月30日発送、9月14日締切

回収状況：回収数321票（回収率32.3%（未達の5件を除く回収率））

■グラフの見方

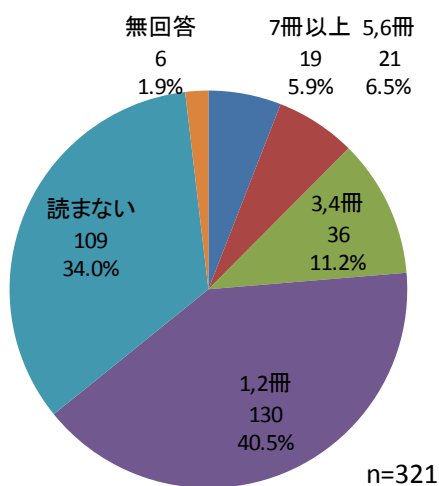
- ・グラフに表示されているn値は有効回答数である。
- ・集計結果の%表示は、小数点第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならない場合がある。
- ・複数回答が可能な設問の場合、内訳の合計が100%にならない場合がある。
- ・設問ごとの年齢別や地区別の集計は、無回答を排除しているため、有効回答数の合計が、全体の有効回答数と合致しないことがある。

(2) 調査結果

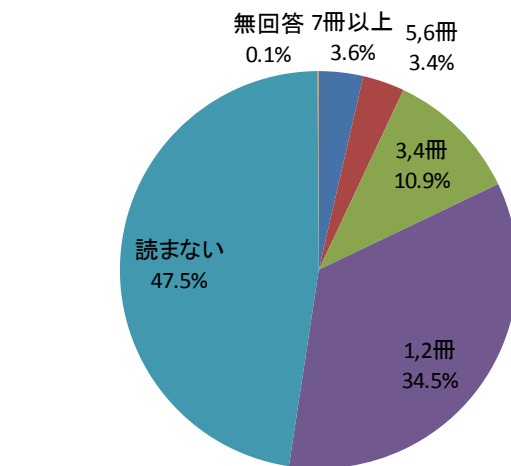
あなたの日頃の読書量についてお尋ねします

① あなたが1か月に読む本の冊数はどの程度ですか。

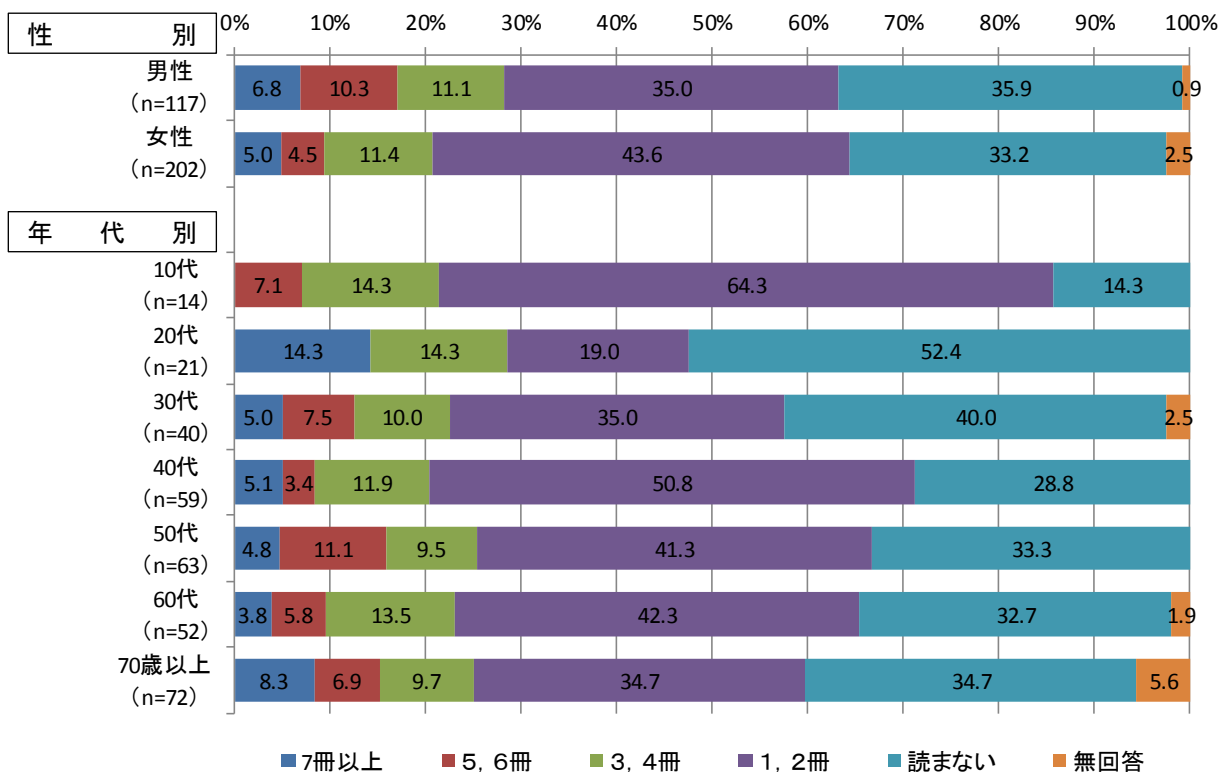
- ・ 1ヶ月に読む本の冊数は、「1、2冊」が最も多く40.5%、次いで「読まない」が34.0%。
- ・ 5冊以上本を読んでいる割合は男性の方が多く、年代別では40代が最も少ない。
- ・ 全国と比較をすると、1冊以上本を読んでいる割合は、泉大津市の方が多くなっている。



(参考)平成 25 年度「国語に関する世論調査」

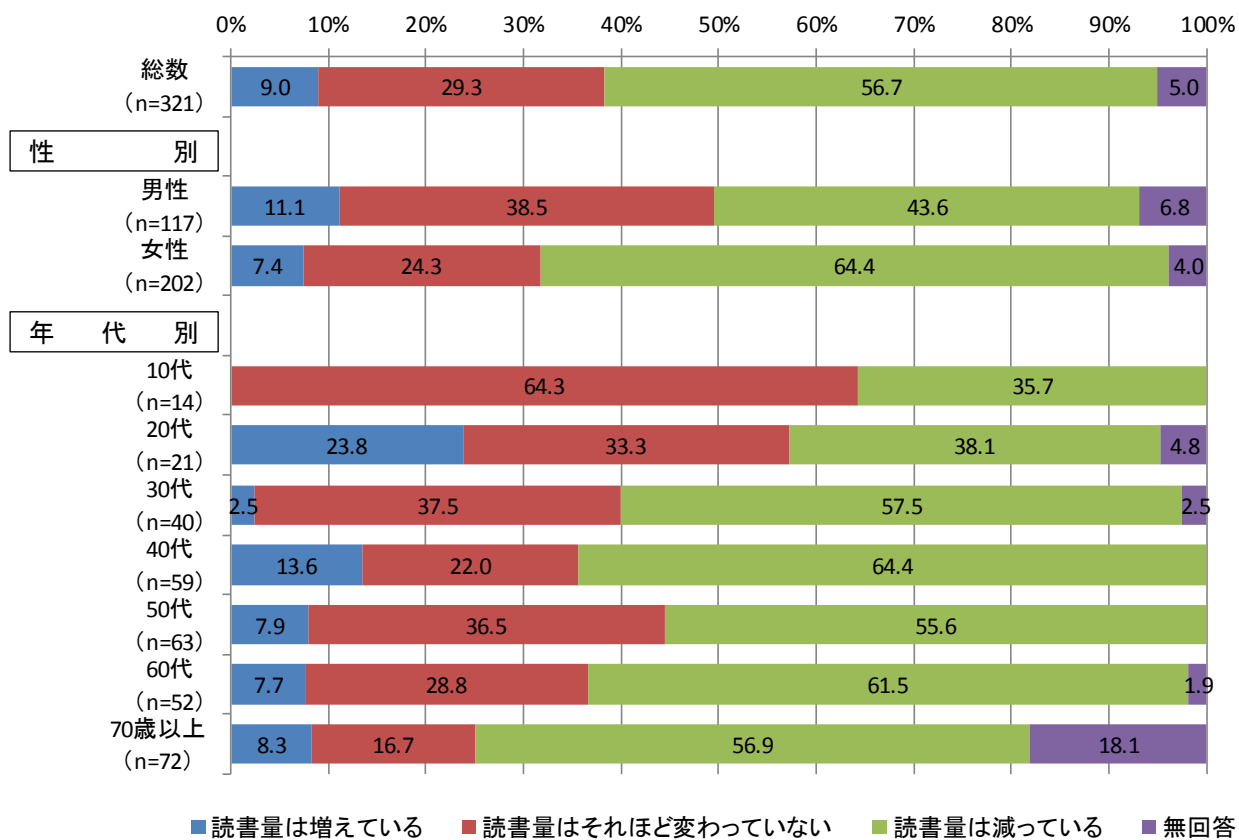


調査対象: 全国 16 歳以上の男女
調査時期: 平成 26 年 3 月



② あなたの読書量は以前に比べて減っていますか、増えていますか。

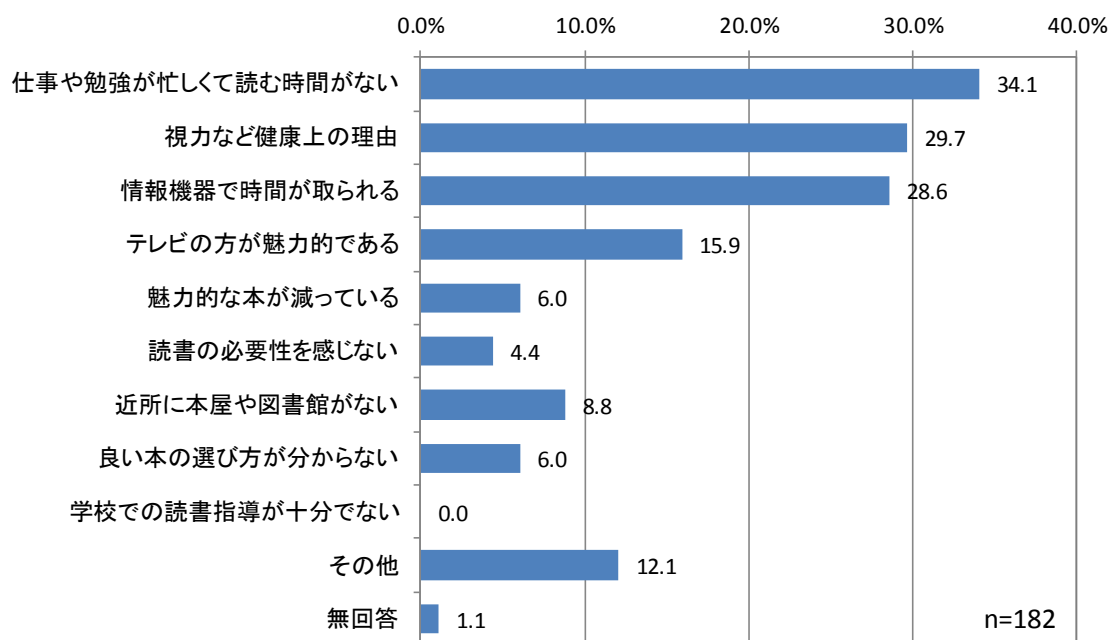
- ・読書量については、「減っている」が56.7%となっている。
- ・年代別にみると、40代、60代で「減っている」と回答している割合が高くなっている。



上記問で、「読書量は減っている」と回答した方にお伺いします。

③ 読書量が減っている理由は何ですか。主な理由について2つまで0をつけてください。

- ・読書量が減っている理由としては、「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」が34.1%、次いで「視力などの健康上の理由」が29.7%、「情報機器で時間が取られる」が28.6%となっている。
- ・その他の理由としては、育児や介護などが挙げられており、40代、60代で読書量が減っている割合が高い要因だと考えられる。

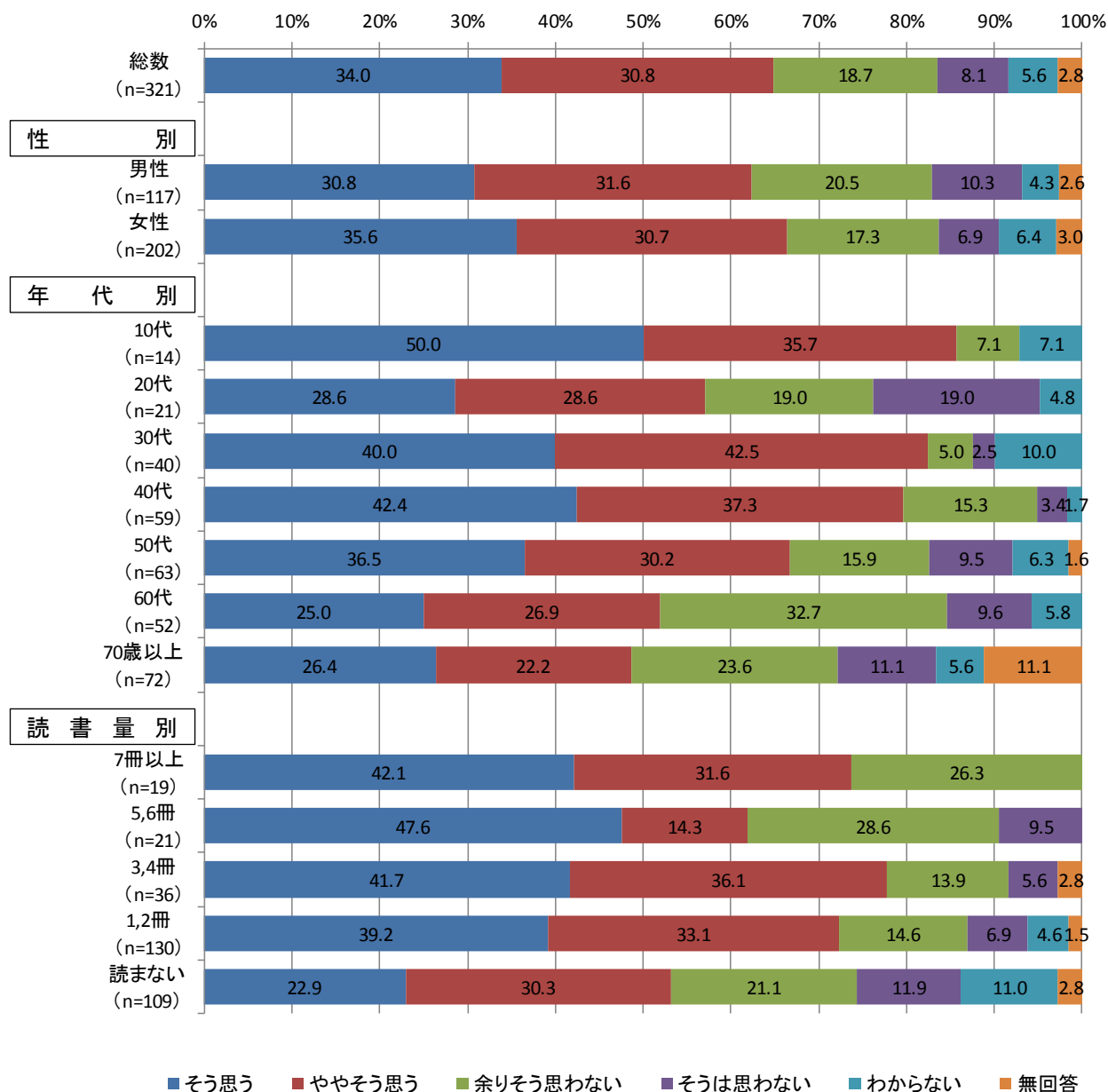


(その他の主な意見)

- ・家事・育児で忙しい
- ・家族の介護で忙しい
- ・通勤時間・通学時間が短くなった
- ・携帯やネットで調べられるから

④ 自分の読書量を増やしたいと思いますか。

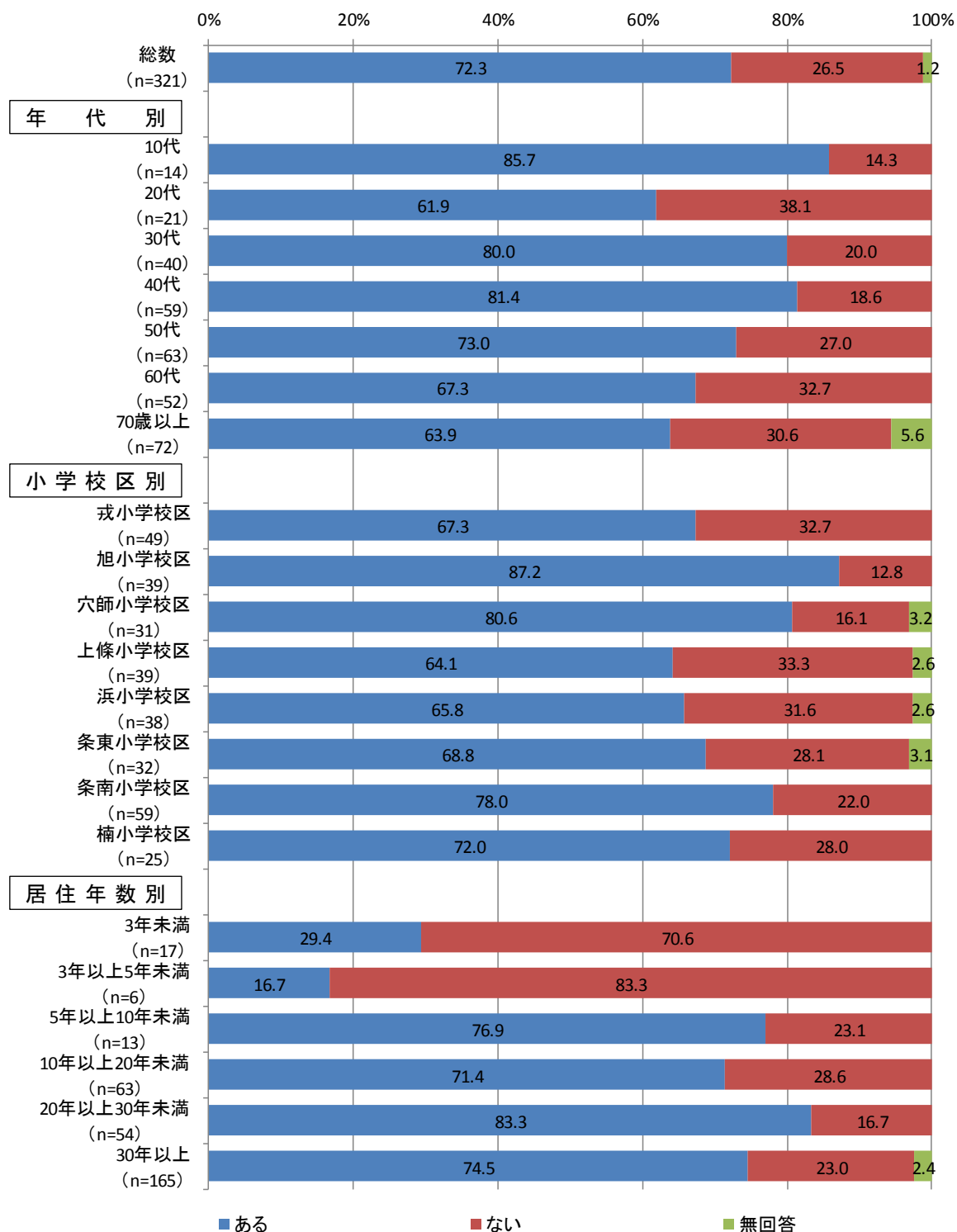
- ・読書量を増やしたいと考えている回答者は6割以上となっている。
- ・年代別にみると、10代が最も高く8割以上となっている。年代が高くなるにつれて増やしたいと思っている回答者の割合は減少している。
- ・1ヶ月に読む本の冊数別にみると、「3, 4冊」読んでいる人が最も読書量を増やしたいと考えており、「読まない」人の3割以上は、読書量を増やしたいとは思わないと回答している。



現在の泉大津市の図書館についてお尋ねします

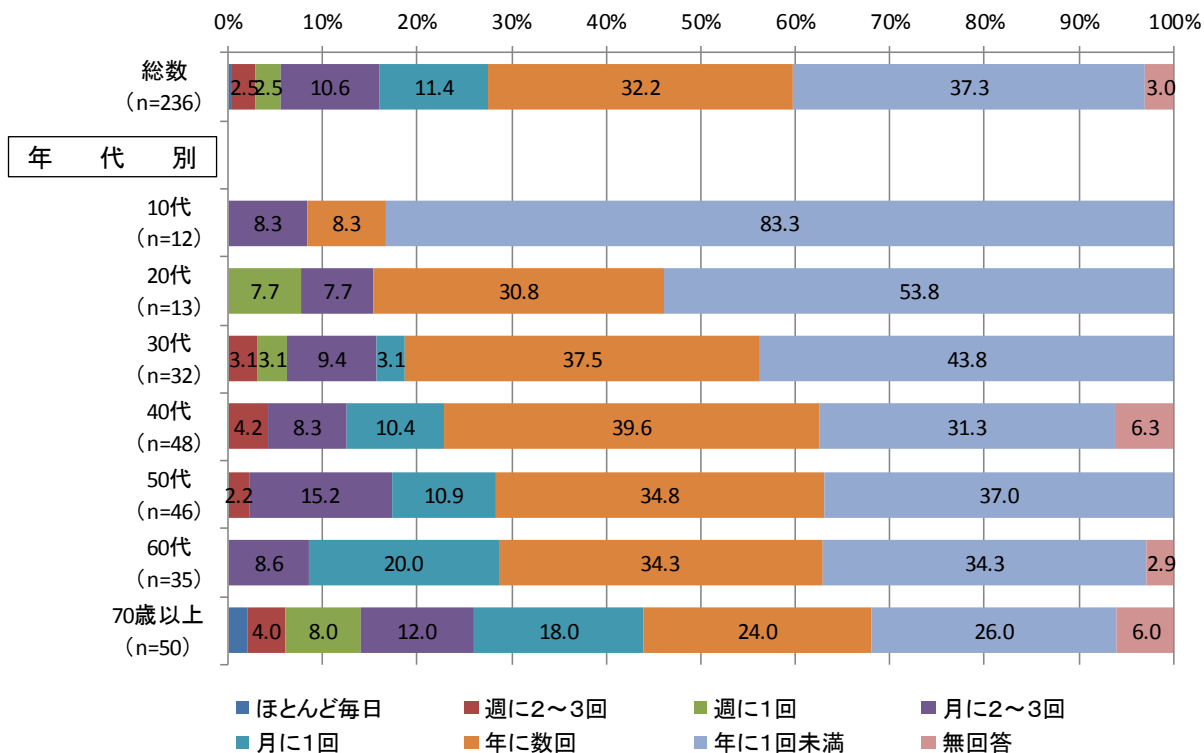
⑤ 泉大津市の市立図書館を利用したことがありますか。

- ・ 7割以上が市立図書館を利用したことがあると回答している。
- ・ 年代別にみると、10代、30代、40代で利用したことがあると回答している割合が高く、40代以降は、年代があがるにつれて利用したことがある割合が減っている。
- ・ 小学校区別にみると、図書館に近い旭小学校区や穴師小学校区において利用したことがある割合が高くなっている。
- ・ 居住年数別にみると、居住年数5年未満の回答者において利用したことがある割合が低くなっている。



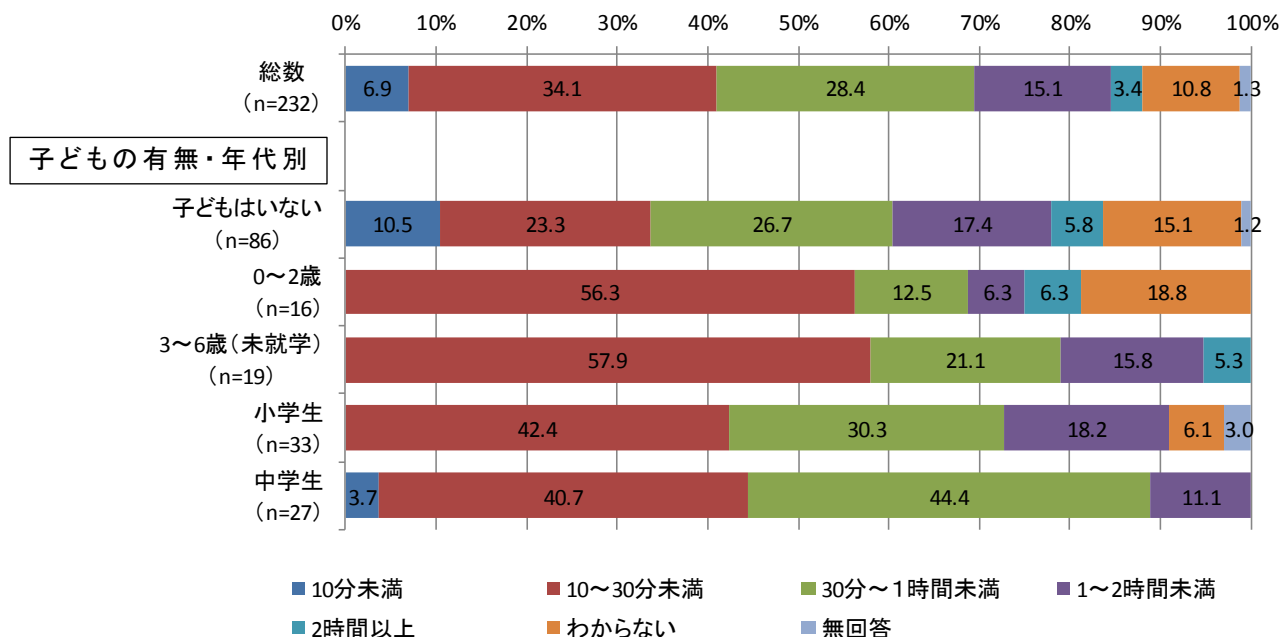
⑥ どのくらいの頻度で図書館を利用しますか。

- ・利用頻度は、「年に1回未満」が最も多く37.3%、次いで「年に数回」が32.2%となっている。
- ・年代別にみると、年代があがるほど利用頻度は高くなる傾向にある。



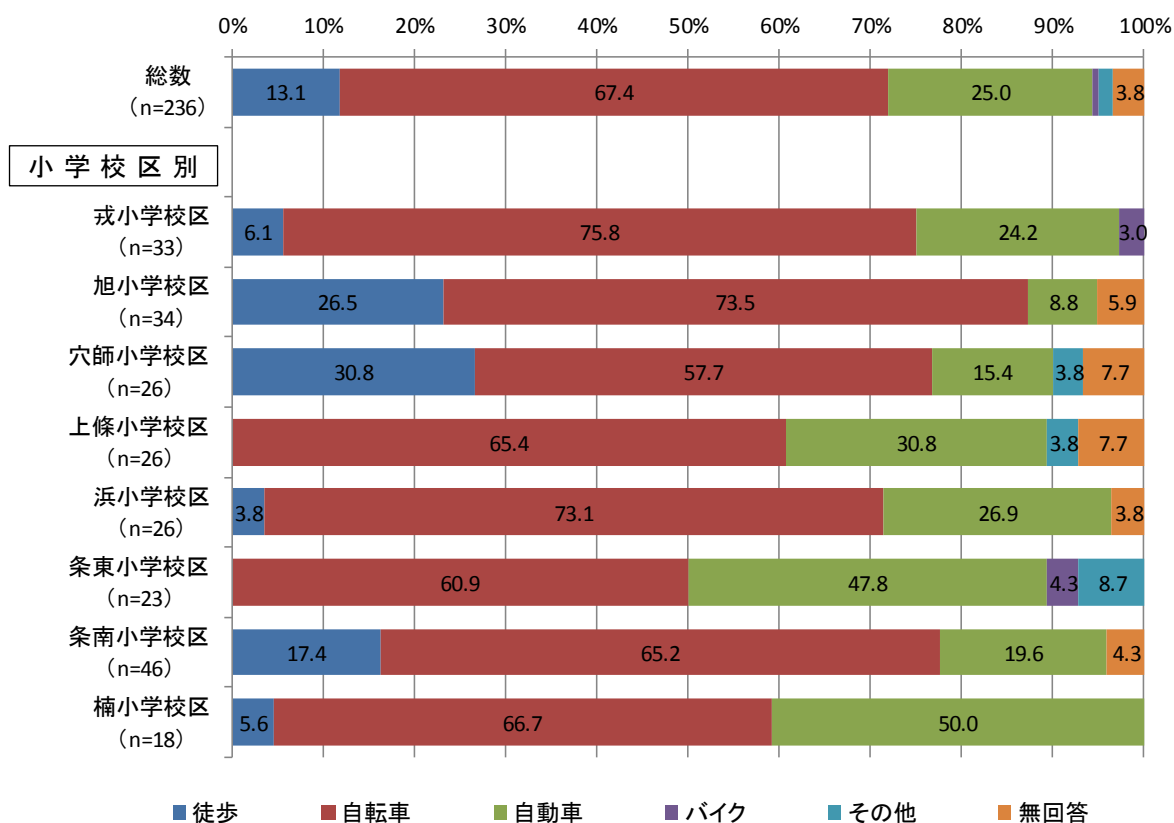
⑦ 図書館での滞在時間はどれくらいですか。

- ・図書館での滞在時間は、「10～30分未満」が最も多く34.1%、次いで「30分～1時間未満」が28.4%となっている。
- ・子どもの有無、こどもの年代別にみると、6歳未満の子どもを持つ回答者の半数以上が「10～30分未満」となっており、小さな子ども連れの利用者が長居しづらい環境にあることがうかがえる。



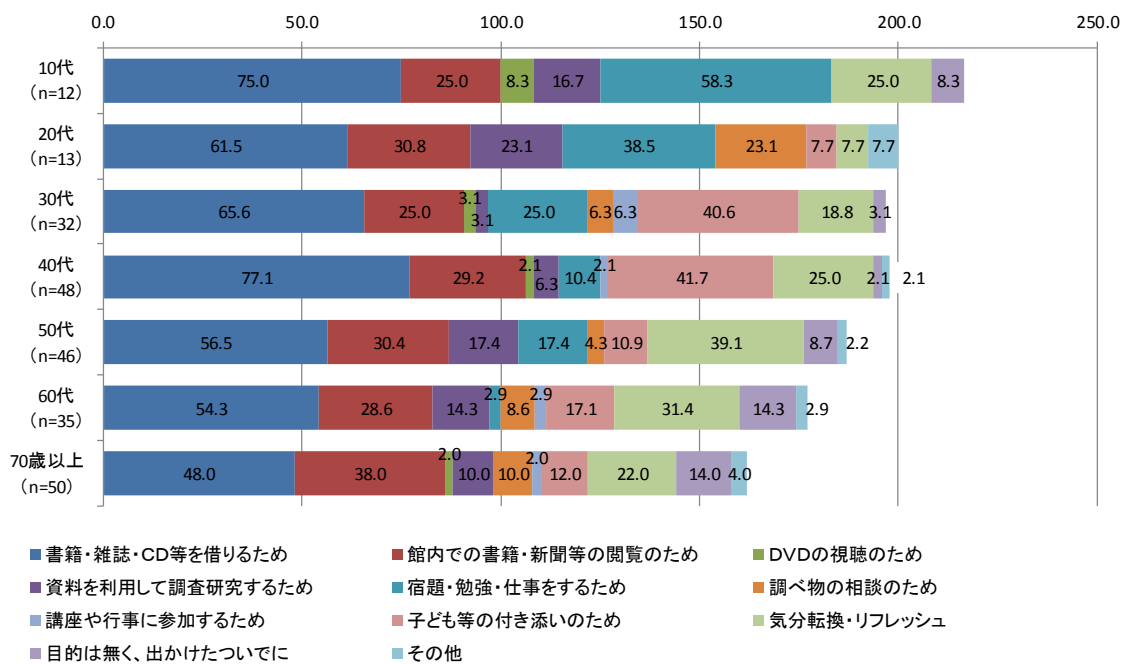
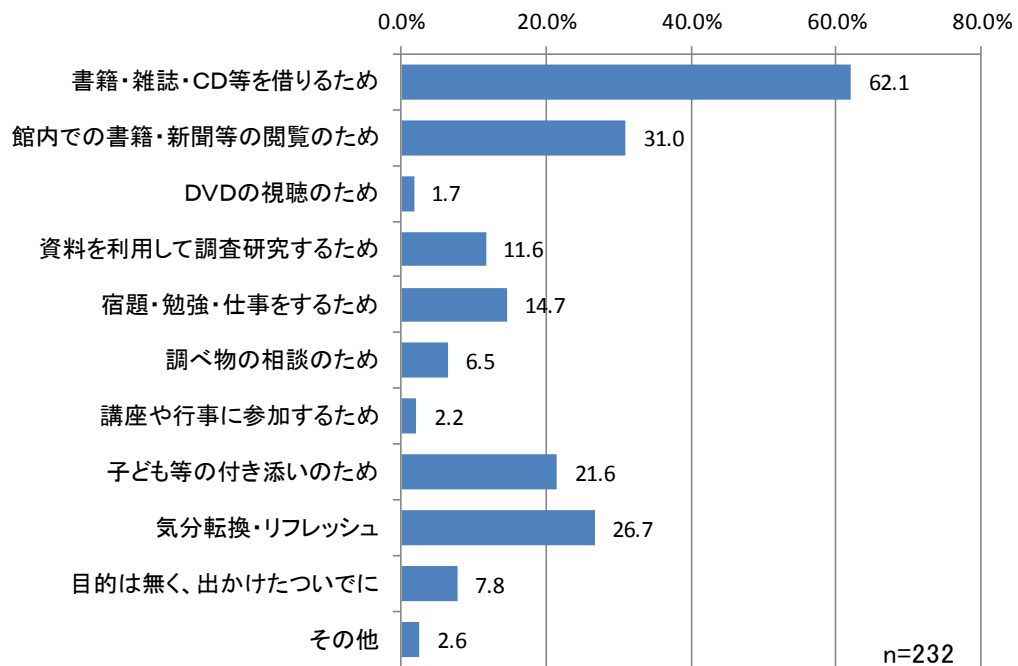
⑧ 図書館への交通手段は何ですか。

- ・図書館への交通手段については、「自転車」が最も多く 67.4%、次いで「自動車」が 25.0%となっている。
- ・小学校区別にみると、図書館に近い戎小学校区や穴師小学校区において「徒歩」の割合が高くなっている。



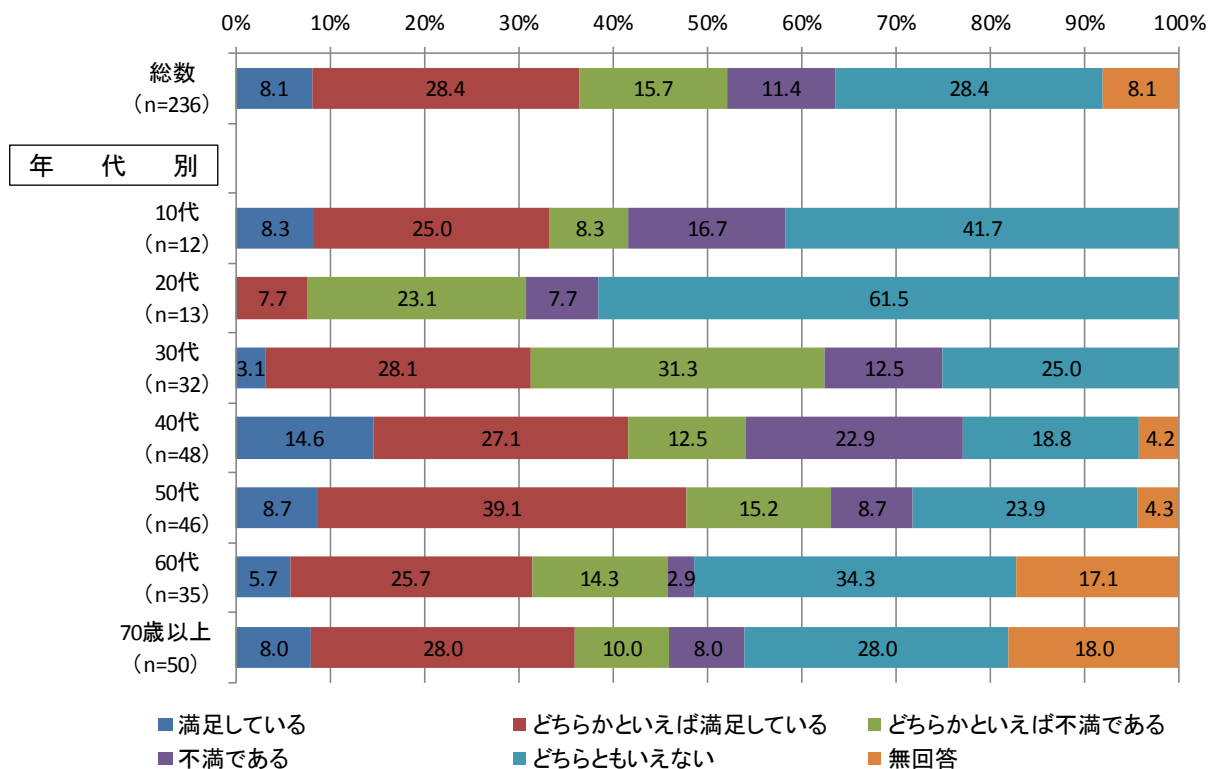
⑨ 泉大津市立図書館を利用する目的は何ですか。主な理由について3つまでをつけてください。

- ・図書館を利用する目的については、「書籍・雑誌・CD等を借りるため」が最も多く62.1%、次いで「館内での書籍・新聞等の閲覧のため」が31.0%、「気分転換・リフレッシュ」が26.7%となっている。
- ・年代別にみると、10代、20代は「宿題・勉強・仕事をするため」、30代、40代は「子ども等の付き添いのため」、50代、60代は「気分転換・リフレッシュ」の割合が高くなっている。



⑩ 現在の泉大津市立図書館のサービスに満足していますか。

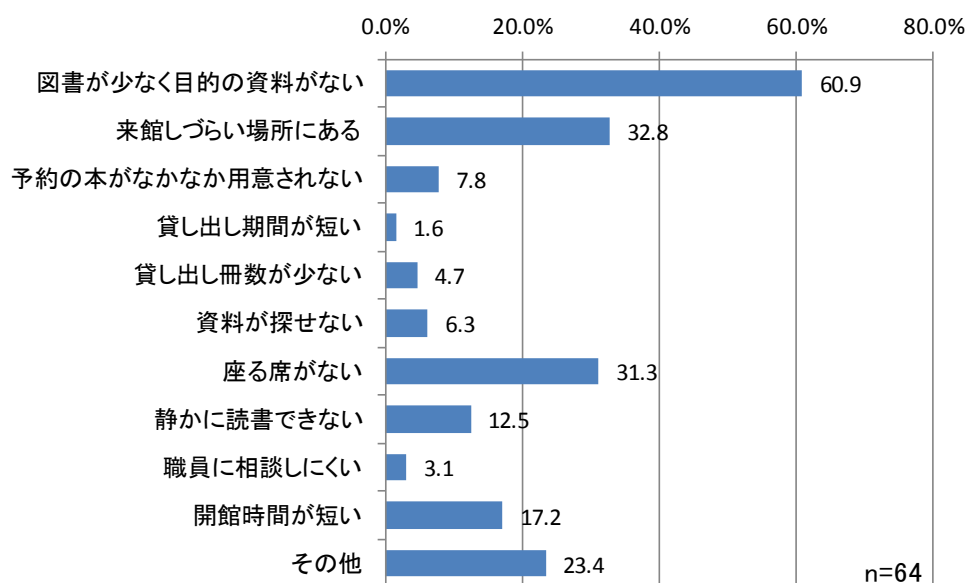
- ・現在の図書館のサービスの満足度については、「満足している」「どちらかといえば満足している」を合わせて36.5%が満足していると回答している。
- ・年代別にみると、40代で「不満である」と回答している割合が高くなっている。



問10で「3. どちらかといえば不満である」「4. 不満である」と回答した方

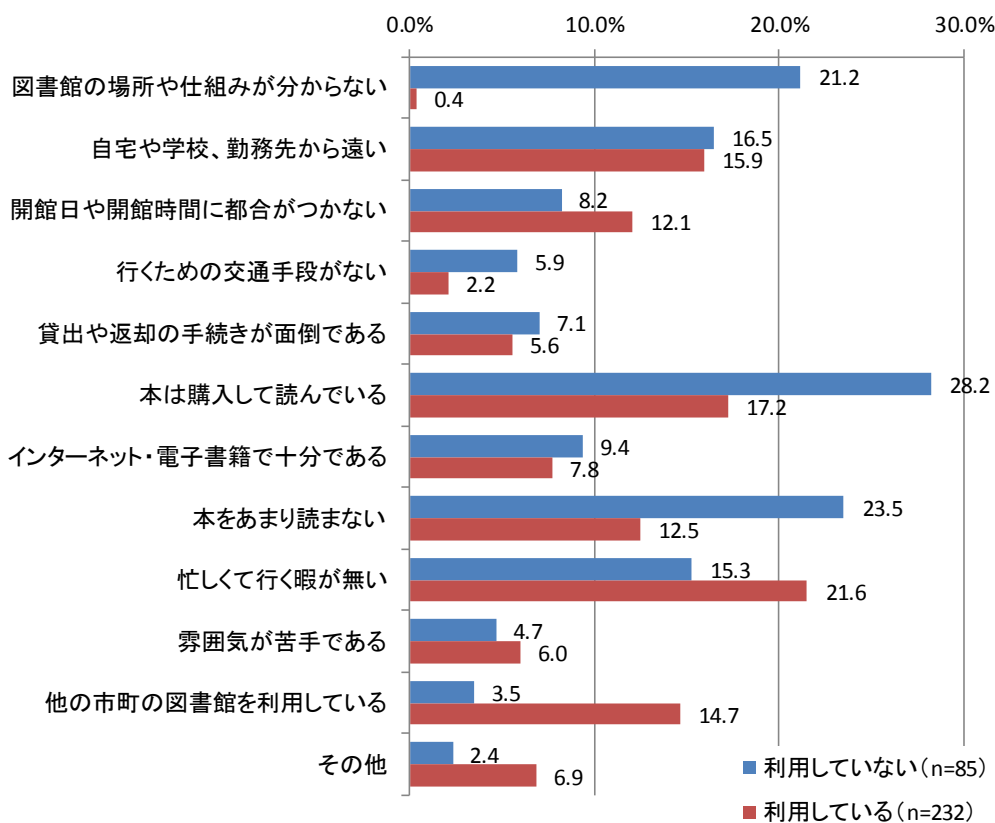
⑪ 不満の理由は何ですか？

- ・不満の理由としては、「図書が少なく目的の資料がない」が60.9%、次いで「来館しづらい場所にある」が32.8%、「座る席がない」が31.3%となっている。



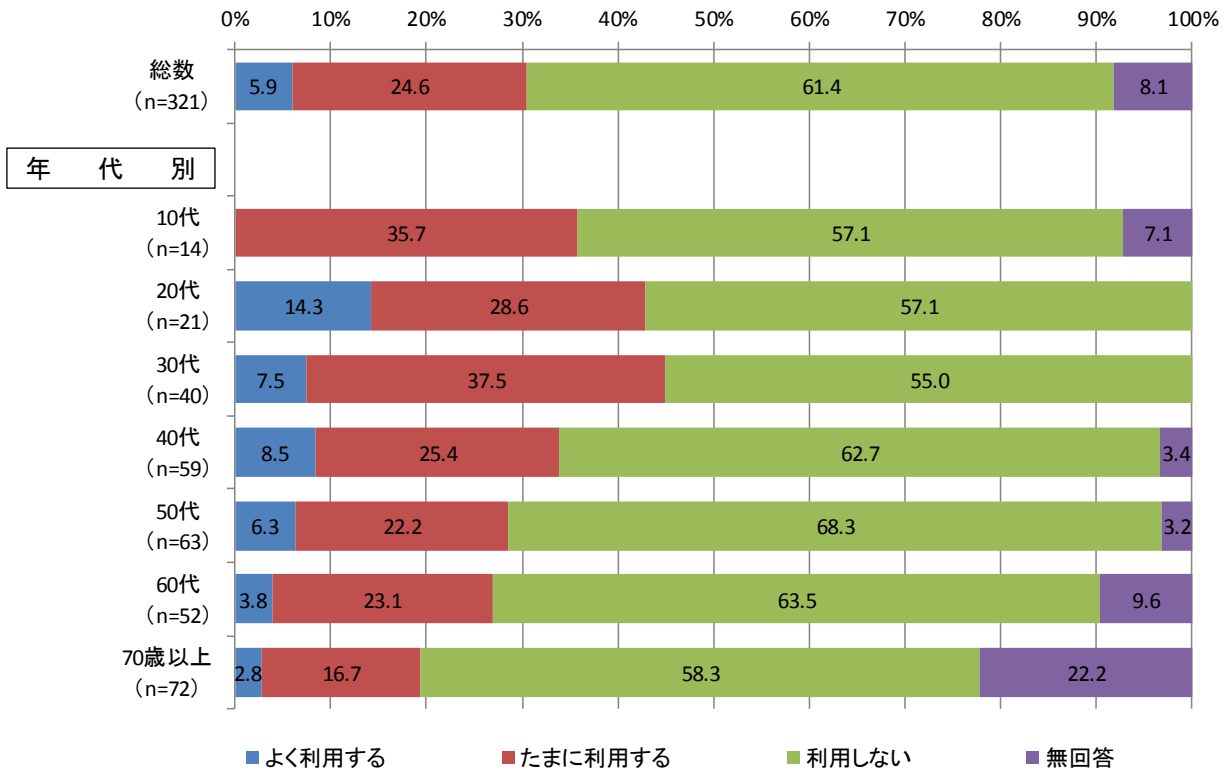
⑫ 市立図書館を利用しない理由、または利用するにあたっての課題は何ですか。主な理由について2つまで〇をつけてください。

- ・ 図書館を利用しない理由としては、「本を購入して読んでいる」が28.2%と最も多く、次いで「本をあまり読まない」が23.5%、「図書館の場所や仕組みが分からない」が21.2%となっている。
- ・ 利用している回答者が、利用するにあたって課題と感じていることは、「忙しくて行く暇がない」が21.6%と最も多く、次いで「本は購入して読んでいる」が17.2%、「自宅や学校、勤務先から遠い」が15.9%、「他の市町の図書館を利用している」が14.7%となっている。



⑬ あなたは日頃、泉大津市以外の図書館を利用されていますか。

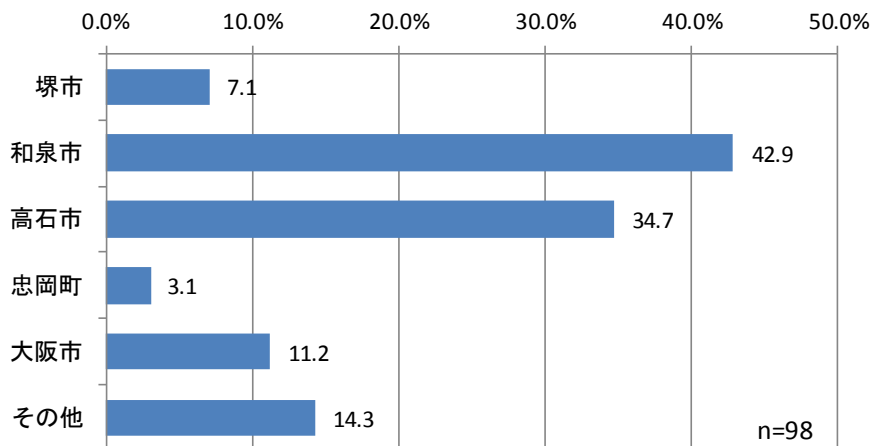
- ・泉大津市以外の図書館の利用状況については、「よく利用する」「たまに利用する」を合わせ 30.5%が利用していると回答している。
- ・年代別にみると、若い年代ほど、市外の図書館を利用している割合が高くなっている。



上記問で、「1. よく利用する」「2. たまに利用する」と回答した方にお聞きします。

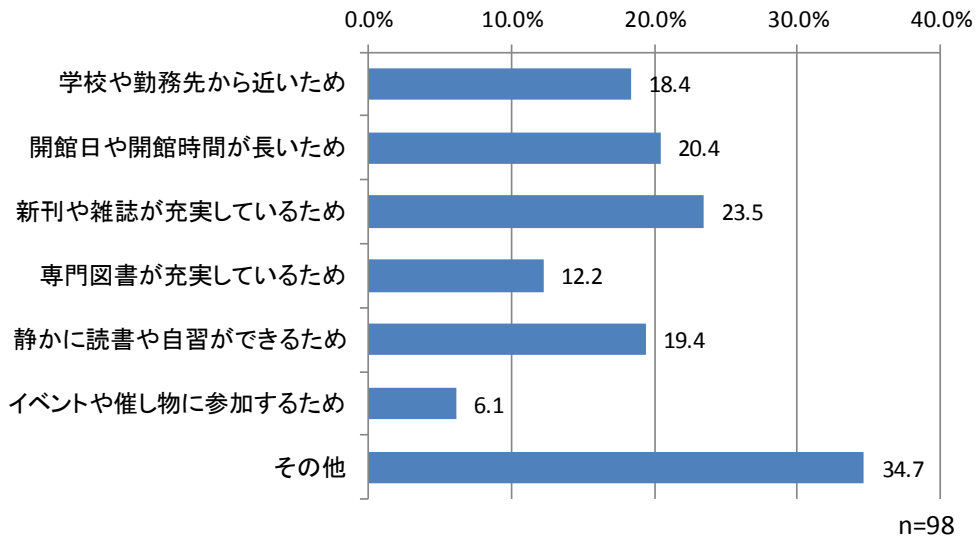
⑭ どこの図書館を利用していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ・利用している図書館は、「和泉市」が 42.9%と最も多く、次いで「高石市」が 34.7%となっている。



⑮ 泉大津市以外の図書館を利用する理由は何ですか。主な理由について2つまで〇をつけてください。

- ・市外の図書館を利用する理由としては、「新刊や雑誌が充実しているため」が23.5%と最も多く、次いで「開館日や開館時間が長いため」が20.4%となっている。
- ・その他としては、市立図書館よりも家に近いから、買い物等のついでに行けるから、新しくきれいであり、居心地がよいからなどが挙げられている。



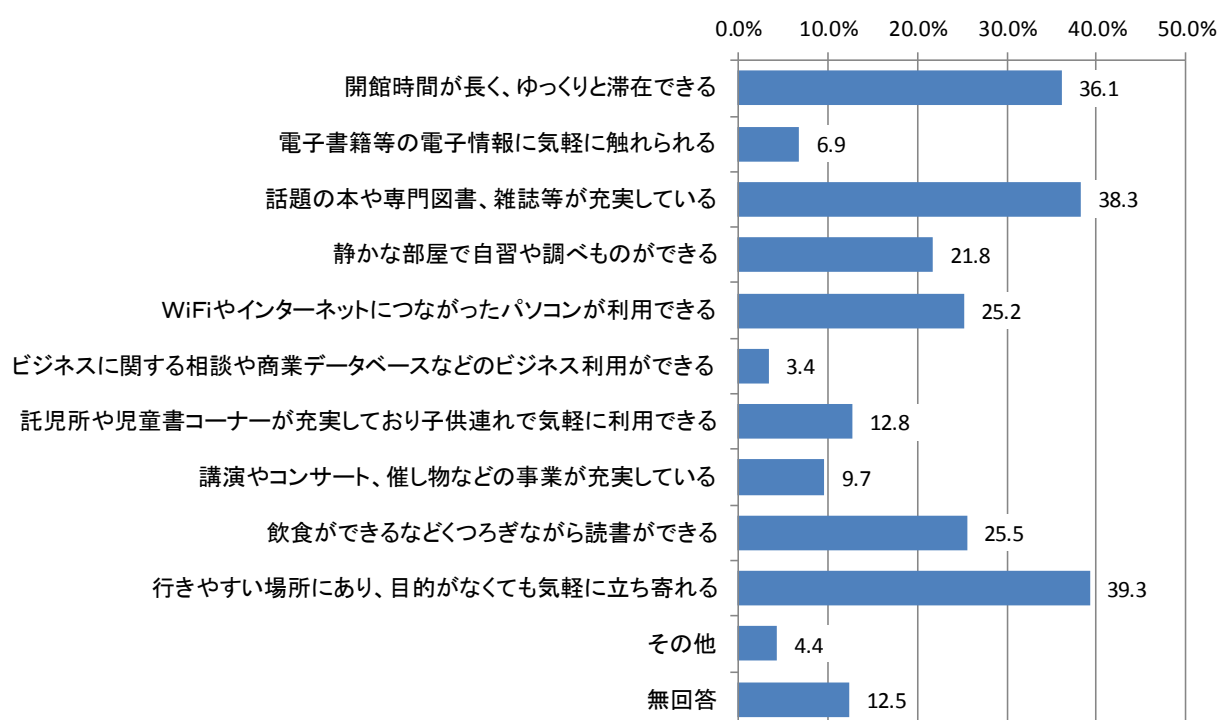
(その他の主な意見)

- ・市立図書館よりも家に近いから
- ・買い物や通院のついでに行けるから
- ・新しくきれい、居心地がよいから
- ・駅から近くて便利だから

これからの泉大津市の図書館についてお尋ねします

⑯ 近年、飲食が可能な図書館や夜間も開館している図書館など、新たな魅力を持った図書館が目立っています。泉大津市でも新しい図書館の整備を検討していますが、どのような機能が充実されれば利用したいと思いますか？（〇は3つまで）

- ・新しい図書館に求める機能については、「行きやすい場所にあり、目的がなくても気軽に立ち寄れる」が39.3%と最も多く、次いで「話題の本や専門図書、雑誌等が充実している」が38.3%、「開館時間が長く、ゆっくりと滞在できる」が36.1%となっている。
- ・年代別にみると、若い世代で「Wi-Fi やインターネットにつながったパソコンが利用できる」「飲食ができるなどつろぎながら読書ができる」、30代で「託児所や児童書コーナーが充実しており子供連れで気軽に利用できる」、40代で「開館時間が長く、ゆっくりと滞在できる」、50代で「行きやすい場所にあり、目的がなくても気軽に立ち寄れる」の割合が高くなっている。



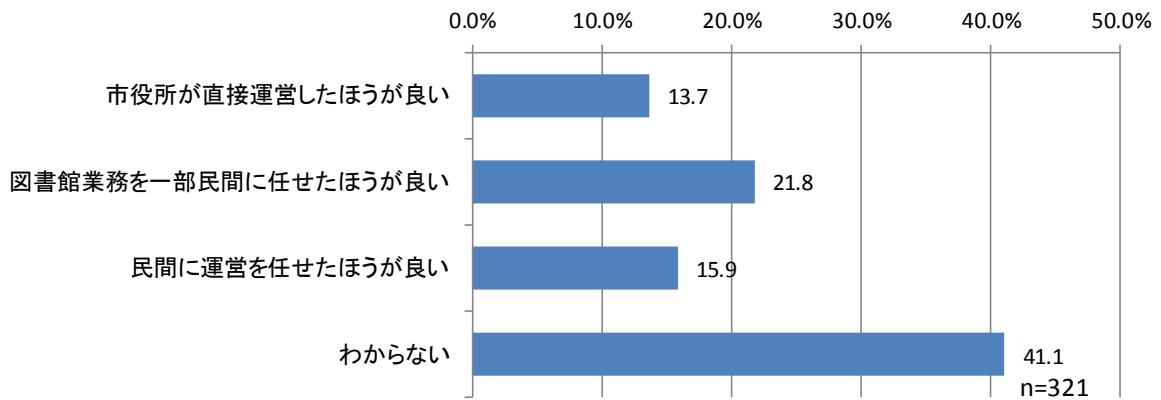
(単位: %)

	開館時間が長く、ゆっくりと滞在できる	電子書籍等の電子情報に気軽に触れられる	話題の本や専門図書、雑誌等が充実している	静かな部屋で自習や調べものができる	WiFiやインターネットにつながったパソコンが利用できる	ビジネスに関する相談や商業データベースなどのビジネス利用ができる	託児所や児童書コーナーが充実しており子供連れで気軽に利用できる	講演やコンサート、催し物などの事業が充実している	飲食ができるなどつろぎながら読書ができる	行きやすい場所にあり、目的がなくても気軽に立ち寄れる	その他
総数 (n=321)	36.1	6.9	38.3	21.8	25.2	3.4	12.8	9.7	25.5	39.3	4.4
10代 (n=14)	50.0	7.1	50.0	57.1	57.1	7.1	0.0	0.0	28.6	21.4	7.1
20代 (n=21)	23.8	19.0	47.6	9.5	47.6	9.5	23.8	4.8	47.6	28.6	4.8
30代 (n=40)	40.0	10.0	47.5	15.0	35.0	2.5	35.0	12.5	32.5	32.5	2.5
40代 (n=59)	40.7	5.1	47.5	35.6	33.9	5.1	15.3	10.2	27.1	40.7	5.1
50代 (n=63)	47.6	6.3	33.3	27.0	31.7	4.8	1.6	9.5	30.2	41.3	1.6
60代 (n=52)	28.8	5.8	28.8	9.6	11.5	1.9	11.5	7.7	19.2	48.1	7.7
70歳以上 (n=72)	26.4	4.2	31.9	15.3	4.2	0.0	8.3	12.5	13.9	40.3	4.2

第1位 第2位 第3位

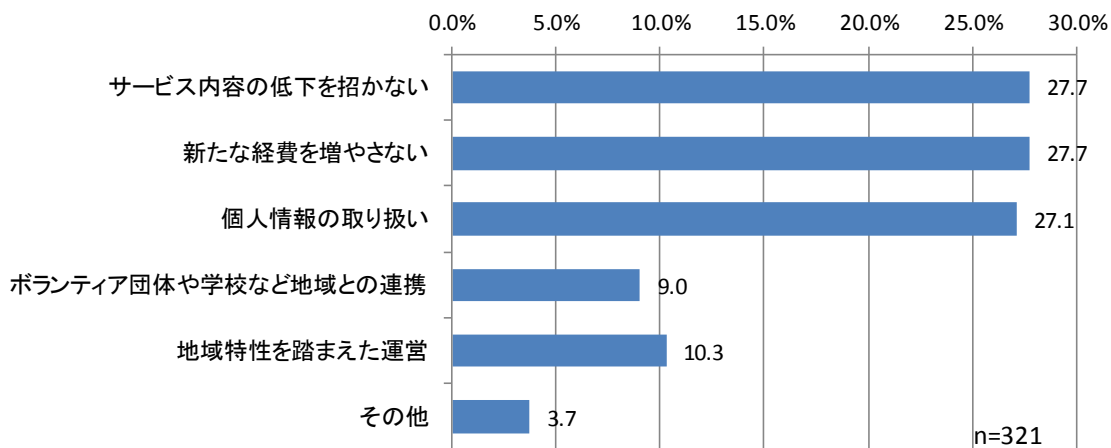
⑰ 他市では図書館の管理運営を民間に委託しているケースがありますが、民間に業務を委託することについてどのように感じますか。

- ・管理運営を民間に委託することについては、「わからない」が最も多く41.1%、次いで「図書館業務を一部民間に任せたいほうが良い」が21.8%となっている。



⑱ 他市のように図書館の管理運営を民間に委託しているケースで、特に留意すべきことは何だと思えますか。

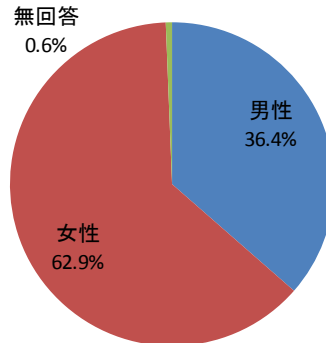
- ・民間委託する場合に留意すべきこととしては、「サービス内容の低下を招かない」、「新たな経費を増やさない」、「個人情報の取り扱い」がそれぞれ3割弱となっている。



あなたご自身についてお尋ねします

①性別

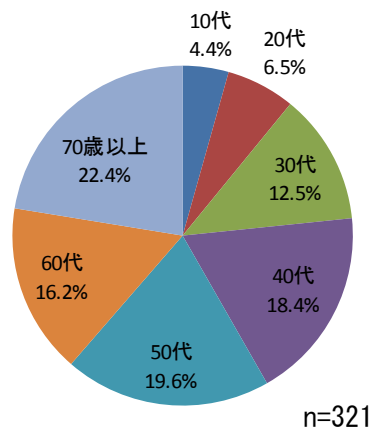
・「女性」が62.9%、「男性」が36.4%となっている。



②年齢

n=321

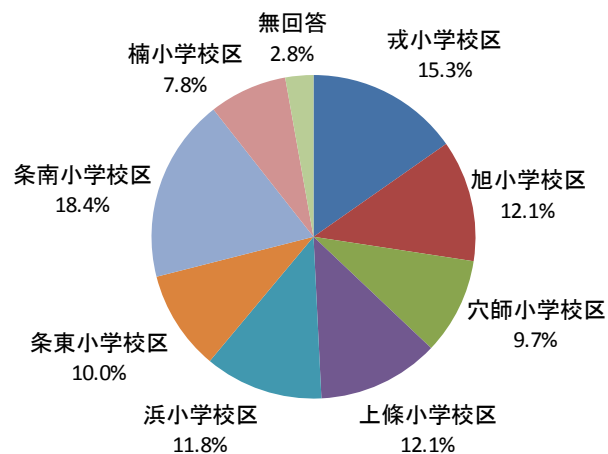
・最も多いのは「70歳以上」で22.4%、次いで「50代」が19.6%、「40代」が18.4%となっている。



n=321

③お住まいの地区

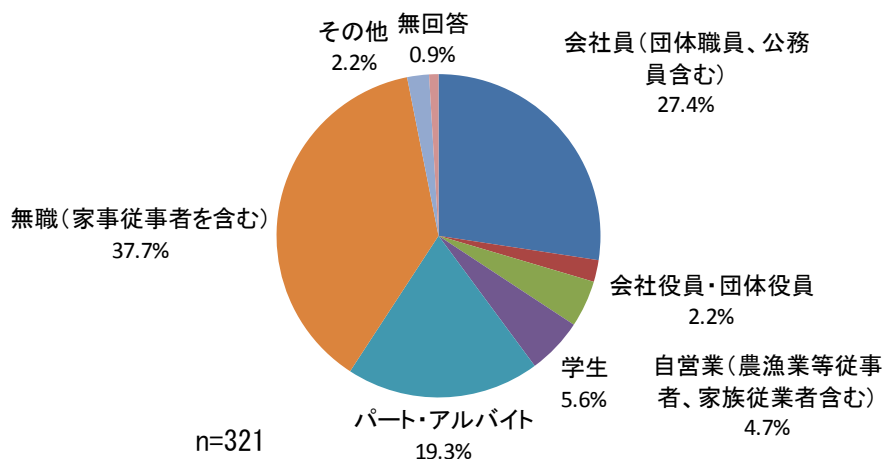
・最も多いのは「条南小学校」で18.4%、次いで「戎小学校」が15.3%、「上條小学校」「旭小学校」が12.1%となっている。



n=321

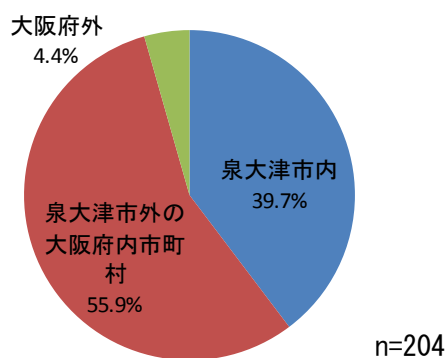
④職業

・最も多いのは「無職（家事従事者も含む）」で37.7%、次いで「会社員（団体職員・公務員含む）」が27.4%、「パート・アルバイト」が19.3%となっている。



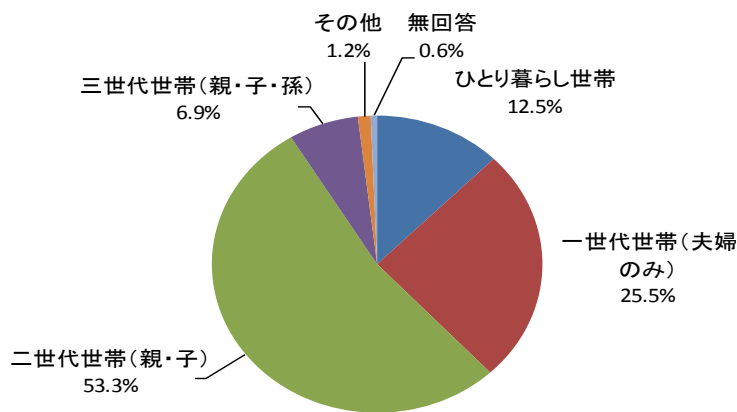
⑤通勤・通学先

・最も多いのは「泉大津市外大阪府内市町村」で55.9%、次いで「泉大津市内」が39.7%、「大阪府外」が4.4%となっている。



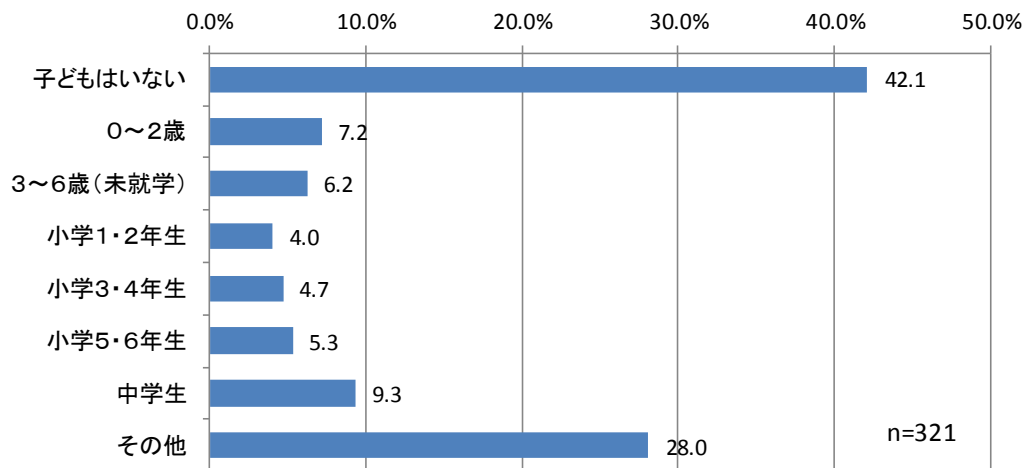
⑥家族構成

・最も多い「ひとり暮らし」



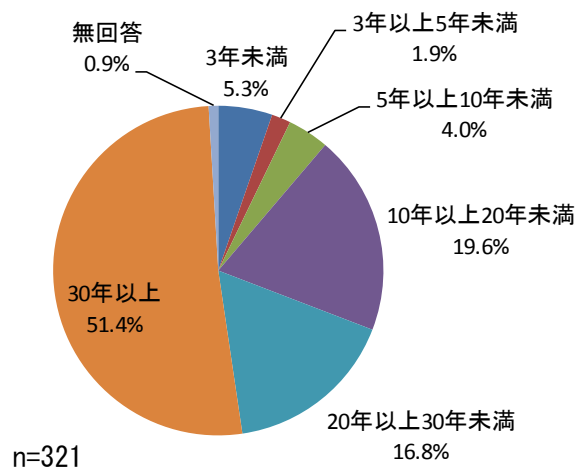
⑦子どもの有無・年代

・最も多いのは「子どもはいない」で42.1%、次いで「中学生」が9.3%、「0～2歳」が7.2%となっている。



⑧居住年数

・最も多いのは「30年以上」で51.4%、次いで「10年以上20年未満」が19.6%、「20年以上30年未満」が16.8%となっている。



2 駅前ヒアリング

(1) 調査の概要

新しい図書館のあり方を検討するにあたり、駅前利用者（特に大学生などの若者）が、日頃図書館をどのように利用し、どのような要望を持っているかを把握し、図書館整備基本計画に反映していくことを目的に、ヒアリング調査を実施した。

■調査の方法及び概要

対 象：泉大津駅前の来訪者

調査方法：対面によるヒアリング調査

調査時期：平成30年9月26日（水）、10月10日（水）の2日間

回収状況：51票

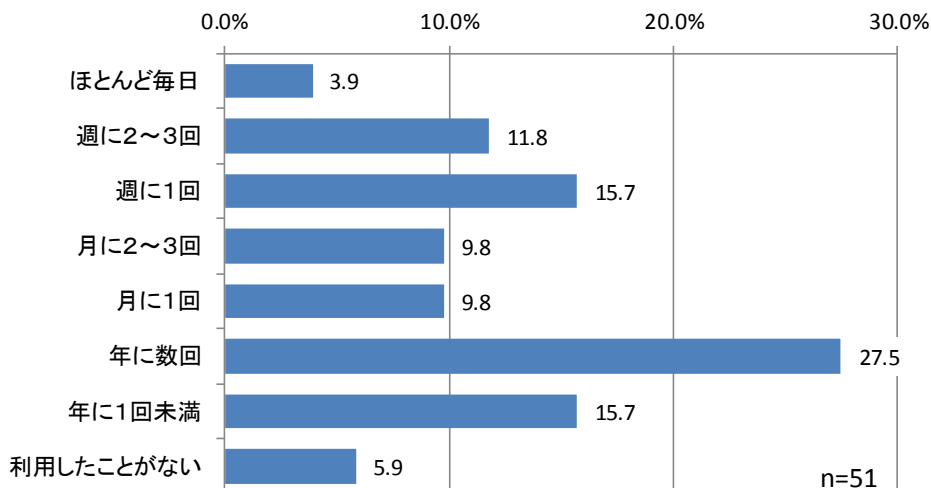
■グラフの見方

- ・グラフに表示されているn値は有効回答数である。
- ・集計結果の%表示は、小数点第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならない場合がある。
- ・複数回答が可能な設問の場合、内訳の合計が100%にならない場合がある。
- ・設問ごとの年齢別や地区別の集計は、無回答を排除しているため、有効回答数の合計が、全体の有効回答数と合致しないことがある。

(2) 調査結果

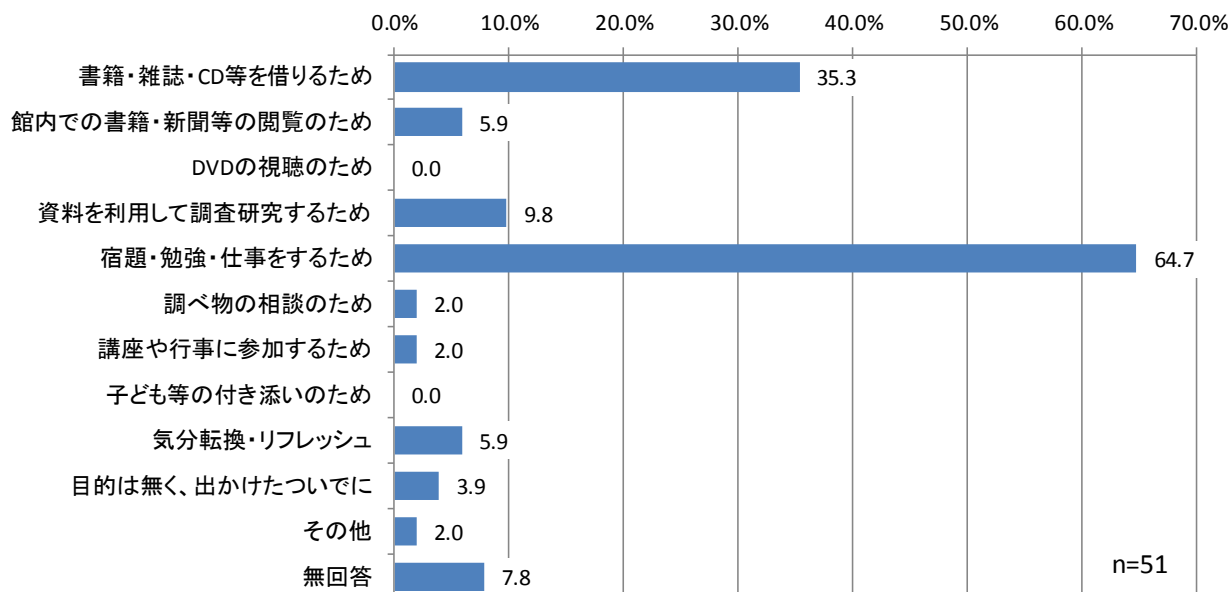
① あなたは日頃、図書館を利用されていますか。

- ・利用頻度は、「年に数回」が最も多く 27.5%、次いで「週に1回」「年に1回未満」が 15.7%となっている。



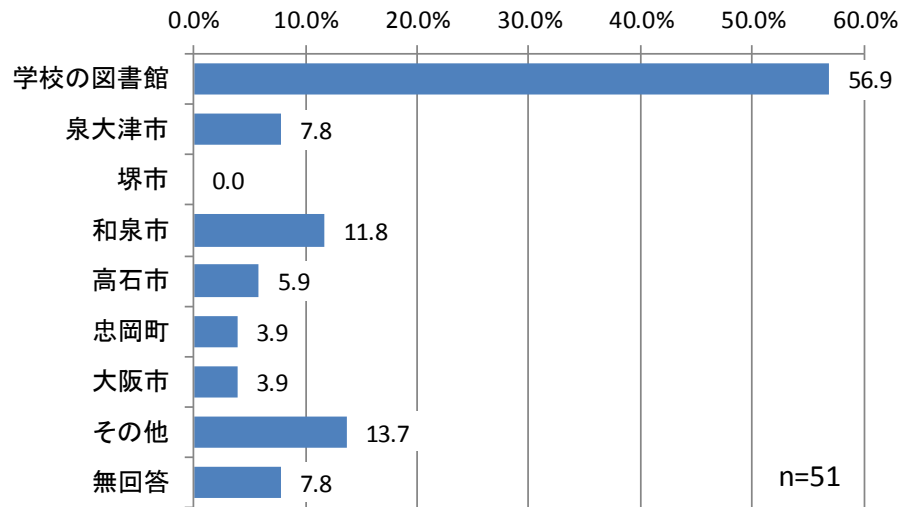
② 図書館を利用する目的は何ですか。主な理由について3つまで○をつけてください。

- ・図書館を利用する目的については、「宿題・勉強・仕事をするため」が 64.7%と最も多く、次いで「書籍・雑誌・CD等を借りるため」が 35.3%となっている。



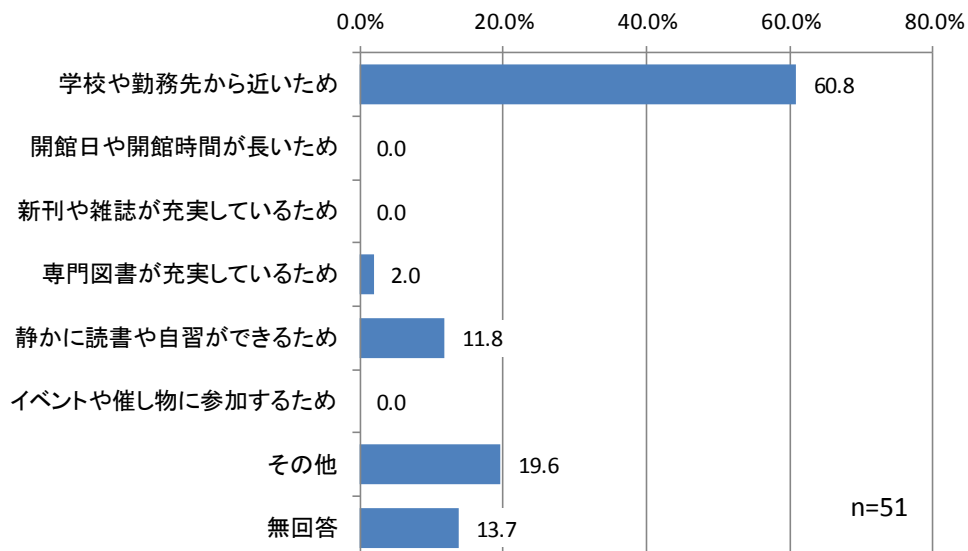
③ 主にどこの図書館を利用していますか。あてはまるものすべてに〇をつけてください。

- ・利用している図書館は、回答者の大半が大学生であったため、「学校の図書館」が56.9%となっている。



④ 上記の図書館を利用する理由は何ですか。主な理由について2つまで〇をつけてください。

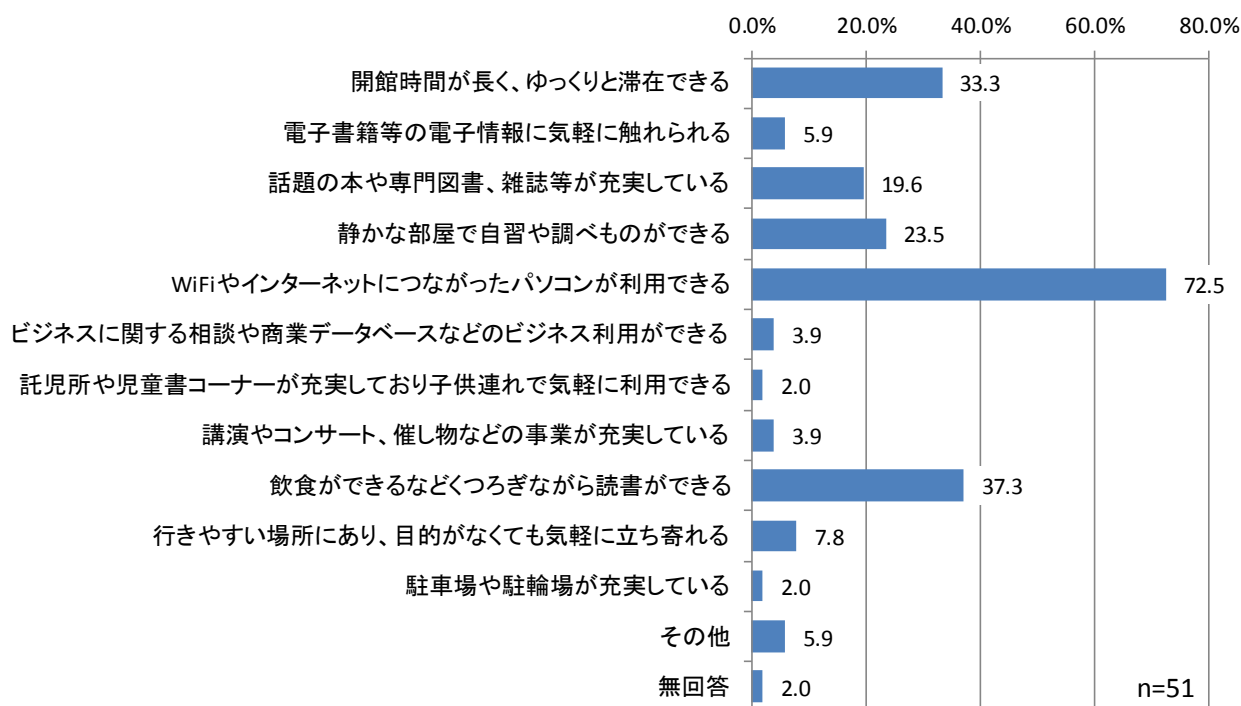
- ・市外の図書館を利用する理由としては、「学校や勤務先が近いため」が60.8%と最も多く、次いで「静かに読書や自習ができるため」が11.8%となっている。



これからの泉大津市の図書館についてお尋ねします

⑤ 近年、飲食が可能な図書館や夜間も開館している図書館など、新たな魅力を持った図書館が注目されています。泉大津市でも駅前商業施設内に、新しい図書館の整備を検討していますが、どのような機能が充実されれば利用したいと思いますか？（〇は3つまで）

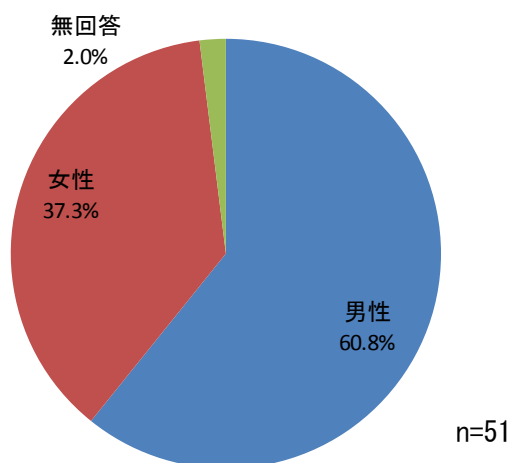
- が、どのような機能が充実されれば利用したいと思いますか？（〇は3つまで）
- 新しい図書館に求める機能については、「Wi-Fi やインターネットにつながったパソコンが利用できる」が72.5%と最も多く、次いで「飲食ができるなどくつろぎながら読書ができる」が37.3%、「開館時間が長く、ゆっくりと滞在できる」が33.3%となっている。



あなたご自身についてお尋ねします

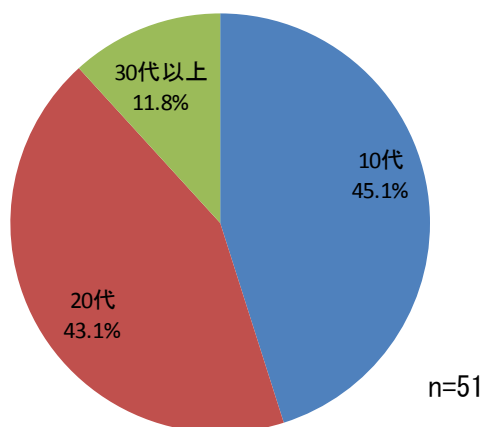
①性別

・「男性」が60.8%、「女性」が37.3%となっている。



②年齢

・最も多いのは「10代」で45.1%、次いで「20代」が43.1%となっている。



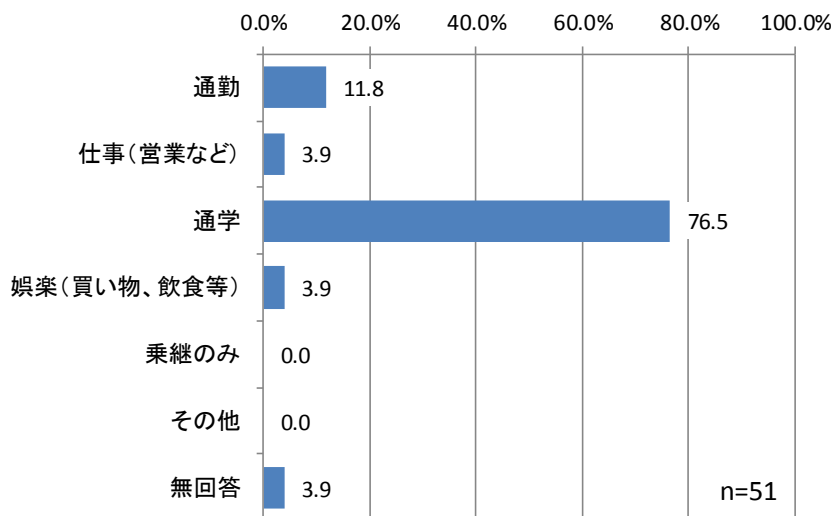
③お住まいの地区

・「泉大津市」が最も多く23.5%、次いで岸和田市が13.7%、阪南市が11.8%となっている。

	回答者数	割合
泉大津市	12	23.5
岸和田市	7	13.7
阪南市	6	11.8
泉佐野市	4	7.8
岬町	4	7.8
貝塚市	3	5.9
大阪市	2	3.9
和泉市	2	3.9
高石市	1	2.0
泉南市	1	2.0
大阪狭山市	1	2.0
忠岡町	1	2.0
和歌山市	1	2.0
無回答	6	11.8
総計	51	100.0

④泉大津に来た目的

・「通学」が最も多く76.5%、次いで「通勤」が11.8%となっている。



⑤来訪頻度・滞在時間

■来訪頻度

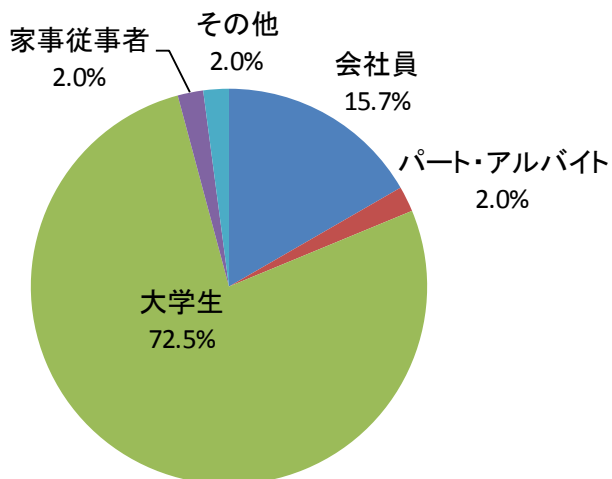
	回答者数	割合
3日	2	3.9
4日	4	7.8
5日	23	45.1
6日	1	2.0
無回答	21	41.2
総数	51	100.0

■滞在時間

	回答者数	割合
10分	10	19.6
30分	8	15.7
1時間	1	2.0
無回答	32	62.7
総数	51	100.0

⑥職業

・最も多いのは「大学生」で72.5%、次いで「会社員」が15.7%となっている。



3 図書活動団体ヒアリング

① 絵本の会ぽっかぽか

日時	平成 30 年 8 月 30 日 15 時～16 時 15 分	
場所	おづぷらざ(テクスピア大阪5階)	
活動概要	活動内容	絵本のひろば(幼稚園・保育所・地域の図書館で開催) 文字の少ない絵本を、表紙が見えるように教室に並べて、子どもたちが読みたい本を選んで読む。(子ども同士で読んだり、メンバーに依頼したり。) 年間 18 回開催。 その他、図書館の2階スペースを活用した読み聞かせイベント(180 人参加)、高齢者施設等のクリスマス会でミュージックベル等を実施。
	活動経緯	2012 年 6 月から活動。 子育て支援活動を行っていたグループを継続するために、本を読むことであれば、誰でもできるということで、会を立ち上げ。 (絵本研究家の加藤啓子氏との出会いがきっかけ)
	活動目的	より多くの子どもたちに絵本に親しむ機会をつくりたい。 絵本を媒体とした地域のコミュニティづくり
	活動資金	会費 社会人活用(教育委員会)(3,000 円/回) がんばろう基金(講演会の講師代) 平成 28 年に伊藤忠記念財団の補助を受け、絵本を購入 イオンの幸せの黄色いシート 等
	行政・学校との係わり	地域の福祉施設での活動 市の文化祭への参加(講演会を開催)
	スタッフの状況	会員 21 名。(全員女性、40 代以上、乳幼児の子育てを終わった世代。) 仕事を持っている人も多く、他の活動をしていたりして忙しい。
課題と今後の展開	現在抱える課題	本の置場所(400 冊以上、寄付でもらった本も多い。) 現在は個人宅に置いている。面展台(25 枚程度)も個人宅に置いている。 常時展示できるスペース、活動拠点があると良い。
	これからの展開	新しい図書館に子どもが自由に遊べるスペースなどあれば、関わっていききたい。 現在の図書館では、目的を持たないと来ない。(お話し会が月 2 回、2 階で開催されているが、人が減ったのではないかな?) 高石のようなガラス張りの部屋であれば、ふらっと寄ったときに、中で絵本の広場などしていると入りやすい。
地域とのつながり	つながりのある団体・人物	地域の自治会、東陽ふれあいフェスタ、ミント条東、池浦の駄菓子屋さんなど 個人でも自由に活動できる仕組みが必要。(眠っている人材がいる。)
	イチオシの団体・人物	川畑氏(絵本の専門士の方) ブックスタート 学校の司書の方の意見を聞くと良い。 保育所の保護者など子育て中の方の意見も聞くべき。

その他	<p>■現行の図書館について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の倉庫に人形劇セットがおいてあるが、古くなっており、使い物にならないと聞いた。スペースを有効活用してほしい。 ・泉大津の図書館は人が少ないため、サービスが悪い(本を探してくれない。高石や和泉と比べてスタッフの質が悪い。) ・落丁、落書きなどがあり、メンテナンスがされていない。 <p>■新図書館について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前に移転することで、面積が約2倍になるというが、床荷重の問題で、蔵書をすべて持っていけないと聞いている。貸出の運用をどうするのか。 ・人口規模から考えると1館のみに固執するのはどうか。分館としての駅前図書館が考えられないか。また、昔は自動車文庫などもあった。 ・図書館よりもっと古い公共施設の移転が先ではないか。自転車問題(2時間超えるとお金がかかる)でダイエーに人が行かなくなった。2段目には電気自転車はおけない。お金がかかると子どもたちが気軽に行けない。 ・また商業施設の中にあるということで、子どもだけで行かせるには不安がある。 ・高齢者は図書館まで行く体力がない。 ・検討会議を傍聴したが、駅前への移転が前提となっていることに違和感がある。駅前図書館をつくっても若者を集めることにはどこも苦労している。(大阪市では、インターネットでの貸し出しシステムを進めている。) ・既存の図書館のリフォームのワークショップをしており、既存図書館の在り方も並行して検討し、資金なども考えて、どちらがよいか判断しても良いのではないか。 ・どうせ作るなら、他市の人が来たいと思える図書館にしてほしい。
-----	---

② りぶれEBISU

日時	平成 30 年9月8日 9時 15 分～10 時 15 分	
場所	戎小学校図書室	
活動概要	活動内容	毎週土曜日、9時～12 時 戎小学校の図書室を地域開放している。
	活動経緯	3年前に大阪府の「おおさか元気広場」事業を活用して始めたのがきっかけ。
	活動目的	図書室の特性を生かした子どもの居場所づくり 高齢者と子どもとの多世代交流
	活動資金	教育委員会の委託事業
	行政・学校との係わり	学校司書とは、年2回、話し合いの場をもっている。 保育園・幼稚園が合同で運動会を開催した際に、休憩場所として利用してもらったことがある。
	スタッフの状況	9名。50～60 代が中心。高校時代からかかわっている大学生も在籍。 知り合いの声掛けで増えている。
課題と今後	現在抱える課題 場所・資金には恵まれているため課題とは感じていない。 子どもたちの輪を広げていきたい。(新しく来てもらう子どもを増やすことが課題。チラシ、ポスターで周知しているが、一番は口コミ。)	

		<p>穴師や池浦からも来る人がいる。</p> <p>や小学校のグラウンドで、サッカー教室等があるときに、下の子どもをつれたお母さんが休憩したりして居場所としての機能が広がりつつある。</p>
	これからの展開	<p>現在は工作が中心。子どもたちが望んでいる企画をするようにしている。</p> <p>地域交流、高齢者にももう少し参加してほしい。独居老人など。長寿園のサロンと時間が重なっていることが課題。図書室は飲食が禁止なので、食事等が出るサロンに行かれることが多い。</p> <p>子どもに教えるものがないと思われ、高齢者が気軽に来てもらえない。居場所がないと思われる。お孫さんを連れてくる方も多いので、気軽に来てほしい。</p>
地域とのつながり	つながりのある団体・人物	NPO のどか、絵本の会ぽっかぽか、高石市の社協ボランティア（マジックをしてもらっている。個人のつながりで依頼）
	イチオシの団体・人物	<p>図書団体は少ない。</p> <p>ボランティアセンターで図書団体に集まってもらったときは、ホンノワまちライブラリー、浜助松、EBISU の3団体。）</p>
	その他	<p>■現行の図書館について</p> <p>子どもが欲しい本、小さい子どもに読み聞かせをすることを条件に買うこともある。まんが日本の〇〇〇シリーズは、人気がある。</p> <p>座るスペースが少ない。本がないときの対応、府立図書館への照会など、インターネットを使ったシステムの場合、どうなっているのか。</p> <p>■新図書館について</p> <p>駐輪場が現状いっぱいであり、高架下の市営駐輪場では少し遠いのでは。現在図書館の2階で行っているにんじんサロンはどうなるのか。</p> <p>寝転がって本を読むスペースは必要。（現在の2階のように）一角にお茶、子どもがおかしを食べられるスペースがあるとよい。</p> <p>■その他</p> <p>本町自治会が少しやる気になっていると聞いている。地域から本を集めると、子ども向けの本が少なくなる。</p>

③ ミント条東

日時	平成 30 年9月8日 10時 30分～11時 30分
場所	条東小学校図書室
活動概要	<p>月1回、第2土曜日、9時～11時 30分。条東小学校の図書室及び1階を開放している。</p> <p>地域から寄付を受けた本や団体として買った本が 500 冊程度あり、それらを開放している。</p> <p>平成 29 年度は、絵本の会ぽっかぽかと連携してイベントを1回実施、平成 30 年度は、7月に社協と連携した紙芝居、9月に絵本の会ぽっかぽかと連携した「えほんひろば」を実施。</p> <p>ミント条東オリジナルのしおりやスタンプカードを始めたところ、好評であり、利用する子ども</p>

		もも増えた。(全校生徒に配布。イベント等を記載したチラシだと、親に渡して終わりだが、スタンプカードなどは、自分事としてとらえてもらえ、利用増につながっていると思う。)
	活動経緯	2年前、校長先生から、戎小学校の取り組みを紹介され、対角の位置にある条東小学校でもできないかと依頼されたことがきっかけ。
	活動目的	本に触れあってもらうこと。 TV やゲームではなく、本や紙芝居など、昔ながらの体験を子どもたちにしてもらうこと。
	活動資金	教育委員会の委託事業
	行政・学校との係わり	市の図書館とは連携できていない。(図書館で使っていない本があれば、提供いただきたい。) 市の広報には載せさせてもらっている。 自治会には、チラシの配布、ポスターの貼り付けなど。
	スタッフの状況	10名(男5名、女5名)、住んでいる地域から2班に分けて、それぞれ2名ずつ参加。男性は玄関で交通安全などをみている。 2か月に1回、校長先生を含めた会合を行っている。
課題と今後の展開	現在抱える課題	人集め。ボランティア募集はしているが集まらない。 寄付や団体が購入した本を貸出できるようにしたいが、管理の方法がわからない。3階の図書室の本を勘違いして借りていく子どももいるかもしれない。 司書に聞いて、分類、色分け、ナンバーリングまではしている。
	これからの展開	月に2回、開放できるようにしたいが、人手が足りない。 イベントなども増やしたいが、なんでもよいわけではなく、「図書」を意識したイベント、本を好きになってもらうイベントをしたい。 11月第2土曜日は、地域の行事があり、開放できない。 小学生が中心となった活動となっているが、幅広い年齢層に気軽に来てもらいたい。(校長は、中庭で囲碁などが出来、多世代が交流できる場ができるとよいと考えられている。)
地域とのつながり	つながりのある団体・人物	社協、ぽっかぽか 自治会(ポスターなどは貼ってもらっている。)
	イチオシの団体・人物	OZU すこやかネットとのコラボ企画について、一度話はしたが、内容を詰め切れなかった。
	その他	■新しい図書館について 朝借りて、電車で読めるとよい。 子ども連れだと、土日だけになる。また、平日は遅くなると借りられない。 条東地域は、場所的に図書館が遠い。和泉市(府中)を使うことが多い。 車を停められて、下で買い物もできる。(駐車割引もある。図書館利用で1時間、買い物で2時間)駅前だと、駐車場がないのではないかと。 駅前だと、子どもだけで行きにくい(特に、低学年は難しい)

④ 浜助松自治会文庫

日時	平成 30 年9月9日 13 時 15 分～14 時 00 分	
場所	浜助松自治会館	
活動概要	活動内容	月1回、第2日曜日、13 時～16 時、自治会館を開放している。 なにわ語り部の会として、13 時 30 分～14 時に紙芝居、手遊び、手話などを行っている。
	活動経緯	2017 年4月に自治会長が変わり、活性化に向けた取り組みを強化。 自治会の当番であった坂本さん(なにわ語り部の会)が、昨年度から、取り組みを開始。 市の補助金で本棚・本を購入し、また、ホンノワまちライブラリーさんが自治会に赤いポストを設置。3つの取り組みがあり、現在に至っている。
	活動目的	子どもを通じて大人を取り込みたい。
	活動資金	市民活動推進補助金(2か年、2年目は半額)
	行政・学校との係わり	特になし 図書館から紙芝居等は借りている。
	スタッフの状況	坂本さんを役員5名(会長、副会長、書記、会計、会計監査)がサポート。 役員会の議事録の回覧や、掲示板へのポスター貼り付け等で、住民に周知している。
課題と今後の展開	現在抱える課題	自治会に入る人が少ない。入っても、入らなくても何も変わらない。差別化が必要。 現在、自治会加入率は 82%。大きな宅地が分割されて新しい住宅が建ち、若い世代が引っ越してくるが、自治会に加入してもらうことが課題。ここに来てもらうことで、自治会加入のきっかけとしたい。
	これからの展開	開放の日を増やしたい。囲碁やかるた、オセロなど、高齢者も気軽に入ってきてもらえる場としたい。 また、地域住民から本の寄付を集ったところ、1,042 冊集まった。文庫本など字が小さく、子ども向けの本も少ないため、もう 1 度、募集したいと思っている。
地域とのつながり	つながりのある団体・人物	ホンノワまちライブラリー、なにわ語り部の会(本をたくさん持たれており、坂本さんは月に1回、会合に行かれている。) 他の自治会と交流が生まれつつある。(助松自治会等) おづぷらざで集まりあった人は、現在も来ている。
	イチオシの団体・人物	
その他	現在の図書館はゆっくりできないため、新しい図書館には、仕切ったコーナー等を多く設け、ゆっくりと調べものができたり、本が読める空間があったりするとよい。また、現在の図書館は駐車場が狭い。	

⑤ あすと絵本の会 しいずんず

日時	平成 30 年9月 15 日 15 時 00 分～16 時 15 分
場所	あすとホール
活動概要	活動内容 月1回、絵本の読み語り会(第4日曜日 11 時～11 時 30 分) 年1回、夏休みにイベントを企画、開催

	<p>絵本フォーラムを年に1回開催。</p> <p>アウトリーチ活動として、保育所・幼稚園・小学校・学童などで活動。</p> <p>ブラックシアター、ペープサート(紙人形劇)、ベル等。</p> <p>本の貸し出しなどもしている。(貸出数は増えており、しいずんずが選ぶ絵本が人気)</p>
活動経緯	<p>あすとホールができるとき(約16年前)に、あみ文庫、ぐーちよきぱーの方等、5~6人集まって、ワークショップを通じて、グループを立ち上げた。</p>
活動目的	<p>子どもたちに本を伝えたい。親子で来てもらい、母親にも本を好きになってもらう。TVと違い、子どもに向かって声を伝えることが大事。</p> <p>「絵本の楽しさ・素晴らしさ」を知っていただき、より豊かな人間性をはぐくんできていただけるような様々な活動をしている。(HP より)</p>
活動資金	<p>あすとホールの運営費(イベントの備品代など)</p> <p>教育委員会の社会人枠の費用</p>
行政・学校との係わり	<p>図書館には、団体貸し出しとして、長期の貸し出しをしてもらっている。(読み聞かせの準備期間が必要なため。)</p> <p>子育て支援センターから、パネルシアターの貸し出し依頼があったが断った。(道具を使うにも訓練が必要であり、貸出だけはだめ。)</p>
スタッフの状況	<p>10名。40代~70代。50~60代が多い。</p> <p>読み語り会に参加された方がメンバーになるケースもあり。</p> <p>教育関係者のOBさんが多い。</p>
課題と今後の展開	<p>現在抱える課題</p> <p>集客、PR。泉大津市はPRが下手。広報誌なども、子ども向け、高齢者向けなどのイベントをまとめたページがあると、読み手も情報を探しやすい。</p> <p>メンバーの人数が増えない。幼稚園など平日の午前中に依頼されることがあるが、行ける人が少ない。</p> <p>駐車場がないため、広域からの集客が見込めない。</p> <p>図書館にチラシなど貼ってもらっているが、貼り方が悪く、わかりにくい。</p>
	<p>これからの展開</p> <p>現在の取り組みをしっかりと広げていきたい。</p> <p>高石市のような図書館まつりがあるとよい。しいずんずの活動を知ってもらう機会を増やしたい。</p>
地域とのつながり	<p>つながりのある団体・人物</p> <p>ぽっかぽかさん(面展台の借用)</p> <p>ぐーちよきぱー(高石市)、高石市の図書館まつりにも参加している。</p>
	<p>イチオシの団体・人物</p> <p>人形劇まいあ(4人)</p> <p>ホンノワまちライブラリー。</p> <p>おはなしキャラバンつばさ(本拠地は泉大津、12月に講演)</p> <p>そよかぜ(さわる絵本をつくっている)</p>
その他	<p>■新しい図書館について</p> <p>図書館を駅前商業施設へ移転することになった発端の説明が必要。図書館とは根の生えたもの。何十年先を考えた整備が必要ではないか。</p> <p>本が増えたときなど、どうするのか。</p> <p>堅ろうな建物であるべき。</p>

	<p>現行の図書館の利用状況の細かな分析が必要ではないか。年代別の利用状況、中学生の利用状況など。</p> <p>駅前のほうが利用はしやすい。</p> <p>字の大きさなど、現物に触れて本を選ぶため、その場に本がないと困る。</p> <p>■現行図書館について</p> <p>現行図書館は、本を吟味するスペースがない。和泉市など、企業等から寄付された本などがあるがよい。</p> <p>社会を敏感に感じて本を入れてほしい。(主婦が本を書いたり、いろいろな作者の本があったりするが、泉大津市には入ってこない。)</p> <p>窓口の人が一気に変わることがあり戸惑う。</p>
--	--

⑥ ホンノワまちライブラリー

	日時	平成 30 年9月 26 日 13 時 00 分～14 時 00 分
	場所	泉大津市役所
活動概要	活動内容	市内8ヶ所、いろいろな場所に小さな本箱を置いて、小さなコミュニティづくりをしている。堺市や貝塚市など近隣都市の人とも連携して取り組みを広げている。
	活動経緯	泉大津に移住した4年前から、地域とのつながりをつくるために活動。まちライブラリーのつながりの中で、学んだことを実践して活動を広げてきている。
	活動目的	子どもたちが本を手にとれるようになれば良い。 本を通じた緩やかなつながりづくり。新しいコミュニティの1つ。 自治会や婦人会など既存の組織がしんどいと感じる人もいる。社会に様々なコミュニティな形態があると暮らしやすい。
	活動資金	3年間は泉大津市のがんばろう基金を活用。 ただし、それほど資金がかかる活動ではない。 イベント等で参加費をとったりはしている。 本箱についても、それぞれが設置してくれている。
	行政・学校との係わり	イベントで地域の昔話や、学童でワークショップ等をしたことはある。
	スタッフの状況	オーナーは子育て世代(30～40代) 集まって会議等を行っており、これから始めたい人も参加してもらい、きっかけづくりをしている。
課題と今後の展開	現在抱える課題	関わってくれる人、共感してくれる人との出会い。 貝塚市では、一人が本箱を設置すると、仲間と一緒に運営しており、盛り上がりを見せている。 宣伝、知ってもらうことも課題。
	これからの展開	HP を開設し、各地域の本箱の情報発信に力を入れている。 学校、市との連携を強化したい。
地域とのつ	つながりのある団体・人物	ぽっかぽかさん わかばの森アフタースクールとは読書感想文で連携。 浜助松自治会

イチオシの 団体・人物	
その他	<p>■新しい図書館について</p> <p>空間デザインが重要。居心地のよい空間、コミュニケーションできる場が必要。 子どもが騒いでも暖かく見守れる空間が必要。 ぽっかぽかさんのイベントなどで、寝転がって本を読める空間が必要。 現在の図書館では、その場所で本を読みたいと思えない。</p> <p>岐阜のコスモメディアでは、館長が司書をまきこんで取り組みをされている。司書が自分たちの名前でコーナーを作っている。モチベーションが高いので、対応もよい。</p> <p>新しい図書館にまちライブラリーのようなコーナーを設置するとすれば、自分たちが置きたいと、主体的に取り組めるような仕組みが重要。(場所を借りて、外の人が運営するのではだめ。)</p> <p>高石や岸和田の図書館では、コミュニティ型の図書館づくりを行っている。(本を寄贈するコーナーを設置したり、ブックスポットをPRしたりする祭りなど。)</p>

4 在住外国人ヒアリング

① A氏（中国出身）

現在の図書館	<p>週に1回程度利用している。</p> <p>昔、娘が小さかったときは、もっと利用していた。(ビデオや漫画なども利用していた。)</p> <p>子ども向けの本には、ひらがな、カタカナがあるため助かる。</p> <p>雑誌、週刊誌などは現在も利用している。</p> <p>外国人としては、病気になった時の症状の伝え方が難しく、そのような本がないか探しに行ったことがある。</p> <p>調べものをするためにも図書館を利用することがある。</p> <p>生活情報、お祭りや文化、泉大津市のことを知るための本があるとよい。</p> <p>古くても、有名な著者の本があるとよい。</p> <p>新聞、雑誌などは、世界の変化を知ることができてよい。</p> <p>本を借りる冊数が増えたことは良い。</p> <p>読みたい本は他の図書館にも照会をかけてくれる。</p> <p>現状の図書館に満足している。(ハード、ソフトともに)</p>
新しい図書館	<p>Wi-Fiは必ず必要。</p> <p>子ども連れでも行きやすい場所が良い。</p> <p>飲食についても、少ないスペースで良いのであるとよい。</p>

② B氏（イギリス出身）

現在の図書館	<p>お年寄りが新聞を読んでいるイメージがある。</p> <p>和泉府中の図書館など、新しく自習スペースがあり、英字新聞(アメリカだが、)が置いてある。</p> <p>子どもの本はふりがながふってあり、日本語の勉強になる。</p> <p>本を探しにくい。(子どもの本もそうだが、大学レベルの本も探しにくい)</p> <p>英語の本もあるが、古い。(すでに読んだものばかり)</p> <p>英語の本は他の図書館にもたくさんあるので、ISBNで探せるとよい。</p> <p>個人的な趣味としては、プログラミングの本を借りることがある。</p>
新しい図書館	<p>インターネットのコネクション(Wi-Fi)があるとよい。(グーグルの同時通訳ソフトもあり、利用できる。)</p> <p>コーヒーコーナーがあるとよい。</p> <p>気持ちよく座れて、くつろげる場所があると、外国人も利用する。(うるさすぎず、静かすぎず)</p> <p>自分のものも持ち込めるとなるとよい。</p> <p>ツーリストインフォメーションがあるとよい。(ホテルも2つあるので)</p> <p>初めて来た外国人だけでなく、在住外国人も相談しに行く場所があるとよい。</p> <p>ローカル情報があるとよい。</p> <p>現在の図書館にも地域情報はあがるが、良いものでも遠い場所だったりする。</p> <p>現在住んでいる人がローカル情報(病院など)を得る場所があるとよい。</p> <p>また、住んでいる人が情報を提供することで、観光客にとっても、口コミ情報を知れる場所となる。</p> <p>読み終わった本を無料で交換できるとよい。</p> <p>学校図書にも良い本があるので、連携してはどうか。</p> <p>ベストセラーなど、予約しても借りることができるまで長い間、待たないといけない。新しい本の広域貸し出し、電子書籍での貸し出しなど考えられないか。</p>

5 小学生アンケート

(1) 1 属性

戎小学校		旭小学校	
1年1組	37人	1年1組	25人
1年2組	37人	1年2組	28人
2年1組	37人	1年3組	29人
2年2組	33人	2年1組	28人
3年1組	36人	2年2組	27人
3年2組	36人	2年3組	31人
4年1組	39人	3年1組	28人
4年2組	39人	3年2組	29人
5年1組	43人	3年3組	28人
5年2組	41人	4年1組	35人
6年1組	35人	4年2組	35人
6年2組	37人	5年1組	34人
		5年2組	32人
		5年3組	32人
		6年1組	31人
		6年2組	29人
		6年3組	33人
合計	450人	合計	514人

(2) 調査方法

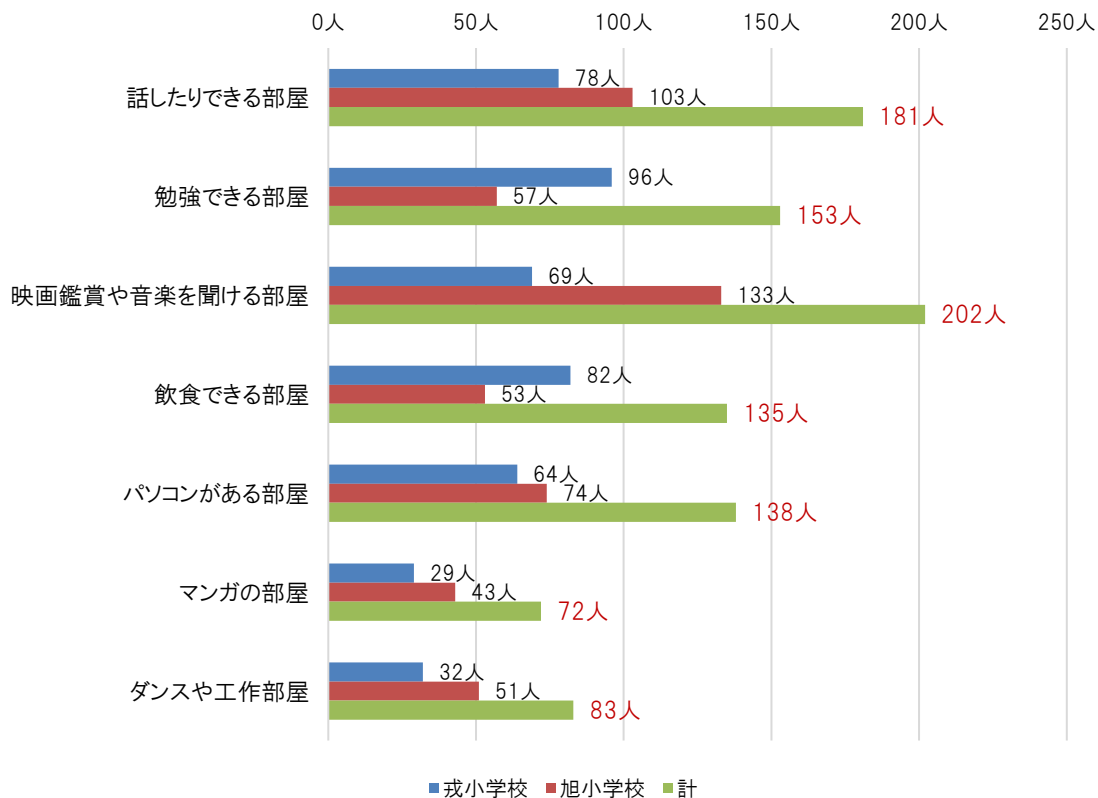
どんな部屋があればもっと図書館に行きたくなるかを調査するため、クラスごとに下記のようなボードを掲示して、児童一人一枚ずつシールを貼ってもらった。

これがあったら”図書館”に「もっと行きたくなる」
と思う部屋に1つだけシールを貼ってください。

友だちとしゃべったり、話したりできる部屋	机とイスにすわって、しずかに勉強できる部屋	映画やビデオを見たり、音楽を聞いたりできる部屋	飲み物を飲みながら、本や雑誌をゆっくり読める部屋	パソコンやインターネットを使える部屋	マンガが置いてある部屋	ダンスをしたり、工作ができる部屋
						
						

(3) アンケート結果

回答の傾向としては、「映画鑑賞や音楽を聞ける部屋」「話したりできる部屋」が上位となり、次いで「勉強できる部屋」「パソコンがある部屋」「飲食できる部屋」と続いた。学校別では、戎小学校が「勉強できる部屋」「飲食できる部屋」が多いのに対し、旭小学校は「映画鑑賞や音楽を聞ける部屋」「話したりできる部屋」が多くなっており、学校ごとに異なる結果となった。



6 中学生アンケート

(1) 属性

① 性別

	誠風中学校	東陽中学校	小津中学校	合計
男性	57	54	55	166
女性	58	51	51	160
無回答	0	1	0	1
計	115	106	106	327

② 学年

	誠風中学校	東陽中学校	小津中学校	合計
1年生	37	39	35	111
2年生	41	33	35	109
3年生	37	34	36	107
計	115	106	106	327

③ 在住の校区

	誠風中学校	東陽中学校	小津中学校	合計
戎小学校	28	0	0	28
旭小学校	0	33	1	34
穴師小学校	44	0	0	44
上條小学校	0	0	59	59
浜小学校	0	29	1	30
条東小学校	0	0	45	45
条南小学校	0	41	0	41
楠小学校	43	0	0	43
その他	0	0	0	0
無回答	0	3	0	3
計	115	106	106	327

④ 現図書館への交通手段

	誠風中学校	東陽中学校	小津中学校	合計
徒歩	4	6	3	13
自転車	108	92	100	300
その他	2	4	3	9
無回答	1	4	0	5
計	115	106	106	327

(2) 調査方法

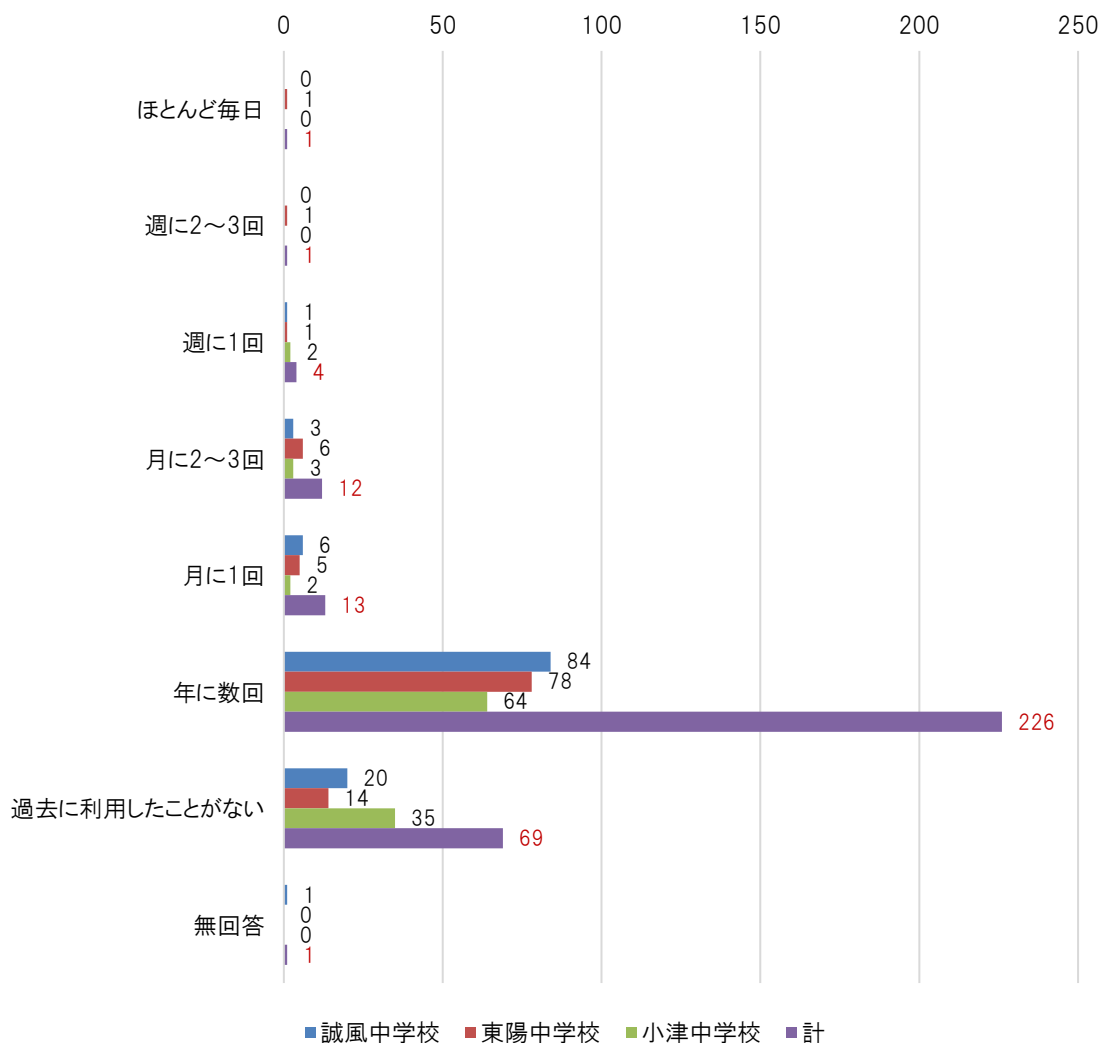
調査対象となった各中学校ともに学年ごとに1クラスを選択し、クラス全員にアンケート調査用紙を配付し回答してもらった。

(3) アンケート結果

① 利用状況について

ア 「泉大津市立図書館の利用頻度を教えてください」

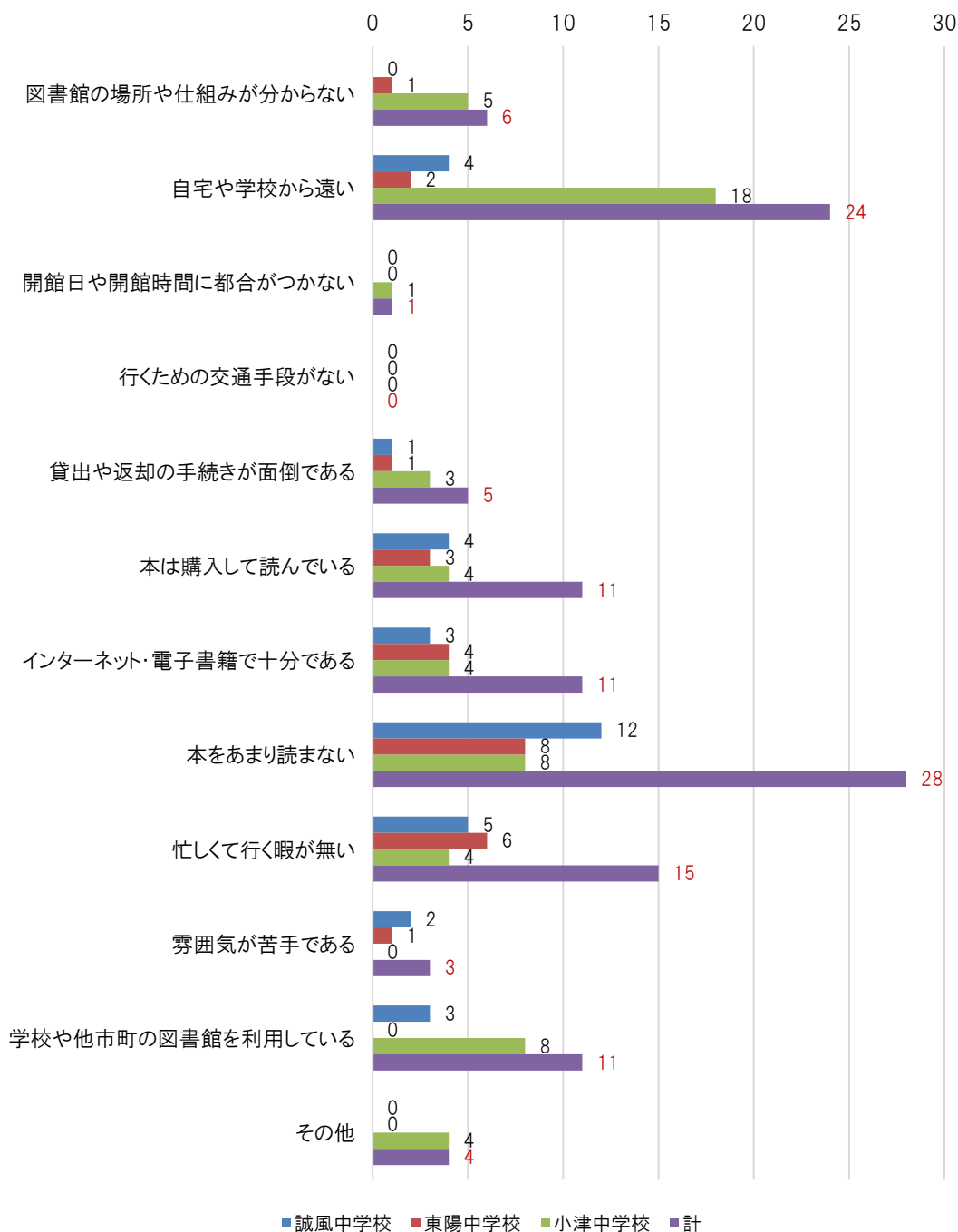
泉大津市立図書館を毎月1回以上利用している中学生は全体の9.5%という結果となった。特に距離が離れている小津中学校では、33.0%の生徒が「過去に利用したことがない」と回答している。



イ 「泉大津市立図書館を利用しない理由を教えてください」

問1で「過去に利用したことがない」と答えた人にその理由を尋ねたところ、もっとも多かったのが、「本をあまり読まない」ということがあがった。また小津中学校の生徒は「自宅や学校から遠い」「学校や他市町の図書館を利用している」というだけではなく、「図書館の仕組みが分からない」との回答が多いことが分かった。

また、その他として「建物が古い」「興味ない」「TSUTAYAに行っているから」「和泉市に住んでいるから」という意見があった。

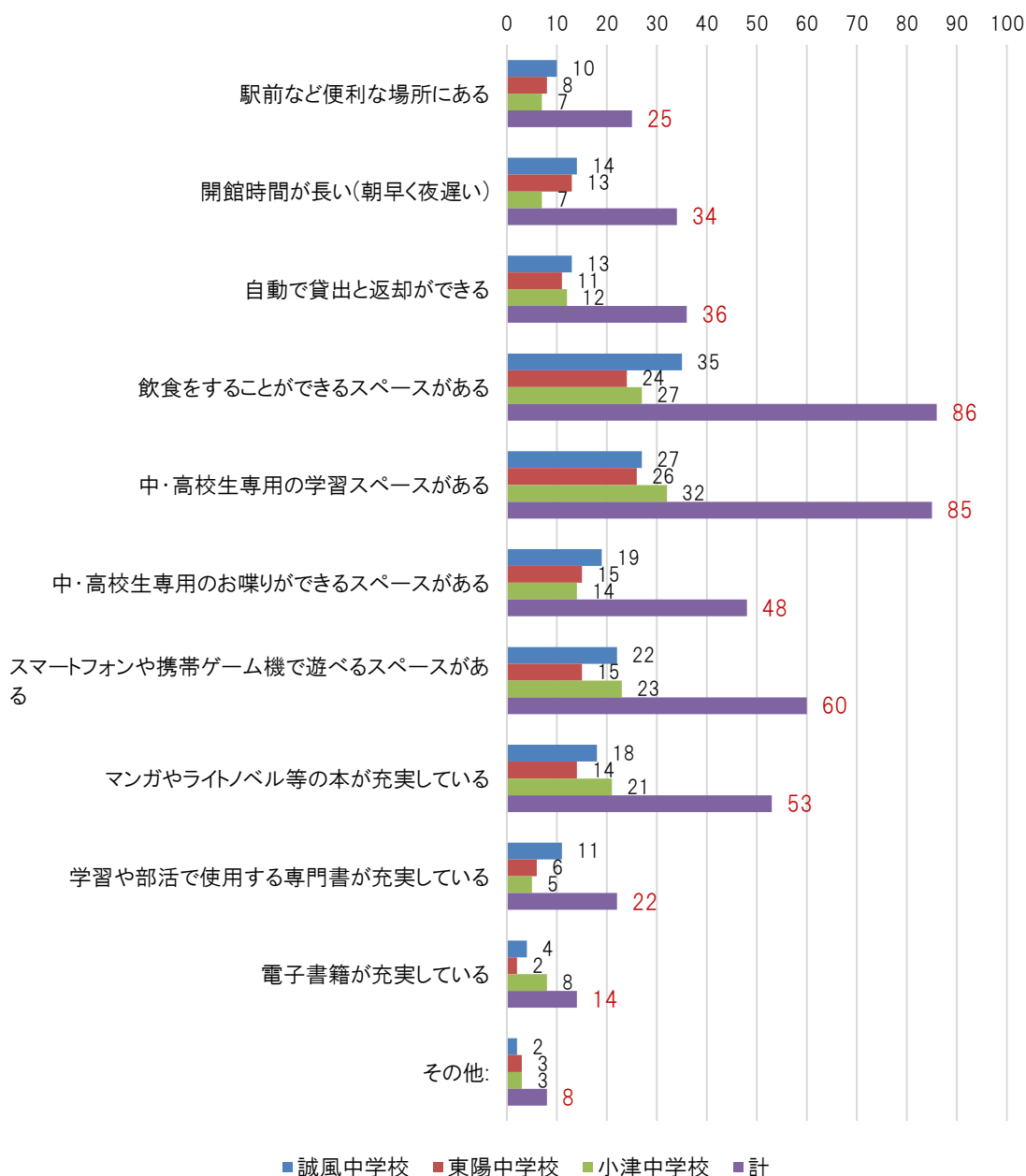


② 図書館を利用したくなる機能について

ア 「泉大津市立図書館を利用したくなる機能を教えてください」

中学校によって多少のバラつきはあるものの、「飲食をすることができるスペースがある」「中・高校生専用の学習スペースがある」が上位となった。また次いで、「スマートフォンや携帯ゲーム機で遊べるスペースがある」「マンガやライトノベル等の本が充実している」「中・高校生専用のお喋りができるスペースがある」が上がった。

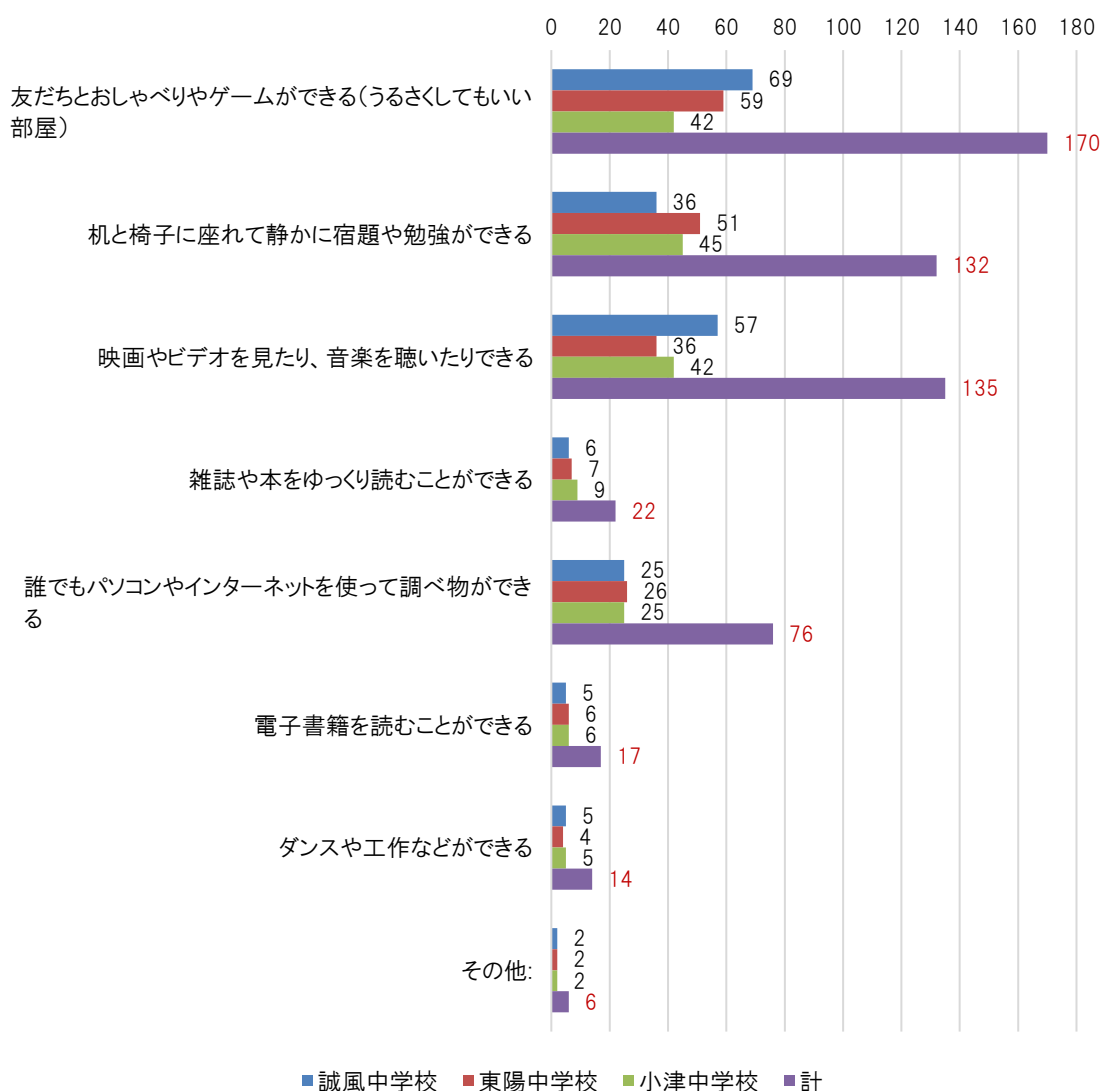
また、その他として「ピアノなどがあり、楽器が吹ける場所」「学校に行く前にサッと本を借りられる、制服のままで朝早く入れる」「しゃべりながら学習するスペース」「ビデオを見られる」「家が近い」「楽に勉強できるところがある」という意見があった。



③ 中高生専用スペースについて

ア 「図書館に中学生・高校生の専用スペースができるとしたらどのようなスペースがあったらよいと思いますか」

もっとも多かったのが、「友だちとおしゃべりやゲームができる（うるさくしてもいい部屋）」で全体の50%以上の生徒があげている。次いで「机と椅子に座れて静かに宿題や勉強ができる」「映画やビデオを見たり、音楽を聴いたりできる」の3つで76.4%を占めている。次いで「誰でもパソコンやインターネットを使った調べものができる」があがり、どの中学校もほぼ同じ傾向となった。



④ その他自由意見について

■ 飲食について

- ・ 飲食はなるべく無しでお願いしたい。
- ・ 飲食を OK にする。小さい子が遊べるスペースを作る。商品を売って、食べて遊べるスペースを作る。

■ YA コーナーについて

- ・ 上の部屋のスペースを広げて欲しい。上の部屋で飲食 OK にして欲しい。

- ・最近できた2階のYAコーナーを良く利用している。あんな感じの場所をもっと作って欲しい。
- ・もっと2階の所に椅子を置いて、うるさくしても良いようにしたら良いと思う。1階では勉強しても良いようにしたら良いと思う。
- ・2階のスペースで勉強したいのに遊んでいる人がいて、集中できなくて自分も少ししゃべってしまうことがある。

■スペースや使い方について

- ・たまに行って、本を借りて読むのが好き。私は本がとても好き。だから、もっと色々なジャンルの本を置いてくれたら嬉しい。マンガ、テレビ、リラックススペースなどがあったら図書館へ行きたくなる。
- ・小さい子どもがわいわい楽しく本を読めるスペースと静かに本を読んだり、勉強できたりするスペースを分けて欲しい。
- ・泉大津市立図書館は、好きな本を探しやすいのでとても良いと思う。
- ・1度、2階で勉強をしたいときに行った時、スマホをしていたりしゃべっていたりと少しうるさくあまり集中できなかったため、問4で書いているように「うるさくしてもいい部屋」を作ってもらい、しゃべったりスマホをする人はそこを使い、本当に勉強したい人が今ある2階のスペースを使えば良いと思う。本はたくさんあってとても良い。もう少し児童用の小説なども増やして欲しい。部活の後に行きたいときもあるので、もう少し開館時間を長くしても良いかなと思った。
- ・宿題をする場所を増やして欲しい。
- ・話しても良いスペース、学習しても良いスペース、本を読むスペースを作って分けて欲しい。話しても良いスペースと学習しても良いスペースは飲食OKにして欲しい
- ・1人～5人くらいの個人的なスペースが何個もあれば、宿題をしたりしゃべったりするために行く人が増えると思う。
- ・テレビの台数や時間を多くすると良いと思う。飲み物を飲んでも良いスペースを作ると良いと思う。
- ・学年ごとに分けられている部屋が良いと思う。
- ・しゃべって勉強ができるのが良い。

■機能について

- ・小さい頃はお父さんと一緒に借りに来ていたけど、最近はあまり来ない。返却BOXがあるのが良いと思う。
- ・本を購入できる場所を作って欲しい。
- ・最近のビデオや映画を見たい。
- ・駐車場の台数を広くして欲しい。空調を良くきかせて欲しい。マンガ、雑誌等を増やして欲しい。スマホで貸出し、返却できるようにして欲しい。2階を学習スペース、本を読むところにして欲しい。換気を良くして欲しい。
- ・図書館は家で勉強がしにくかったりするとよく利用させてもらっている。2階にも行けるようになり、クッションなども置いてありとても良い。良く使う。落ち着ける。雑誌なども置いていて、買うのを忘れてもう販売されていないときに読めるのでとても嬉しい。ビデオなどもあってとても良い。中学校の目の前にあるので道に迷いにくい。
- ・調べものをするときなどに助かっている。
- ・図書館での広告があまりない。だから、何かイベントを考えられるのであればしたら良い。図書館だ

けでなく、様々なことができる場所にしたら良いのではないか。イメージとしては、静かにしていなければならない場所などのイメージがあるから、もっと何かしなければならぬ。泉大津の遠い近いなどの差をなくして欲しい。

- ・誰でもパソコンなどを使うことができる所を時間で切ることや予約、インターネットでもできるようにしてもらえたら嬉しい。
- ・座って読む際に、椅子がゆったりしているのが良い。座布団が敷いていたり、ソファだったり。
- ・机や椅子が古いから新しくして欲しい。学習スペースをもっと欲しい。テレビなどをもっとドラマを増やして欲しい。

■施設について

- ・トイレをきれいにして欲しい。
- ・トイレが少し汚いと思う。鏡が少しくもっているような気がする。

■配架について

- ・マンガを読めるようにして欲しい。
- ・入れて欲しい本の募集を増やして欲しい。

■移転について

- ・駅前商業施設では、書庫のスペースが取れないと思う。書庫の本を読みたいと思っても、その場ですぐに手に取れないと、「もう読まなくていいや。」とってしまうかもしれない。だから、現在の本館はそのままにして、駅前によく駅を利用する高校生や大人向けの本がたくさん置いてある「サブ図書館」のようなものにすれば良いと思う。
- ・図書館は今の場所のままが良い。東陽中学校が病院と近く、学校の帰りに立ち寄れたり、病院ですることが無かったりしたらすぐに借りに行けるから。
- ・図書館の場所移転させないでください。今の場所でも良いと思う。

■その他

- ・私は高校に行くためにいつも難しい本を読んでいる。だんだん読んでいくうちに好きになってくる。
- ・泉大津市立図書館にビジュアル歴史大辞典のシリーズはありますか。
- ・自分は、わざわざ図書館まで行くのは面倒だし、自分の好きそうな本なども無さそうなのであまり行くことは思わない。
- ・図書館は家のような。とても勉強が楽しく、はかどる。本がとても面白い。私は将来、図書館員になりたい。

7 高校生アンケート

(1) 属性

① 性別

	泉大津高校
男性	58
女性	51
無回答	2
計	111

② 学年

	泉大津高校
1年生	36
2年生	38
3年生	37
	111

③ 在住の校区

	泉大津高校
戎小学校	3
旭小学校	3
穴師小学校	2
上條小学校	2
浜小学校	7
条東小学校	3
条南小学校	4
楠小学校	5
その他:	59
無回答	23
合計	111

④ 現図書館への交通手段

	泉大津高校
徒歩	2
自転車	94
その他:	7
無回答	8
合計	111

(2) 調査方法

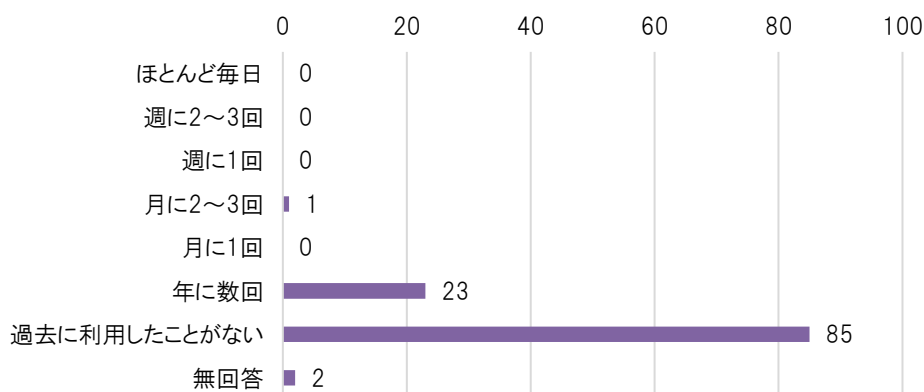
調査対象となった学年ごとに1クラスを選択し、クラス全員にアンケート調査用紙を配付し回答してもらった。

(3) アンケート結果

① 利用状況について

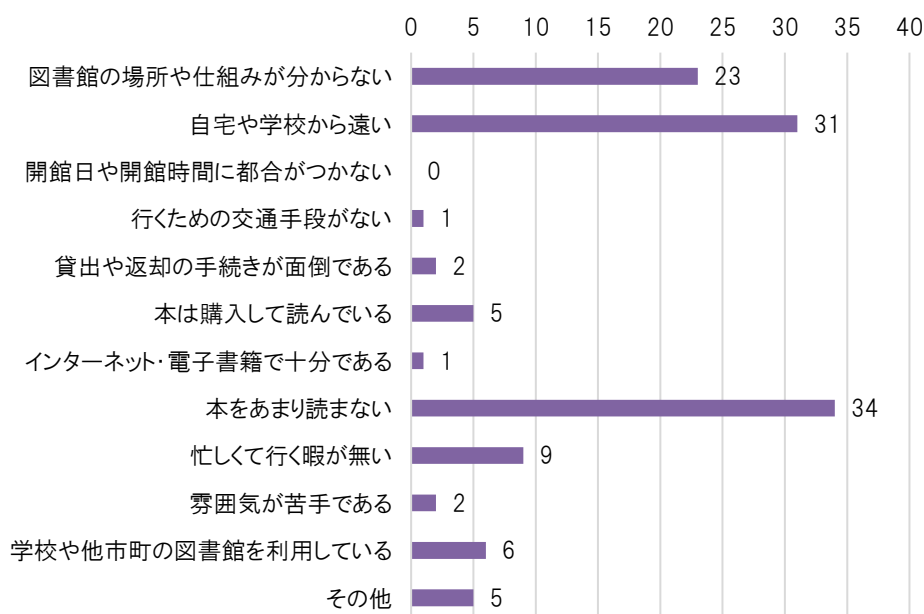
ア 「泉大津市立図書館の利用頻度を教えてください」

泉大津市立図書館を「過去に利用したことが無い」生徒が76.5%と多かった。主に市外から通学している生徒であった。



イ 「泉大津市立図書館を利用しない理由を教えてください」

図書館を利用しない理由について、「自宅や学校から遠い」が27.9%、「図書館の場所や仕組みが分からない」が20.7%と多くなった。また、「本をあまり読まない」という生徒も30.6%おり、中学生と同じく、図書館に通わない理由で一番多い結果となった。またその他として、「存在を知らない」「場所をしらない」という意見があがった。

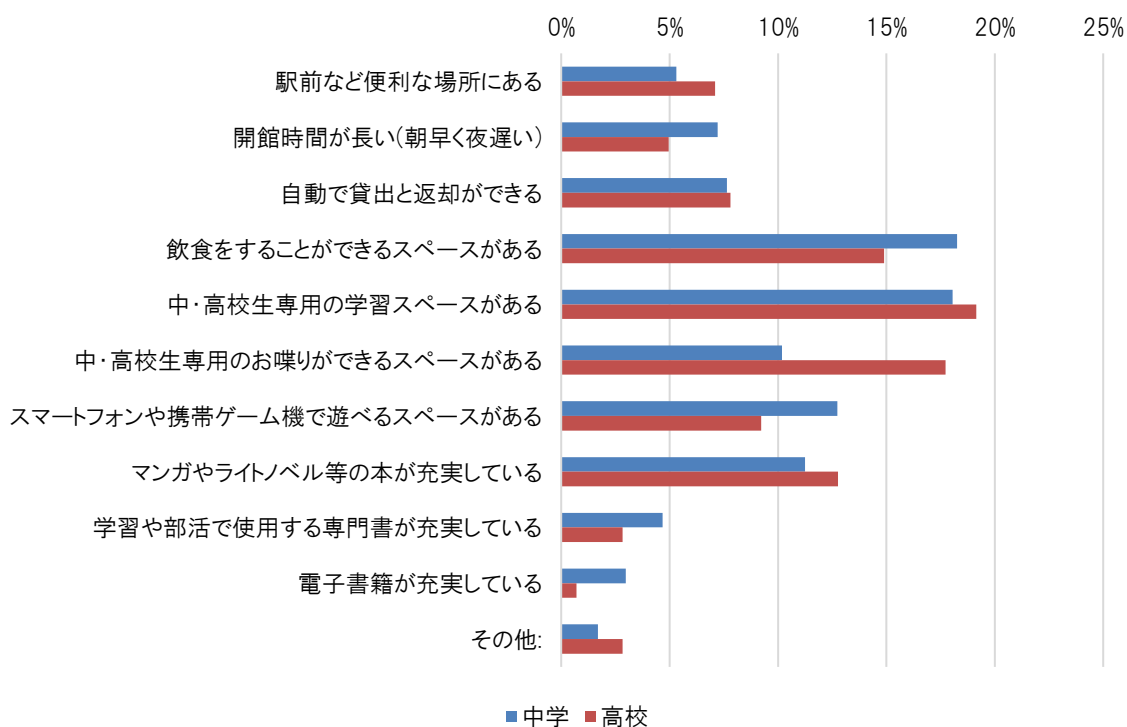
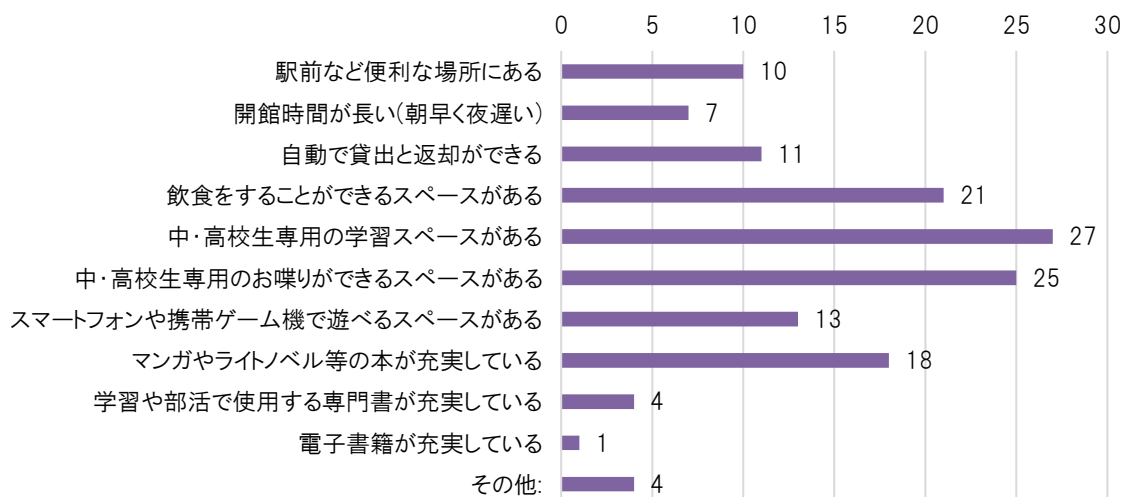


② 図書館を利用したくなる機能について

ア 「泉大津市立図書館を利用したくなる機能を教えてください」

もっとも多いのは、「中・高校生専用の学習スペースがある」であり、24.3%の生徒が選択している。また、続いて「中・高校生専用のお喋りができるスペースがある」となっており、自分たちの世代の専用空間があることが望ましいという回答が多くなっている。中学生の回答と比較すると、「中・高校生専用のお喋りができるスペースがある」の回答が多く、「スマートフォンや携帯ゲーム機で遊べるスペースがある」「飲食をすることができるスペースがある」の回答が少なくなり差がついていた結果となった。

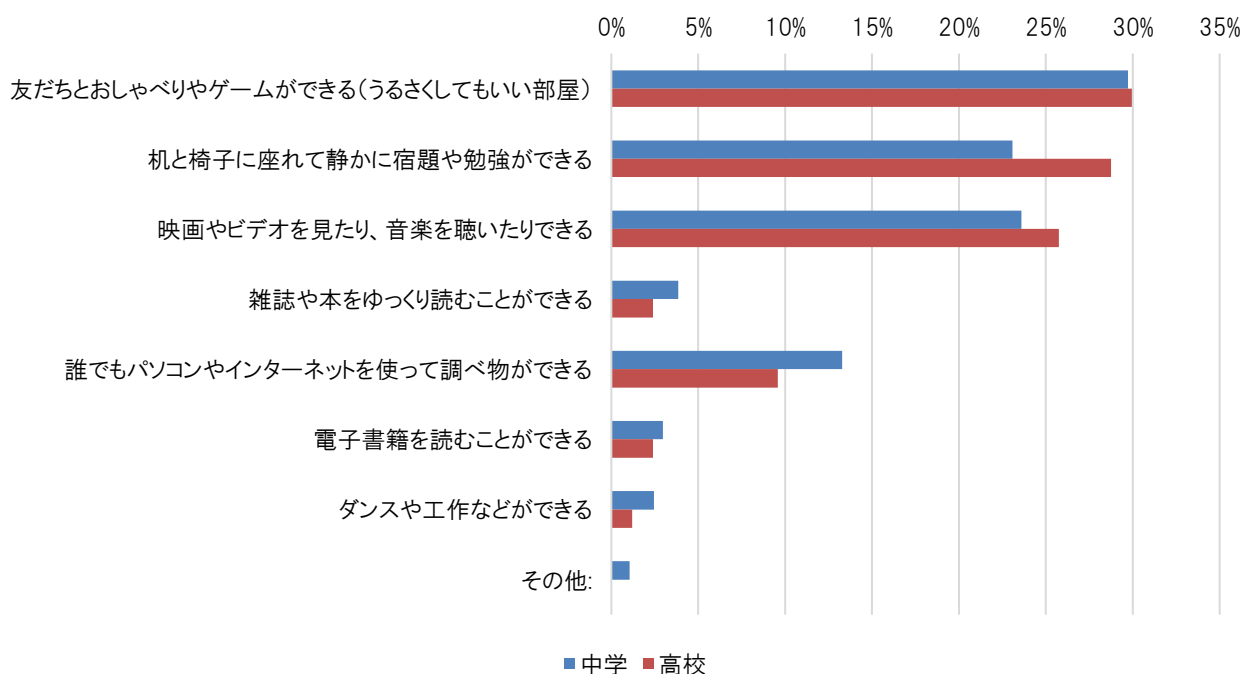
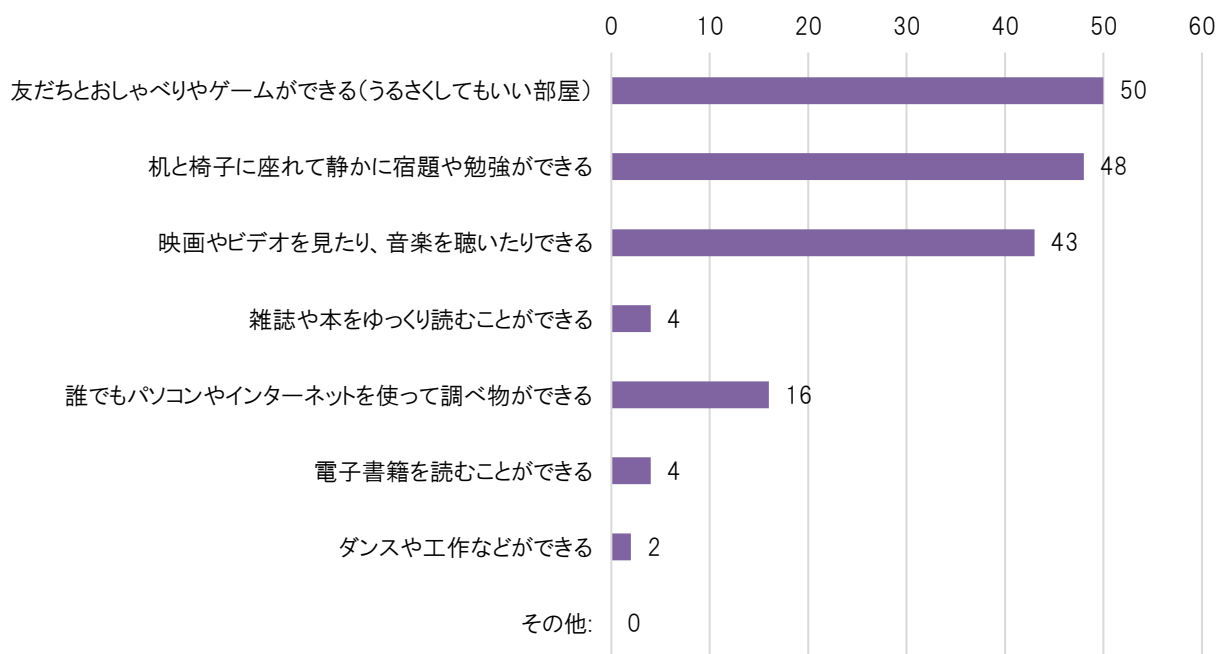
また、その他として、「近い」「行ったことがないので分からない」「利用したくない」「分からない」という意見があがった。



③ 中高生専用スペースについて

ア 「図書館に中学生・高校生の専用スペースができるとしたらどのようなスペースがあったら良いと思いますか」

「友だちとおしゃべりやゲームができる（うるさくしてもいい部屋）」が最も多く 29.9%となり、「机と椅子に座れて静かに宿題や勉強ができる」「映画やビデオを見たり、音楽を聴いたりできる」と続きこの3つで 84.4%を占め、中学生とほぼ同じ傾向となった。



8 新図書館を考える市民ワークショップ

(1) 開催概要

① 第1回

日 時：平成 30 年 8 月 26 日 10：00～12：00

場 所：市役所 3 階 大会議室

参加者：21 名

内 容：1. ワークショップの実施の趣旨説明

2. 事務局より最近の図書館のトレンドについて情報提供

3. 図書館を駅前商業ビルに移転することを検討するため、4 班に分かれてワークショップを行い、

①「図書館」に対する想いの共有、②現在の図書館の課題や新図書館についての意見交換

4. 各班で出た意見発表

② 第2回

日 時：平成 30 年 10 月 8 日 14：00～16：00

場 所：市役所 3 階 大会議室

参加者：14 名

内 容：1. ワークショップの実施の趣旨説明

2. 事務局より、市民アンケート結果（速報）、図書館を取り巻く環境の変化について情報提供

3. 新しい図書館の役割を検討するため、3 班に分かれてワークショップを行い、

①居場所として新図書館に求められる機能、②学校図書室との連携の進め方についての意見交換

4. 各班で出た意見発表

③ 第3回

日 時：平成 30 年 10 月 28 日 10：00～12：00

場 所：市役所 3 階 大会議室

参加者：12 名

内 容：1. ワークショップの実施の趣旨説明

2. 事務局より新図書館のイメージ共有（機能・面積・ゾーニング案の説明）

3. 子育て世代（親子）、中高生・20 代前後、高齢者、それぞれの立場での利用イメージを検討

①こんな使い方ができる、②利用にあたっての課題
（ワールドカフェ方式で実施）

4. 各班で出た意見発表

(2) 意見まとめ

① 第1回

分類	良い点	改善点	他市事例の良い点
運営	<ul style="list-style-type: none"> ・在庫の無い場合はすぐに他図書館から取り寄せてくれる ・開架に無い本を書庫からすぐに取りに行ってくれる ・職員さんの対応が誠実 ・こじんまりとした場所で職員さんとの距離が近い ・団体貸出しの選書をしてくれる ・本を頼むと新しい本を買ってくれる ・図書館の方が本を一緒に探していただけるので助かる 	<ul style="list-style-type: none"> ・短期間で運営側が変わるのでスタッフと利用者の距離感がある ・イベントを増やしてほしい（講座や子育て支援、工作等） ・本を借りるとき、何を借りるのが見られるのが嫌 ・開館時間が 17 時までだと返却できない 	<ul style="list-style-type: none"> ・（和泉市）生活塾という活動があり、毎回テーマが違う講座（主に生活環境）が開催されている ・（和泉府中図書館）自動で借りられ周りの人に見られることがない ・（和泉市）21：00まで開館している ・（伊丹市）市民と連携し、年間 100 以上のイベントを開催
立地	<ul style="list-style-type: none"> ・駐輪駐車しやすい ・立地がちょうどよい 		
書架	<ul style="list-style-type: none"> ・本を探しやすい ・インターネットで検索・予約ができる ・リニューアル後（2階）、小中高生が集まるようになった 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童書の書架が少ない ・新しい本で開架がいっぱいになり、欲しい本は書庫にあることが多い ・2階にヤングアダルトコーナーが移動したので本が探にくい ・英語の本が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般書の書架の高さがもう少し低いように思う ・（貝塚市・川西市）ジャンル別になっており探しやすい。泉大津市の図書館は作家別 ・蔵書（展示されている）が多いため、目的以外の物を見つけられて楽しみがある
スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・絨毯のコーナーがある ・親子で本にゆっくりと触れ合っている ・にんじんサロン主催の子育て中の方を対象にした「保育付き読書タイム」に図書館が協力している 	<ul style="list-style-type: none"> ・座る場所が少ない ・ゆっくりと本を吟味できない ・読書スペースを広くしてほしい ・自習室がない ・静かな場所と声を出せる場所が分かれていればよい ・軽食スペースがほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・（高石市）遊ぶスペースと図書館が同じフロアにあり、こどもの一時預かりもあり、子育て中の人には利用しやすい ・雑誌が読めたり、話すことができるスペースもあるところもある
設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオコーナーを子どもがよく利用している 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館との連携、IT化が進んでいない ・他市との連携、借りられるが予約できない ・洋式トイレに改修してほしい ・返却ポストが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・（和泉府中図書館）トイレが綺麗 ・返却ポスト（駅前、公共施設）
駅前移転について	<ul style="list-style-type: none"> ・駐輪場が少ない ・近隣の本屋やカフェの営業に影響しないか ・漫画があれば子どもや学生が増えると思う ・教えあい、話せる（私語 OK） ・飲食持ち込み可のスペース ・買い物と本を借りることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・書庫の重みに耐えられるのか ・軽食を食べられるスペースが欲しい ・フリーWi-Fi、電源と座席 ・スペースは広くなるのか、障がい者のためのスペースはあるのか ・若者は電車通学なので駅前にあると利用しやすい 	

② 第2回

分類	居場所としての図書館
居場所としての図書館	<ul style="list-style-type: none"> ■ 図書館ネットワークについて <ul style="list-style-type: none"> ・駅前図書館ですべてをかなえるのは難しい。（駅前移転で利用しづらくなる人もいる。） ・図書館機能（居場所）を分散させるのもあり。 ・本に触れあうネットワーク（学校・公共施設・自治会など。例えば体育館にスポーツの本など） ・読書量を増やすことが目的なのか、居場所をつくるのが目的なのか。（小学校の図書開放などは居場所づくりにはなっているが、読書量を増やすことにはつながっていない（ゼロではないが）） ・借りるときは目的を持って行くので良いが、返す時に時間がない。返却ポストなどは駅前にあるとよい ■ マナー <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの図書館の良さ、伝統、マナーを守る（静かにすることも大事） ・飲食は本が汚れるのでだめ。 ・爪を切らないください！ ■ 高齢者を活動的に <ul style="list-style-type: none"> ・講座の開催（発声の練習、人形劇づくり、絵本づくり）→グループの結成を目指したい ・落語をききたい ・ビデオ鑑賞 ・うたごえ喫茶 ・地域の団体のミニコンサート ・ギャラリー（広い空間が欲しい） ■ IT・情報 <ul style="list-style-type: none"> ・雑誌、新聞のスペースを増やす ・イベントスペース（音響、くつろぎ） ■ ヤングアダルト <ul style="list-style-type: none"> ・塾、英語教室、ハングル教室、日本語教室 → 外国人との交流 ■ 就労支援 <ul style="list-style-type: none"> ・就労支援まで必要か？ テクスピアとの役割分担も必要
学校図書との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに本を読んでもらうためには、手の伸びる場所（学校、できれば教室）に本があるとよい。 ・貸し出しの配達等があるとよい ・図書館は本のプロ、新刊本をよく知っている。学校の先生との情報交換を！ ・学校の先生が本を読んでもらうと良いが、忙しいし、能力も必要。 ・子どもに本を読んでもらうには、親が読まないといけなし。親の教育が必要。 ・学校図書の購入費が少ない。もっとお金を使ってほしい。 ・旭小学校で、子どもたちにお勧めの本を1冊、学校に寄付するという取り組みを行っていた。 ・あなたの一冊、私の一冊、本の福袋（傾向別） ・本のコンシェルジュ（SNS）、本屋大賞
市民団体・利用者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・活動支援（図書館が団体を育てる） ・活動したい人を支援、あつせん ・利用者側にも動いてもらう（ちょっと負担してもらう）
これからの図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館は待っているだけではだめ。 ・図書館が外向く機会を増やす（市民向け） ・図書館が学校を回る（ボランティア） ・図書館長が大切
駅前図書館について	<ul style="list-style-type: none"> ・人気の本を駅前へ（若者向けなど、利用者を想定） ・コーナー分け（利用目的別） 静か・賑やか等 ・駅前自転車駐輪場（有料で子どもが利用できない、立体で上にあげるのが大変等） ・土日でも利用できるように。 ・ダイエーがいつまで残るか？（中途半端にするぐらいなら、全フロアを買い取ることも考えられる。） ・ランニングコスト、駐輪場対策等も含め、移転するメリットを示すことが必要。

③ 第3回

世代	機能	意見
子育て世代	レイアウト	<ul style="list-style-type: none"> ・静的なエリアと動的なエリアを反対にレイアウトしてもよいのでは（EVとの関係性） ・子どもが大声を出しても周囲の人に怒られないレイアウト
	ベビーカー・授乳室・トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす・ベビーカーを置くスペース（プレイスペース、EV、カウンター付近など） ・ベッド（赤ちゃんが寝た場合） ・授乳室（調乳できる設備）、児童用トイレが隣接してあるところが良い。（オムツ交換台など）
	乳幼児向けプレイスペース	<ul style="list-style-type: none"> ・小さなお話し会などをするような場所が必要（ちょっとすぎるスペースだと使いにくい） ・素足で入って遊べるように。 ・高架下の子育て向け施設がお母さんたちに人気。遊び、プレイコーナーは必須
	スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の本に専門知識のあるスタッフによる選書が必要 ・障がいを持つ子どもに対するケアも必要
	インテリア	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども用の低いテーブル、椅子は必要 ・開架の棚は、子どもがわかりやすいように色分けしてほしい。
中高生 20代前後	ヤングアダルトコーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・一般の利用もあるので、区切らない方がよい。（一般、ヤングアダルト、児童が一体となった空間がよい。ヤングアダルトの本には、大人が読むにも良い本がある。） ・おしゃべり・ゲームは別の場所とすべき。 ・カフェの代わりにヤングアダルトコーナーを設置しては。（オープンスペースで外からも目が届く）
	自習室	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディ室はあまり密室にしない方がよい。（ブラウジングコーナーを活用して、目の届く範囲に） ・ガラス張りの区切られた空間が少しはあってよいのでは。
	漫画	<ul style="list-style-type: none"> ・貸し出し無しであればよい。 ・海外の漫画があるとよい。（同じ漫画を数か国語でそろえると、外国語に興味を持つきっかけとなる。電子書籍にするとよい。） ・歴史の漫画を読んだ後、活字の本も読みたくなることがある。歴史の漫画は貸し出しがないと読み切れないのでは。
	発表・イベント空間	<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベント（映画の上映、工作、人形劇、ビブリオバトルなど）を開催できるよう、もう少し広い（四角い）空間が必要。レストラン・カフェのスペースが良いのでは。（レストラン・カフェは他の階にもあるので、持ち込みができるスペースだけで良い。）
	ビジネス支援	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代が使うので、目の届く範囲に！ ・イノベーションスペースを使って子どものイベントをしてもよいのでは。 ・サポートできる専門人材が必要。（司書では難しい。）
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・集まっておしゃべりできるスペースがあるとよい（机と椅子だけあればよい） ・バイリンガルを育てる。外国文化に触れる空間も必要。
高齢者	図書コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩できるような小さな椅子があるとよい。 ・高齢者も絵本を読みたい。仕切りは無く、回遊性のある空間としてほしい。
	ゲームコーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は、高齢者の利用がほとんど、居場所づくりにはなる。 ・図書館に必要なか？ ・健康や勉強（学び）につながるゲームの内容とすべき（中高生と高齢者が交流できる（教える）ボードゲームなど）

全体 について	現行図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・完全な移転は再考してはどうか。 ・現行図書館を長期的に維持するときにかかる費用と比較検討すべき。
	エリア全体の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館だけでなく、エリア内のお店も使うような仕掛けが必要。（ゆっくりできる時間） ・施設外に樹木が欲しい。
	導入機能について	<ul style="list-style-type: none"> ・レストランはいらない。自販機ぐらいでよい。少しお茶（水分補給）ができればよい。 ・食は不要。本を大切に使う、汚さないといった公共意識を育てることも図書館の機能の1つ。 ・外にテーブル、いすのあるスペースを確保しては。 ・展示・くつろぎ・イベントスペースは詰め込みすぎ ・通勤者向けに、21時まで開けておく。 ・展示スペースが狭い。交流が生まれる空間。 ・バックヤードはもう少し広さが必要ではないか。 ・多世代の交流を生み出す空間・雰囲気づくり（ボランティアが常駐、各種イベントを定期的で開催（モフ草履づくり、ボードゲーム・カードゲームなど）） ・雑誌新聞については、様々な年代の雑誌が並んでいるとよい。 ・ビジネス支援はWi-Fiを整備すれば、海外の方も利用できる。 ・図書コーナーとトイレが遠い。多目的トイレが2か所程度必要。
	駐車場・駐輪場	<ul style="list-style-type: none"> ・無料券を出すなどの配慮が必要 ・駐輪場に余裕がない。立体だと大変。児童の自転車への配慮も必要。